

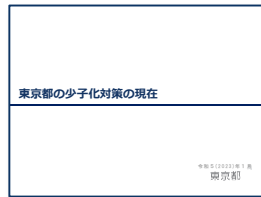
少子化対策の推進に向けた論点整理 2024



令和6（2024）年8月

望む人が安心して子供を産み育てることができる社会の実現に向けて

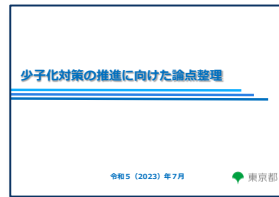
- 我が国の2023年の出生数は73万人を下回った。**100万人余りが出生した2015年以降減少傾向**が続いており、**予想をはるかに超える速さで少子化が進展**している。
- **社会の存立基盤を揺るがす少子化は国家的な課題**であり、**国が戦略的に取り組むべきもの**である。都は一刻の猶予もないとの認識の下、為しうる対策をスピード感を持って取り組むため、令和6年度予算においても、望む人の出産や子育ての希望が叶えられるよう、**多様な価値観や考え方を尊重しながら幅広い対策を盛り込み実践**している。
- 少子化の要因は複合的であり、何か一つの手立てを講じれば解決するものではない。急激に進行する少子化に対し、**これまで実施してきた多面的な取組を礎に**、最新のデータや知見を基に、少子化の背景・要因を丁寧に分析し、把握した課題や都民ニーズを踏まえ、**積極果敢に更なる少子化対策の充実に取り組む**必要がある。
- 望む人が安心して子供を産み育てることができる社会の実現に向け、本資料は、出会い・結婚、妊娠・出産、子育て、育児と仕事との両立など、**幅広い分野における来年度予算の政策検討の課題を整理**したものである。



令和5（2023）年1月

東京都の少子化対策の現在

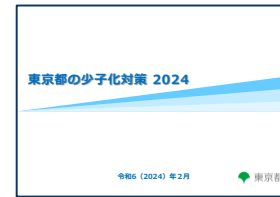
国や区市町村、民間企業等との役割分担の考え方を提示した上で、**都の少子化対策の強化策と全体像を整理**



令和5（2023）年7月

少子化対策の推進に向けた 論点整理

都の少子化の現状や要因を分析し、**令和6（2024）年度予算に向け政策検討における課題を整理**



令和6（2024）年2月

東京都の少子化対策 2024

論点整理を踏まえ、**令和6（2024）年度に実践する少子化対策の強化策と全体像を整理**



令和6（2024）年8月

少子化対策の推進に向けた 論点整理 2024

都の少子化の現状や要因を深掘りし、**令和7（2025）年度予算に向け政策検討における課題を改めて整理**

都の主な少子化対策（令和6年度予算）

結婚

妊娠・出産

乳幼児期

学齢期以降

18歳以降

子供に対する
シームレスな
支援に取り組む

子育て費用支援等

妊娠時
6万円

出産後
10万円

1歳又は2歳前後
6万円

経済的支援に加え、
相談支援や家事・育児
のサポートなど、
切れ目ない支援を実施

018
ゼロイチハチ
サポート

018サポート（所得制限なく0～18歳の子供たちに一人当たり月額5千円を支給）

・ 子供・子育てメンター“ギュッとチャット”・0-2歳 第2子以降3-5歳 保育料無償化

拡 ファミリー・アテンダント

・ 医療費助成事業（乳児～高校生等）

新 インフルエンザ予防接種費用支援（13歳未満）

新 こどもDXの推進（プッシュ型子育てサービス・母子保健オンラインサービス・保活ワンストップ・給付金手続の利便性向上）

新 学校給食費の負担軽減

拡 私立中学校等授業料の助成

拡 高校等授業料の実質無償化

新 東京都立大学等
授業料の実質無償化

出会い・結婚への支援

拡 結婚支援マッチング事業

・ 結婚情報の発信
（TOKYOふたりSTORY）
・ 東京ライフデザイン
シミュレーター

拡 結婚応援イベント

・ 結婚応援パスポート

拡 マッチングアプリにかか
る消費者被害への対応

不妊治療・妊娠支援等

・ 特定不妊治療費（先進医療）助成
・ 不妊・不育症検査等助成
・ 卵子凍結への支援
・ 凍結卵子を使用した
生殖補助医療への支援

・ 卵子凍結や不妊治療を支援する
制度を整備した企業への助成

拡 プレコンセプションケアの推進

新 妊娠や子育て等の知識に係る
企業内の普及啓発

保育・教育の充実

・ 保育の待機児童対策
（保育所等の整備促進、

拡 人材の確保・定着の支援、
利用者支援の充実）

拡 多様な他者との関わりの機会の創出

拡 「とうきょう すくわくプログラム」
の都内全域展開

拡 ベビーシッターの利用支援



拡 学童クラブの整備促進・質の向上

新 認証学童クラブ制度の
創設に向けた取組

・ 受験生チャレンジ支援貸付
・ 東京都立学校等給付型奨学金

新 中小企業従業員融資
（個人融資「まなび」）

住宅

拡 東京こどもすくすく住宅の供給促進

・ 結婚予定者のための都営住宅・JKK住宅の提供

・ 「子供を守る」住宅確保促進事業

・ 若年夫婦・子育て世帯への都営住宅優先入居

就労・職場
環境整備

新 伴走型若手DX人材育成事業

・ 女性の再就職支援（新 女性デジタルカレッジ事業等）

新 育児・介護との両立のためのテレワーク導入促進事業

新 男性育業推進リーダー事業

拡 働きやすい職場環境づくり推進事業（奨励金）

拡 エンゲージメント向上に取り組む企業への奨励金

拡 働くパパママ育業応援事業

・ 正規雇用転換後の従業員も安心して働ける環境整備に助成

社会気運・環境整備

拡 子育て応援スペース

拡 こどもスマイルスポット

拡 こどもスマイルムーブメント

・ 男性の家事・育児参画に向けたマインドチェンジ

区市町村

・ 地域の実情に応じた少子化対策を積極的に後押し

目次

I 少子化の概況及び東京の特性

- 様々な要素が複合的に絡み合い、急速に進む世界・日本の少子化…………… 9ページ
- 社会経済状況や価値観等の変化に伴い、未婚化・晩婚化が進展…………… 10ページ
- 晩産化が進行し、夫婦の子供数が減少する中、行政へのニーズが多様化…………… 11ページ
- 核家族・共働き世帯の増加により、一層の家庭と仕事の両立支援が求められる…………… 12ページ

II 分野ごとの現状・分析と今後の政策検討課題

- 論点①：出会い・結婚への希望を叶える取組（出会い・結婚）…………… 15ページ
- 論点②：安心して妊娠・出産できる環境づくり（妊娠・出産）…………… 16ページ
- 論点③：子育て期を通じた支援の充実（子育て期の支援）…………… 17ページ
- 論点④：安心して学ぶことができる環境や子育てしやすい住環境の整備（教育・住宅）…………… 19ページ
- 論点⑤：若年層や子育て世帯が将来展望を描ける就労・職場環境整備（就労環境・職場環境）…………… 22ページ
- 論点⑥：子供・子育てにやさしい社会づくり（社会気運・環境整備）…………… 25ページ
- 少子化対策の更なる充実に向けて ～今後の政策検討課題～…………… 27ページ

III 取組のバージョンアップに向けて

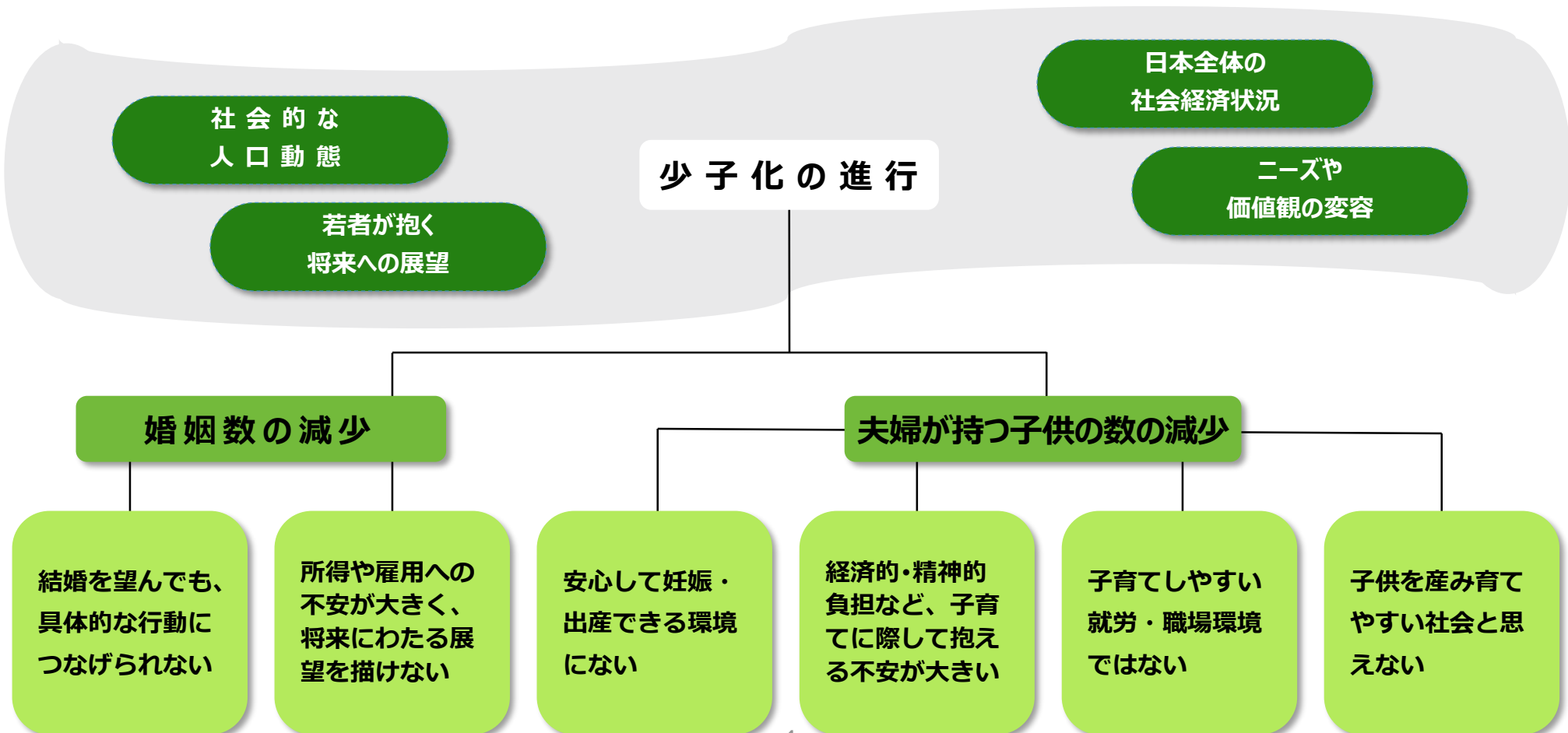
- 不断に取組をバージョンアップ…………… 29ページ
- 令和6年度 取組の概要…………… 30ページ

IV 附属資料

- 東京都「令和6年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」…………… 33ページ
- 有識者等からの意見聴取の概要…………… 56ページ

少子化の背景と要因

- **社会経済の存立基盤を揺るがす少子化は、我が国全体で急激に進行している**
少子化の背景には、社会のファンダメンタルズに起因する様々な要素が複合的に絡み合っている
- その要因は、「**婚姻数の減少**」と「**夫婦が持つ子供の数の減少**」に大別される
- 都は、**社会経済状況**や**都民ニーズ**などの変化も踏まえつつ、**望む人が結婚し、子供を産み育てやすい社会**の実現に向け、**多様な価値観や考え方を尊重しながら、多面的な取組を推進していく必要がある**



都の基本スタンスと各主体の役割分担

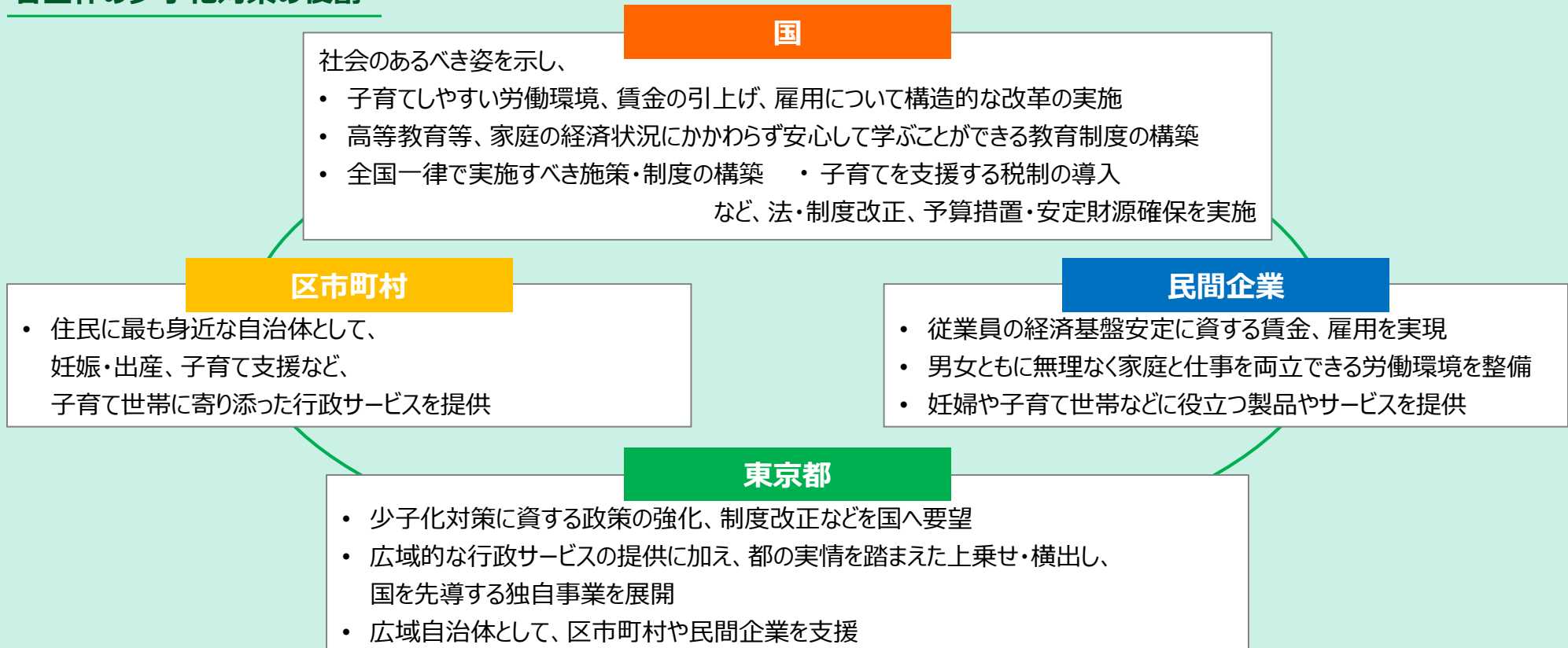
都の基本スタンス

少子化は、社会の存立基盤を揺るがす国家的な課題であり、国が戦略的に取り組むべきもの

都は、一刻の猶予もないとの認識の下、国への要望にとどまらず、以下の3点を基軸に、先駆的な政策を実践していく

- 1 複合的な要因や都の特性等に対応して、多角的な観点から対策を実践
- 2 望む人が結婚から妊娠・出産、子育てをしやすいように、ライフステージを切れ目なく支援
- 3 都・国・区市町村・民間企業等がそれぞれの役割のもと連携し、社会全体で取組を推進

各主体の少子化対策の役割



都の基本スタンスと各主体の役割分担

時宜にかなった国への要望活動

- **関東地方知事会議における提案・要望**（令和5年5月）
「望む人誰もが子供を産み育てやすい社会の実現に資する取組について」
⇒ **都の提案**により、結婚から妊娠・出産、生まれた子供が健やかに成長するまで、**シームレスな支援の充実強化**に向けた様々な法改正・制度改正等を国へ求めた提案・要望
- **国の施策及び予算に対する東京都の提案要求**（令和5年6月・令和6年6月）
⇒ 少子化対策を**重要項目に位置付け**、**子育てしやすい労働環境や雇用環境の実現、全国一律で実施すべき施策・制度の構築**など、国へ要望
- **子育て世帯に対する支援の充実・強化に関する緊急要望**（令和5年12月）
⇒ 子育て世帯が抱える不安を解消し、安心して子供を産み育てることができる社会を創るため、**高等学校及び高等教育の授業料や学校給食費の無償化**などの実現を国に要望



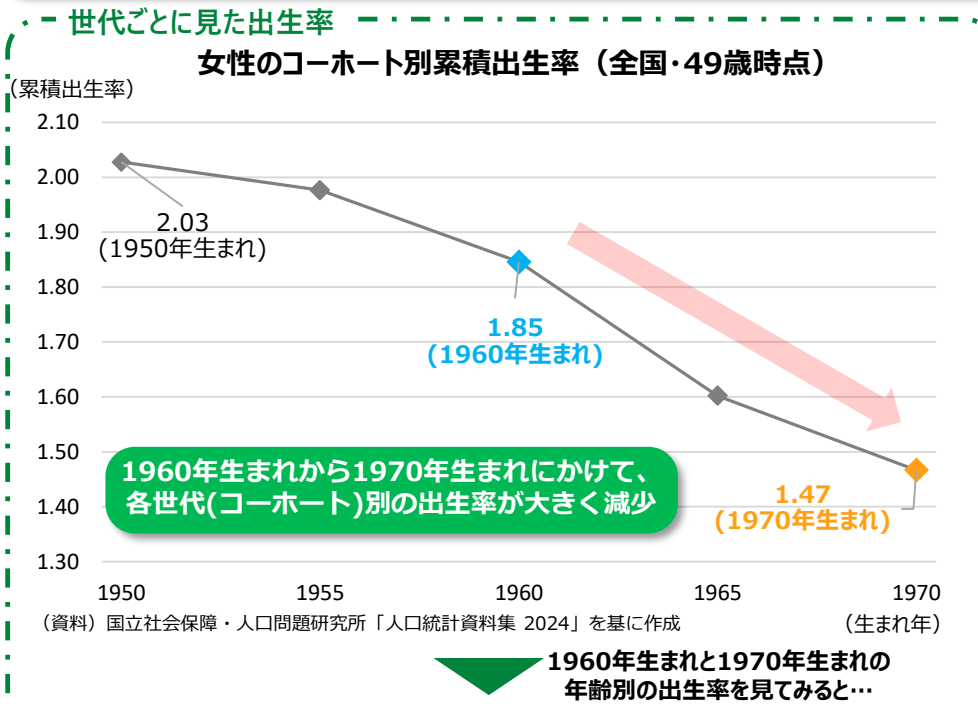
国を先導する都独自の取組

- 望む人が子供を産み育てやすい社会の実現に向け、018サポートをはじめ、卵子凍結への支援、待機児童対策など、出会いから結婚、妊娠・出産、子供の健やかな成長に至るまで、**シームレスな支援**を実施
令和6年度からは、所得制限撤廃による高等学校授業料の実質無償化や学校給食費の負担軽減に踏み出した
⇒ **018サポート**が国の児童手当の所得制限撤廃につながったように、**都の少子化対策の取組が国をリードし、社会に大きな流れ**を作っている

有識者の意見

- **都が先進的な政策を全国に先駆けて行うことは意味がある**
- 少子化対策が自治体間での競争にならないよう、**国は良い取組を国全体で保証**していく必要がある

少子化が進む背景の一つとして、日本の社会経済状況が影響を及ぼしている

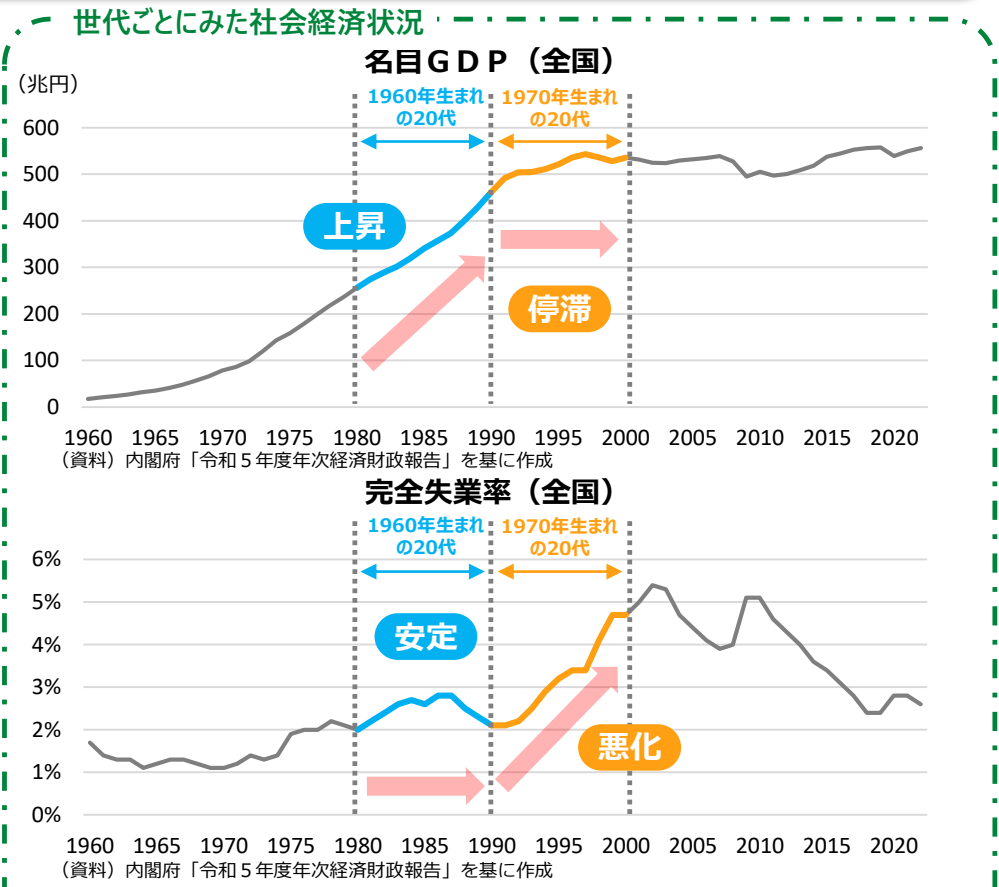


女性のコーホート別出生率（全国・5歳階級）

年齢 生まれ年	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	累計
1960年	0.02	0.35	0.84	0.48	0.14	0.02	0.00	1.85
1970年	0.02	0.22	0.54	0.45	0.20	0.04	0.00	1.47
増減	0.00	△0.13	△0.30	△0.03	0.06	0.02	0.00	△0.38

20代の出生率の減少が大きい

(資料) 国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集 2024」を基に作成



各世代が20代を過ごした時代

	1960年生まれ(出生率1.85)	1970年生まれ(出生率1.47)
経済状況	上昇	停滞
雇用環境	安定	悪化

各世代が若い頃を過ごした時の経済状況等による出生率への影響が見受けられる

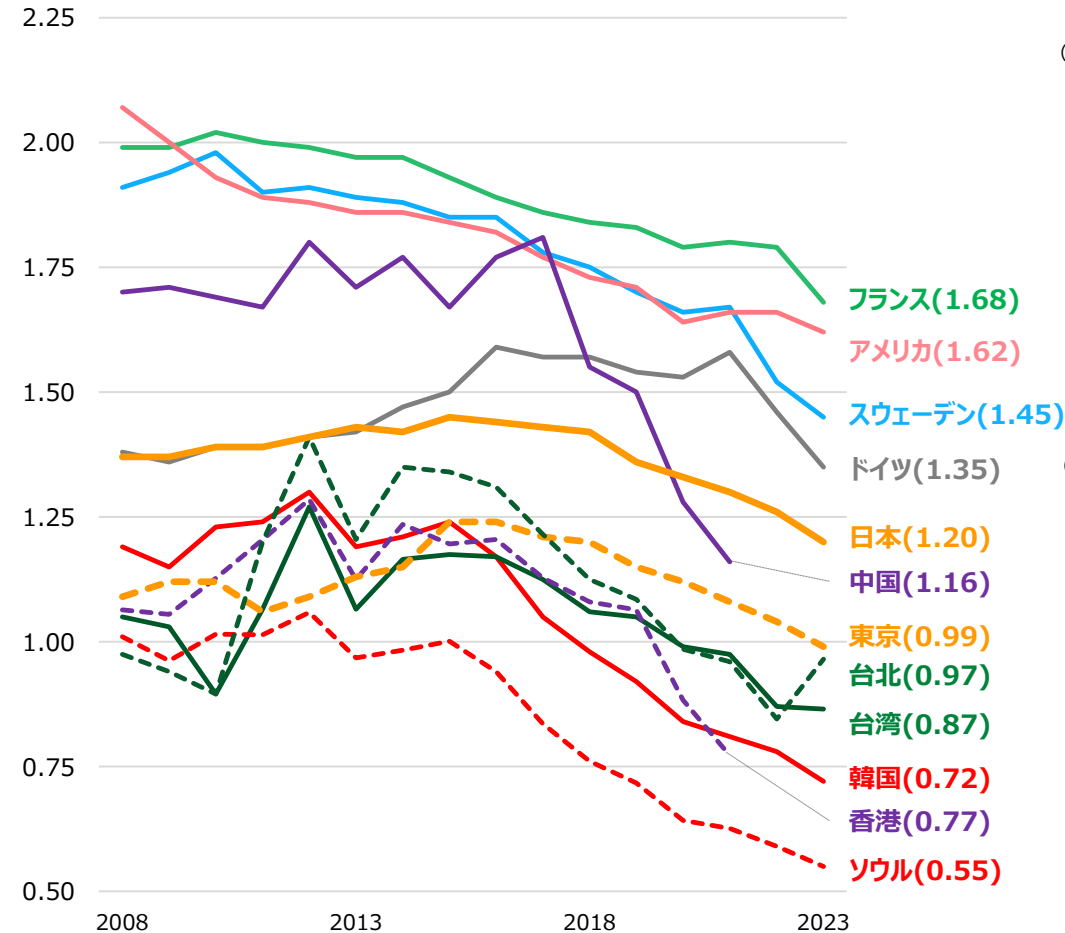
I 少子化の概況及び東京の特性

少子化は世界共通の課題

- 近年は**新型コロナウイルスの流行**に伴う行動制限等により、**国によって時間差があるものの、全世界的に少子化が進行**

各国の合計特殊出生率の推移

(合計特殊出生率)



(資料) OECD「Total Fertility rates」(2024年7月取得)及び各国統計等を基に作成

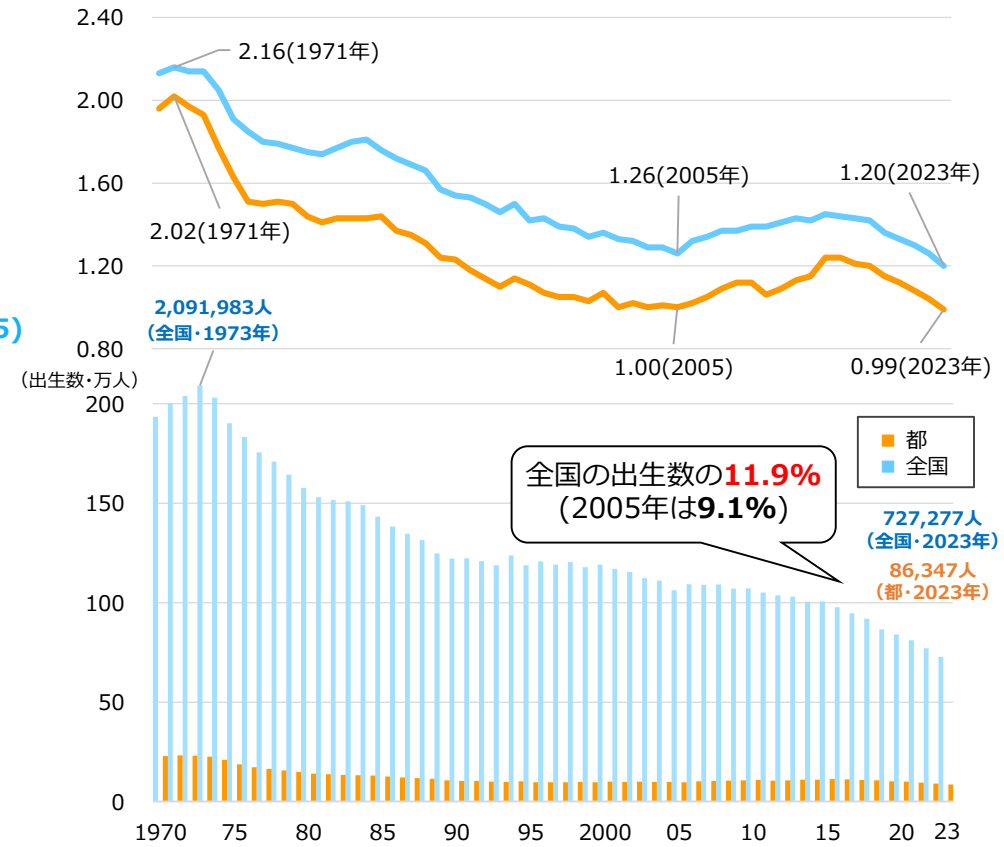
※括弧内は合計特殊出生率
中国及び香港は2021年
上記以外は2023年

日本・東京でも少子化が進行

- 国は、合計特殊出生率、出生数ともに**過去最低**
- 都も過去最低を記録し、合計特殊出生率は**1.00を下回った**
- 全国に占める都の出生数の割合は**約12%**であり、直近で合計特殊出生率が最低であった**2005年と比較して上昇**

合計特殊出生率と出生数の推移(全国・都)

(合計特殊出生率)



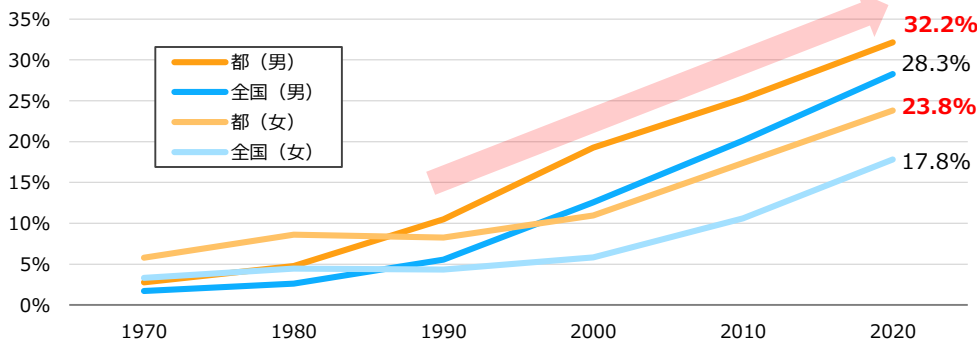
※2023年については概数

(資料) 厚生労働省「人口動態調査」及び東京都「人口動態統計」を基に作成

生涯未婚割合は大きく上昇

- 生涯未婚割合は、全国・都ともに、1990年以降**大幅に上昇**
- 都では、**50歳時点で、男性の約3人に1人、女性の約4人に1人が結婚経験がない**

50歳時の未婚割合（生涯未婚率）の推移（全国・都）

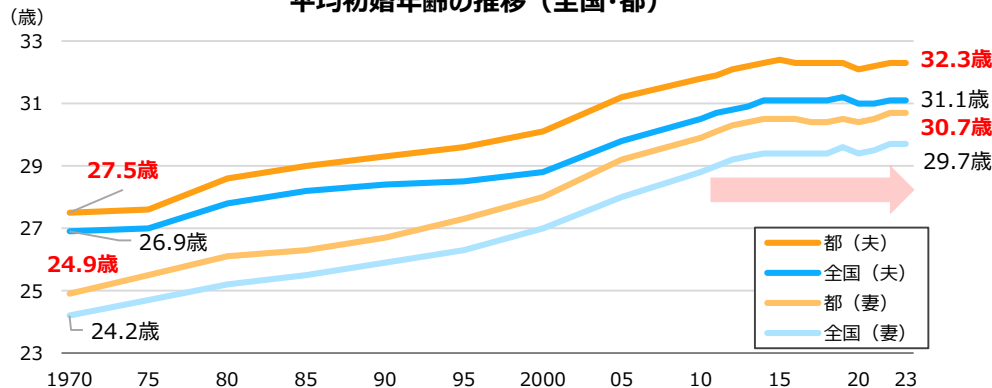


（資料）国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集 2024」を基に作成

平均初婚年齢は高止まり傾向

- **平均初婚年齢**は全国・都ともに、2010年以降**30歳前後で高止まり**

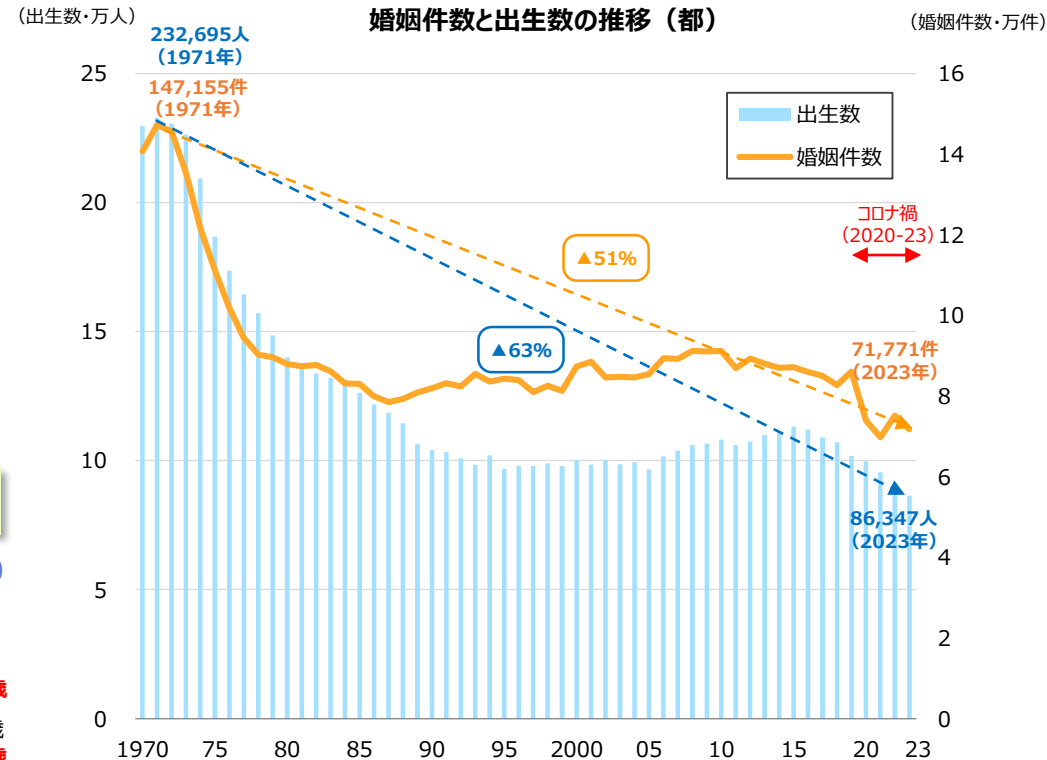
平均初婚年齢の推移（全国・都）



※2023年については概数
（資料）厚生労働省「人口動態調査」を基に作成

婚姻件数と出生数は連動して推移

- 長期トレンドで見ると、**婚姻件数の減少**に応じて、**出生数も減少**
- 近年、**コロナ禍**においても、**婚姻件数・出生数がともに減少**



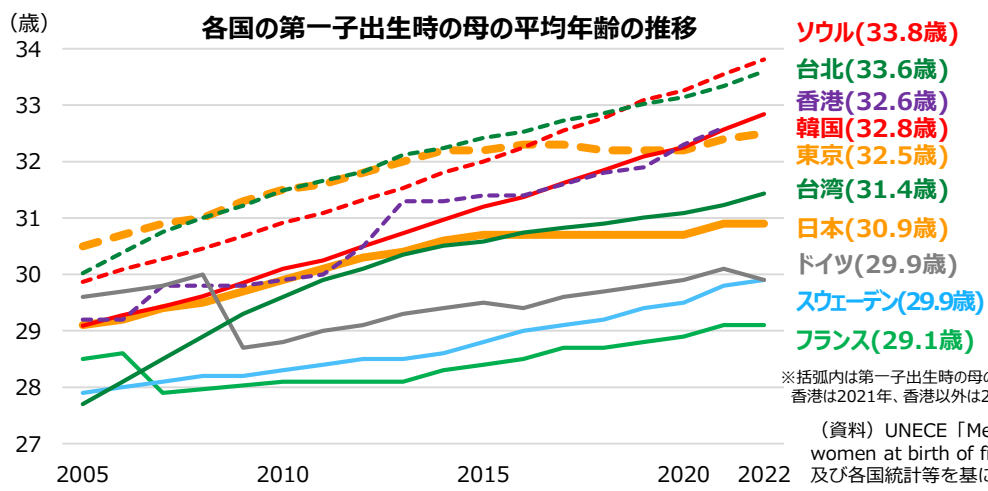
※2023年については概数
（資料）厚生労働省「人口動態調査」及び東京都「人口動態統計」を基に作成

有識者の意見

- 日本の少子化の大きな要因は**未婚化・非婚化**
- 全国レベルで結婚行動と夫婦の出生力の要因を分析した結果、**結婚行動の変化が出生率低下に大きく寄与**

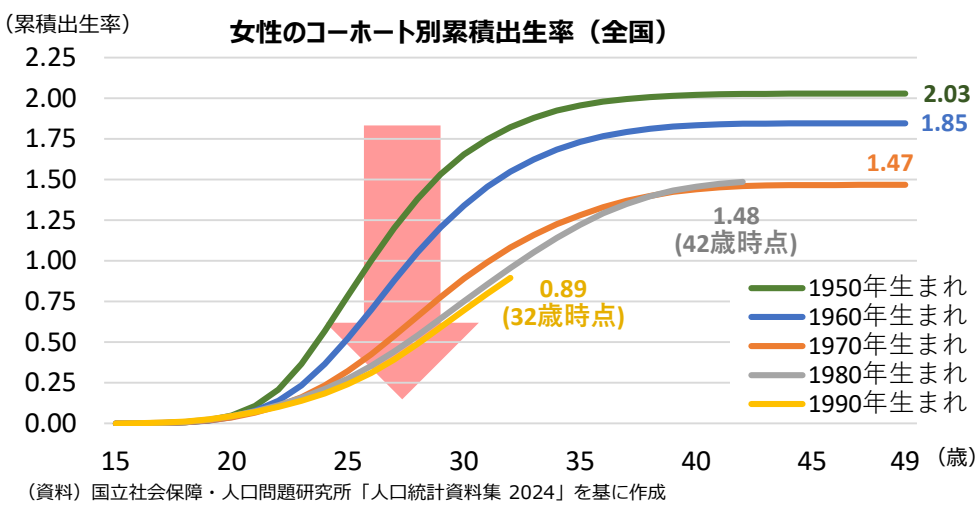
世界的に晩産化が進行

➤ 就職や結婚等のライフイベントが先送りされる傾向により、世界的に晩産化が進んでおり、特に東アジアは顕著



日本の若年女性の出生率は低下

➤ 日本において、20代女性の出生率は低下している

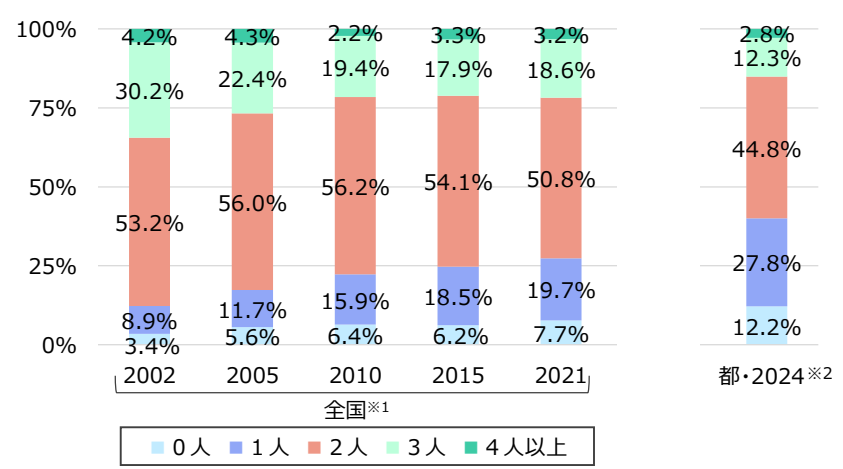


夫婦の最終的な平均出生子供数は緩やかに減少

➤ 夫婦の理想子供数と最終的な平均出生子供数（完結出生児数）は緩やかに減少傾向

夫婦の理想子供数と完結出生児数						(参考)
全国※1						都※2
年	2002	2005	2010	2015	2021	2024
理想子供数	2.56	2.48	2.42	2.32	2.25	1.92
完結出生児数	2.23	2.09	1.96	1.94	1.90	1.66

夫婦の出生子供数の割合（結婚持続期間15～19年）



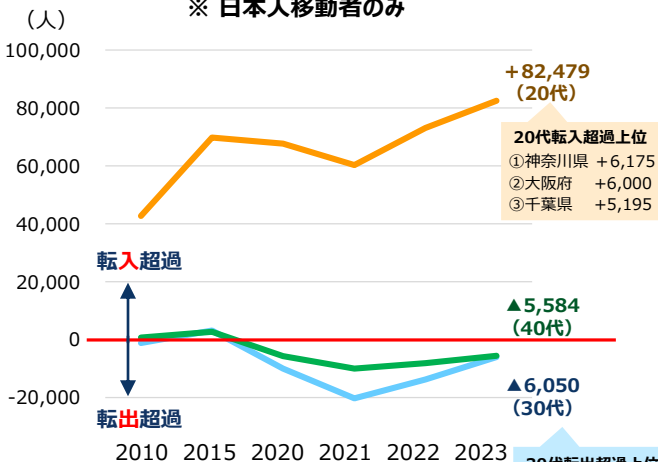
(資料) ※1 国立社会保障・人口問題研究所「第16回出生動向基本調査（2021年）」を基に作成
※2 東京都「令和6年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」を基に作成

有識者の意見

● 少子化の要因を分解してみると、近年は有配偶出生率が出生数を押し下げていることが分かる。結婚している人も出生意欲が低下していることを示唆している

都への若年層の転入が続いている

- 都の人口移動を見ると、**20代**は転入、**30代**は転出超過
- 都には若者が集中しており、特に**25～29歳の男女の約15%**（6～7人に1人）が暮らしている

年代別 転入・転出者数の推移（都）
※ 日本人移動者のみ

(資料) 総務省「住民基本台帳人口移動報告」を基に作成

都の年代別人口割合 (全国比)		
区分		割合
20～24歳	男	12.3%
	女	12.9%
25～29歳	男	15.0%
	女	15.9%
30～34歳	男	14.2%
	女	14.7%
35～39歳	男	13.2%
	女	13.4%
全人口	男	11.2%
	女	11.1%

(資料) 総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査（令和6年1月1日現在）」を基に作成

有識者の意見

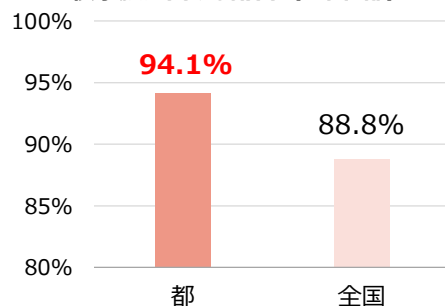
- 東京の人口構造自体は若く人も多く出生率上昇のポテンシャルは高い
- 都は、進学や就職で全国から未婚者が集まり、結婚、子育てを機に隣県に移る人も多く、**合計特殊出生率が低く**出る傾向

～グループインタビュー時の意見～

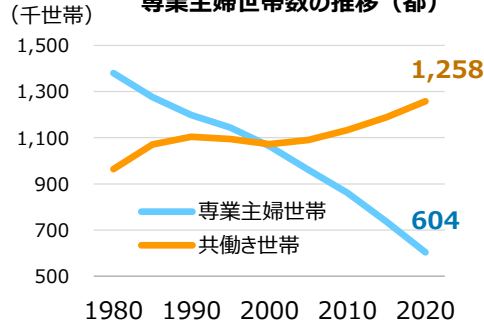
- 自分は働き方を変えたくないで、相手にも好きにして欲しい。変化を強要したくない（女性20代・未婚）

核家族、共働き世帯が多くを占めている

- 親族のみの世帯で**核家族**が占める割合は約95%で**全国1位**
- 共働き世帯と専業主婦世帯の割合は、おおむね**7：3**

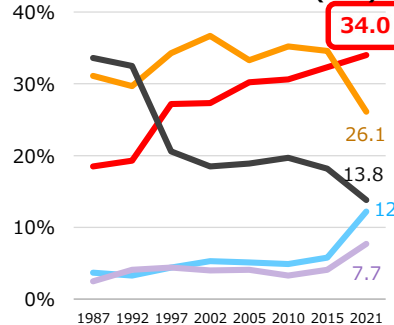
親族のみの世帯のうち、
核家族が占める割合（全国・都）

(資料) 総務省「令和2年国勢調査」を基に作成

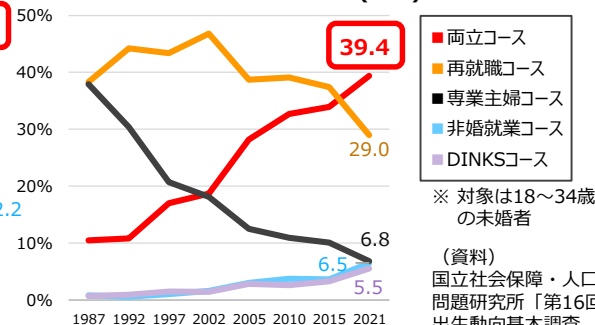
共働き世帯数、
専業主婦世帯数の推移（都）

- 女性**が理想とするライフコース、**男性**がパートナーに望むライフコースともに、**家庭と仕事の両立**が第1位
- 特に**都の女性**は、**家庭と仕事の両立を望む割合が高い**

女性が理想とするライフコース(全国)



男性がパートナーに望むライフコース(全国)



※ 対象は18～34歳の未婚者

(資料) 国立社会保障・人口問題研究所「第16回出生動向基本調査（2021年）」及び東京都「令和6年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」を基に作成

両立コースを望む割合（全国・都）

	女性が理想とするライフコース	男性がパートナーに望むライフコース
都（2024）	42.9%	40.8%
全国（2021）	34.0%	39.4%

～少子化に関連する様々な指標～



合計特殊出生率ってよく聞くけど、どんなものなんだろう？

合計特殊出生率とは
女性1人が一生に出産する子供の数を示したもの
(15～49歳までの女性の年齢別出生率を合計した値)

$$\frac{15\text{歳の母の出生数}}{15\text{歳の女性の人口}} + \sim + \frac{49\text{歳の母の出生数}}{49\text{歳の女性の人口}}$$

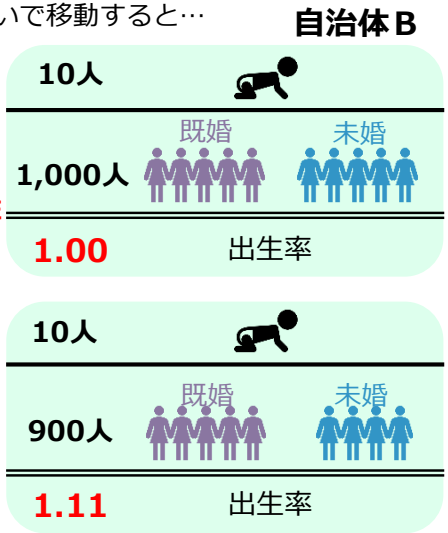
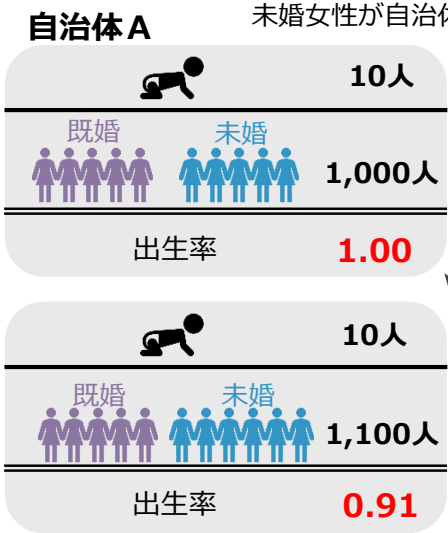
- 進学や就職に伴う未婚女性の流入により、都市部の合計特殊出生率は低めに出る傾向がある
 - 合計特殊出生率を用いて地域差を論じる場合には、自治体間での人口移動の影響があることを十分に認識する必要がある
- 【有識者の意見】



イメージ

人口移動した場合の出生率の変動

合計特殊出生率の分母は、未婚の人も含んだ女性人口
未婚女性が自治体をまたいで移動すると…



合計特殊出生率の分母は、未婚の人も含めた女性人口であるため、
全体で子供の数が変わらなくとも、人口移動によって出生率は大きく変動



結婚をしている女性に限った指標ってあるのかな？

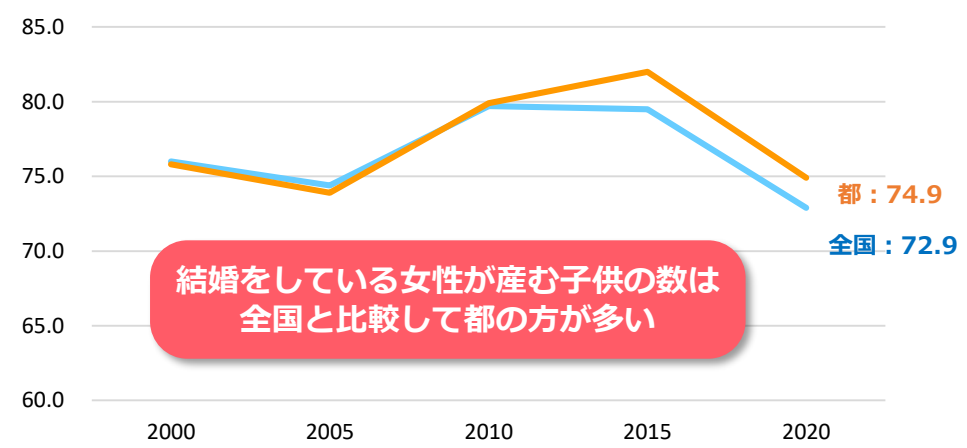
有配偶出生率とは
結婚している女性が出産する子供の数を示したもの
(結婚している女性千人に対する出生数※の割合)

$$\frac{\text{出生数}^*}{\text{結婚をしている女性の人口(15～49歳)}} \times 1000$$

※ 嫡出子に限る

(有配偶出生率)

有配偶出生率の推移 (全国・都)



(資料) 総務省「国勢調査」、厚生労働省「人口動態調査」及び東京都「人口動態統計」を基に作成

都の取組

～「叶えたい」を支えたい～



結婚はしたいけど、
良い出会いがないな…

子供は欲しいけど、
子育て費用が心配…



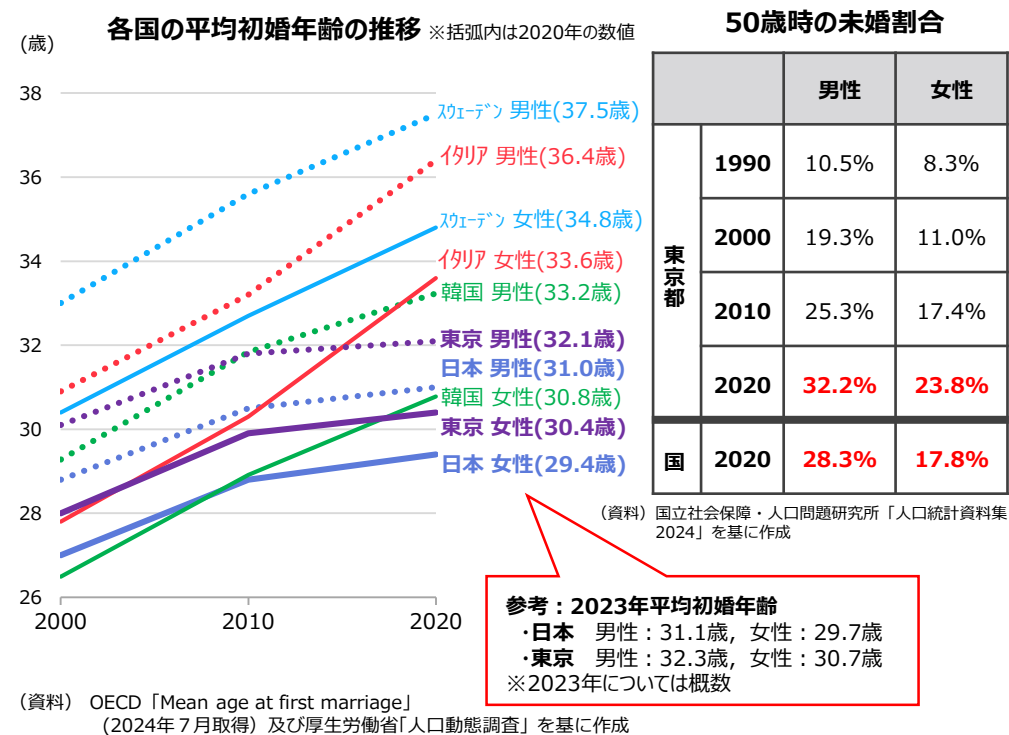
都では、都民の皆様が抱える様々な不安を解消し、安心に変えるため、
ライフステージを通じた幅広い分野の取組を充実強化し、
「一人ひとりの自己実現を応援する社会」の実現を目指していきます！

Ⅱ 分野ごとの現状・分析と今後の政策検討課題

論点①：出会い・結婚への希望を叶える取組

未婚化・晩婚化が急速に進行している

- どの国においても**平均初婚年齢の上昇**が見られる
- 2020年の50歳時点における未婚割合（都）は、男性：32.2%、女性：23.8%で**過去最高の数値**に

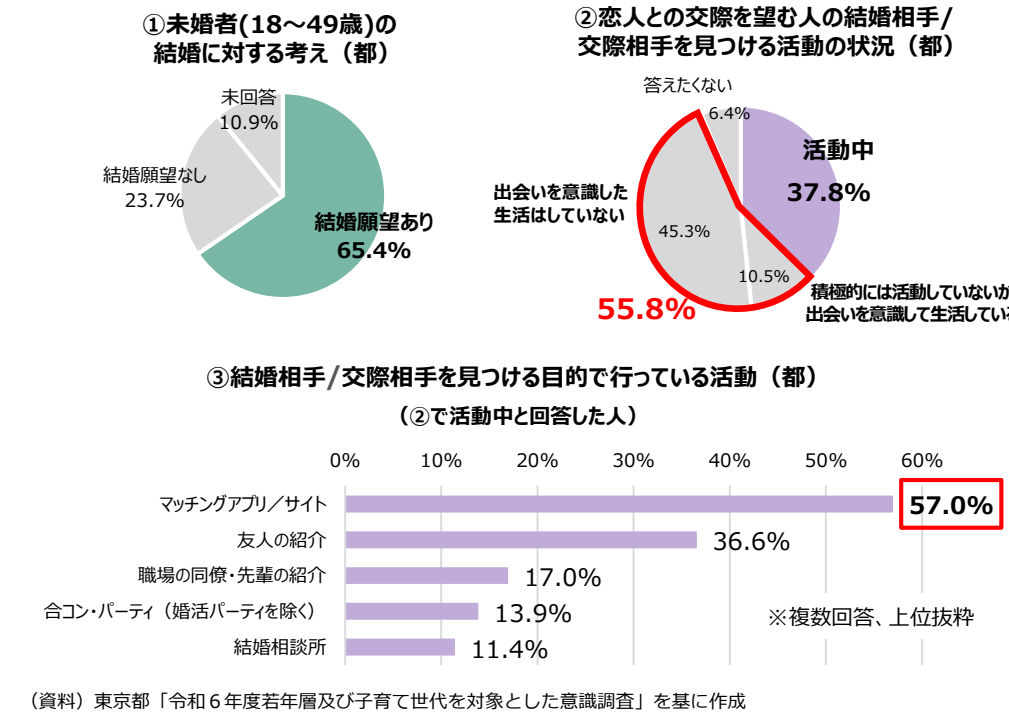


有識者の意見

- お見合い文化がなくなった結果、生涯未婚率が上がったという分析もある。**結婚支援を自治体でやっていくというのは一定の意味がある**
- 行政だけでなく民間企業とも協力しながら行うべき。また、区市町村単位で個別に取り組むことに加え、**広域的に連携して対応すべき**

都の未婚者の半数以上が”婚活”等を行っていない

- 都の**未婚者の65.4%**が**結婚願望あり**と回答
- 恋人との交際を望む人の**55.8%**が**積極的に活動を行っていない**
- 結婚等に向けた活動では**マッチングアプリ/サイト**の利用が多い



～グループインタビュー時の意見～

- **行政主導の婚活パーティーや結婚した人が対象の手当の給付などがあれば、婚活に本腰を入れる人も増えると思う(男性30代・未婚)**
- **結婚に対して慎重になりすぎて踏み切れなかったため、結婚や出産についての具体的なケース等を教えて欲しい(女性30代・既婚)**

論点②：安心して妊娠・出産できる環境づくり

妊娠・出産にあたっては様々な不安がある

- 出産費用の軽減や産後ケアの充実、不妊・不育症の検査・治療等、**経済面から身体面・精神面まで**幅広い支援が求められている

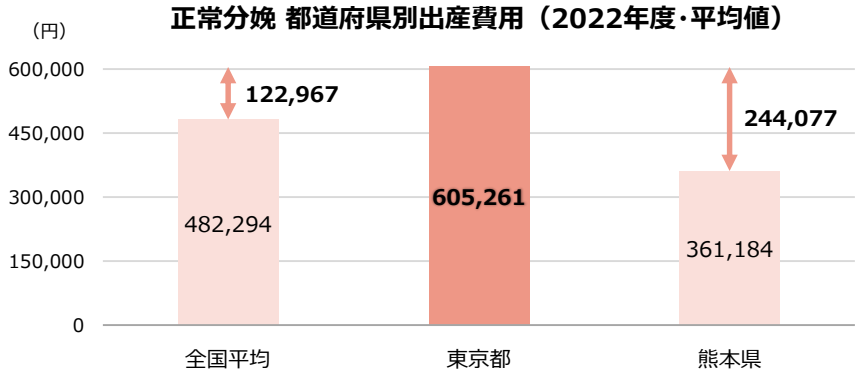
※複数回答、上位抜粋

望む人が結婚・妊娠・出産・子育てしやすい社会の実現のために有効だと思う取組（都）	
金銭給付など、子育て世帯に対する手当・補助金の拡充	39.4%
出産費用の軽減や産後ケアの充実など、出産等の負担軽減	39.1%
賃上げや正社員への転換支援など、安定した収入の実現	33.1%
不妊・不育症の検査・治療に関する支援	30.8%
保育所の整備や一時預かりなど、保育サービスの充実	30.5%

（資料）東京都「令和6年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」を基に作成

出産の経済的負担は大きい

- 出産費用について、**東京都は全国で唯一60万円を超えている**
- 都道府県別にみて最も低い**熊本県**との差は約**24万円**

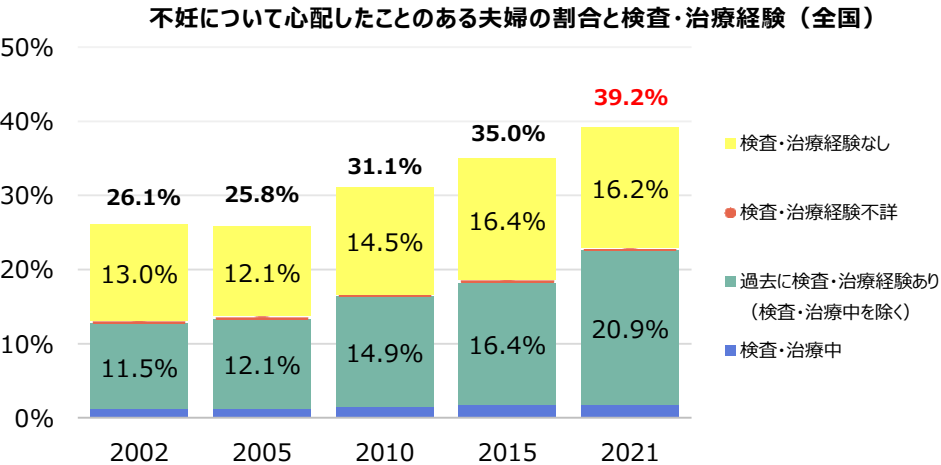


※室料差額等を除く

（資料）厚生労働省「第167回社会保障審議会医療保険部会資料（【資料2】 出産費用の見える化等について）」を基に作成

不妊について心配した夫婦は3組に1組以上

- **不妊を心配する夫婦の割合は増加**しており、2021年調査では**39.2%**にのぼる



（資料）国立社会保障・人口問題研究所「第16回出生動向基本調査（2021年）」を基に作成

有識者の意見

- 晩産化が緩やかに進んでおり、不妊治療など**生殖補助医療**についてサポートしていく必要
- 生殖補助医療に取り組む女性は、**仕事との両立に困難**を抱えており、**このケアが大事**

～グループインタビュー時の意見～

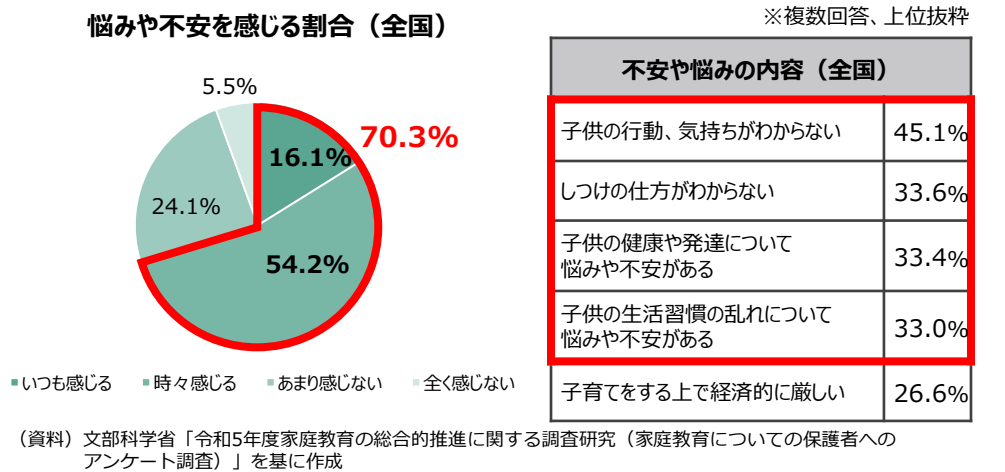


- 妊娠に関わる費用に**不安がある**（男性30代・既婚）
- 地方と比べると**東京は出産費用が高い**。行政からの補助があっても、自己負担額があった（男性30代・既婚）

論点③：子育て期を通じた支援の充実

子育て世帯は様々な悩みを抱えている

- **子育て世帯の7割以上**が悩みを抱えており、その内容にはしつけの仕方等の**子供との向き合い方に関する不安**が多い



子育て家庭の悩みや不安を取り除く取組が必要

- 子供家庭支援センターなどでの相談支援、一時預かりなど、**子育て家庭を地域で支える仕組み**の充実が求められている

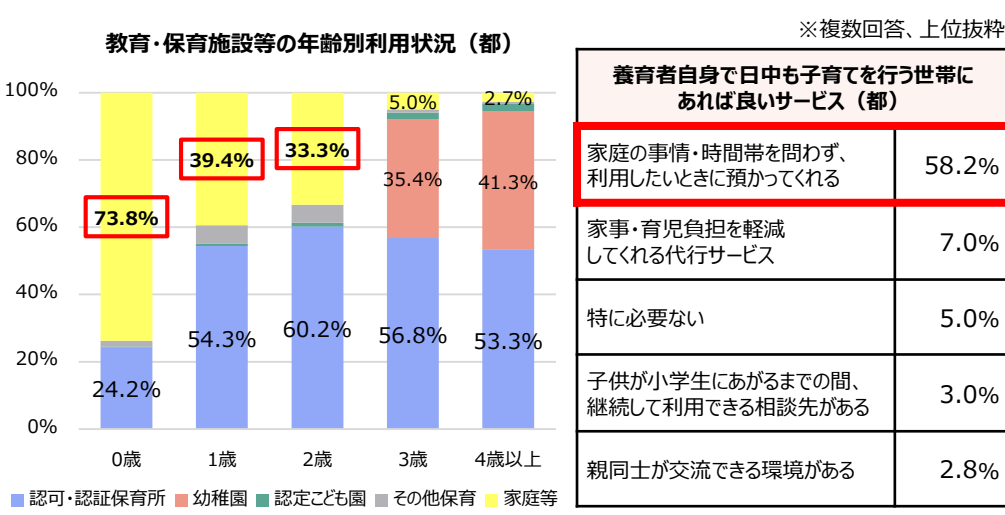
※複数回答、上位抜粋

子供・子育て支援の施策として充実して欲しいと思うもの（都、子育て世帯のみ）	
子育て家庭を地域で支える仕組みとサービスの充実（子供家庭支援センターなどでの相談支援、一時預かりなど）	41.2%
小児・母子医療体制の整備（休日・夜間における小児診療体制の整備など）	35.1%
ライフスタイルや就業形態の多様化に応じた様々な保育サービス（夜間保育、延長保育、学童クラブなど）	32.4%
待機児童対策・保育サービスの拡充	31.1%
保育サービスの質の向上（保育従事職員への研修、保育人材の確保・育成など）	25.1%

（資料）東京都「令和6年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」を基に作成

0-2歳までは家庭で育つ児童も多い

- 保育所等を利用しない児童は**0歳で7割、2歳でも3割**を超える
- **事情・時間帯を問わず預かってくれるサービス**が必要



（資料）東京都「令和4年度東京都福祉保健基礎調査『東京の子供と家庭』」を基に作成

有識者の意見

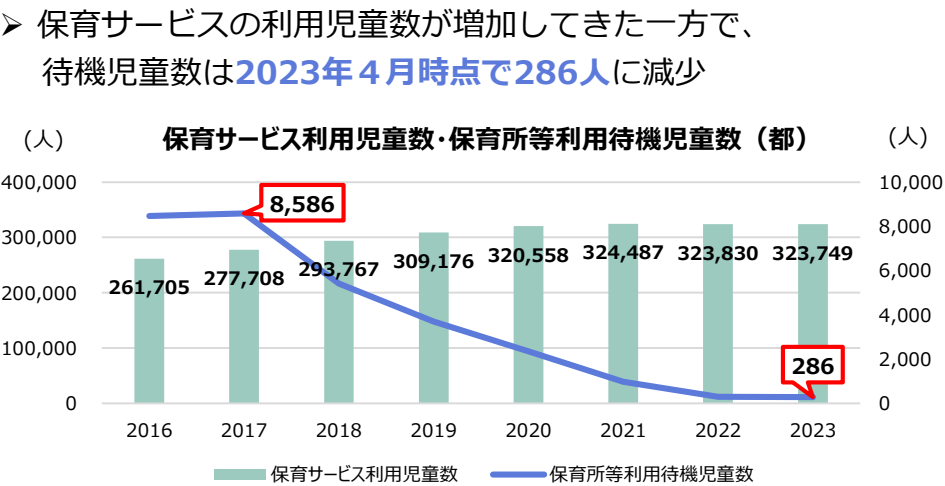
- 共働きの多い地域では**保育所の拡充**、パート勤めや専業主婦が多い地域には**孤立防止支援や在宅支援等**、地域に応じた支援が重要
- **地域の若い夫婦に支援をするNPO等の取組**に対して補助するのの一つの手段

～グループインタビュー時の意見～

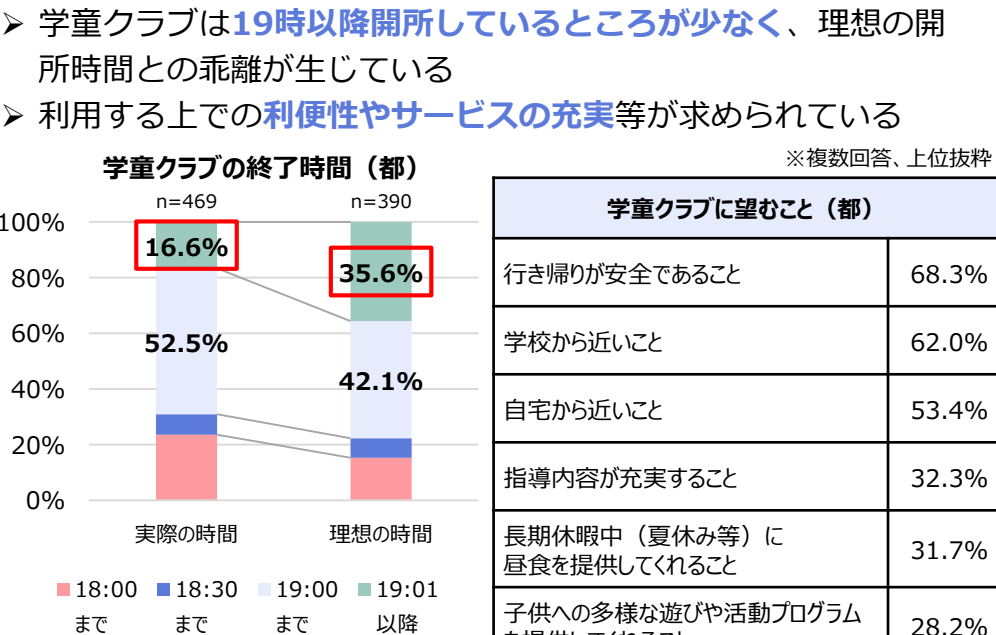
- 夫が単身赴任で、**ワンオペで大変**（女性40代・既婚）
- **近くに親が住んでいない人に子供をもう少しケアしてくれるところがあると、あと何人か子供を産めるかもしれないと思う**（男性40代・既婚）

論点③：子育て期を通じた支援の充実

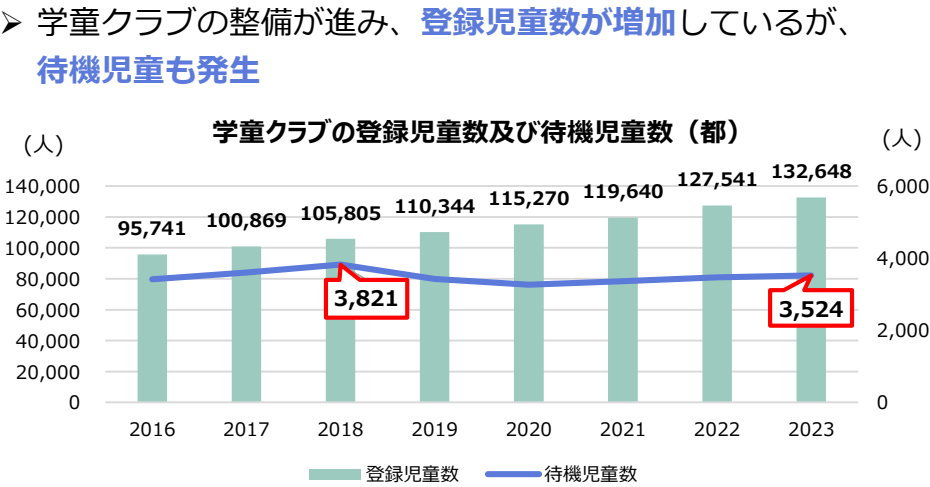
保育の待機児童はほぼ解消



学童クラブの利便性の向上が求められる



学童クラブのニーズが高まっている



有識者の意見

- 保育所の整備は非常に有効な少子化対策。保育所整備が進んでいる都道府県ほど就業継続率が高い傾向
- 学童クラブの整備は親の働き方や女性の就労継続という面で重要

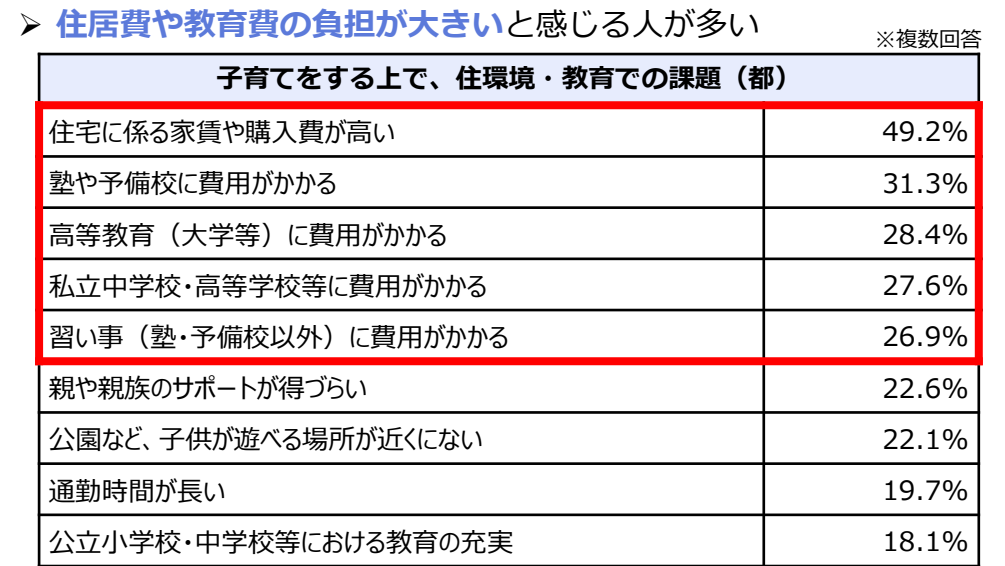
～グループインタビュー時の意見～



- 利用している学童の終了時間は、基本は18時までで、延長で19時まで見てくれるが、**19時を過ぎるとどうなるんだろうと不安**（女性40代・既婚）
- 学童でもお弁当や給食を出してほしい（女性30代・既婚）

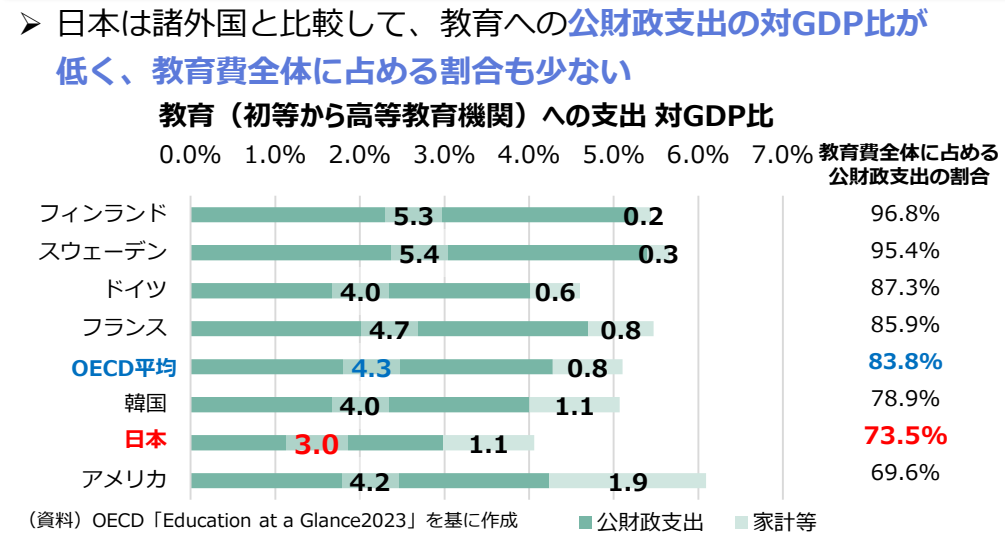
論点④：安心して学ぶことができる環境や子育てしやすい住環境の整備

子育てにおける住環境や教育の課題は様々

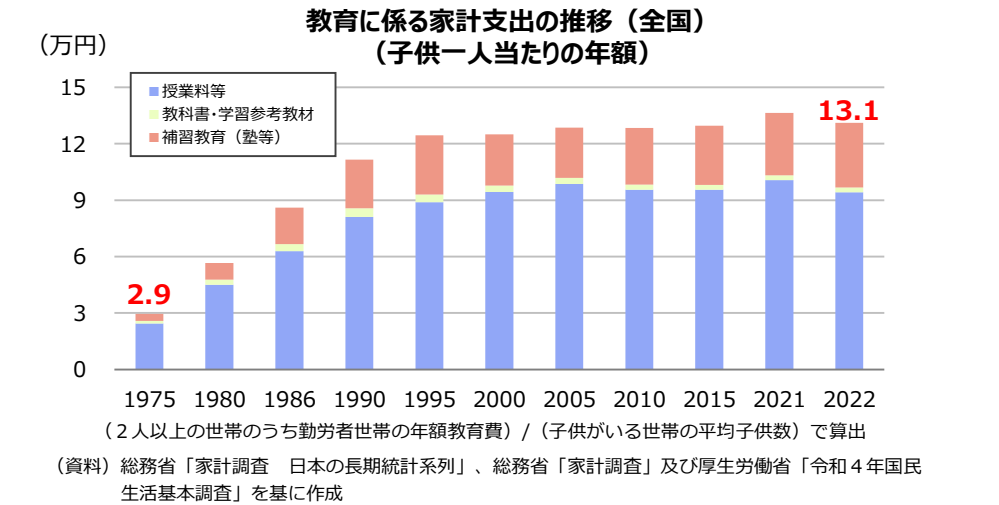


（資料）東京都「令和6年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」を基に作成

教育費の家計負担は大きい

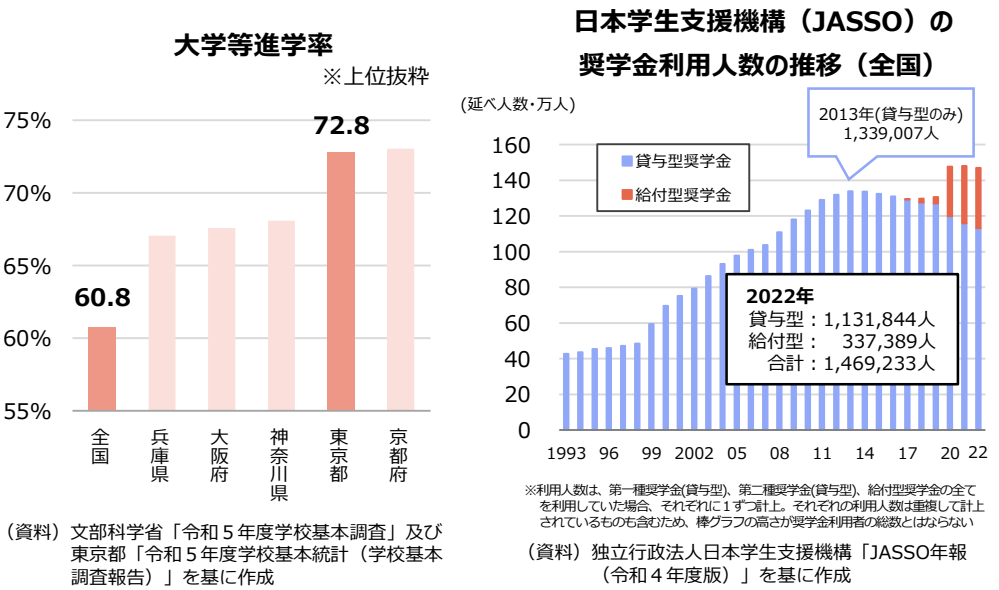


➤ 教育に係る家計支出は高止まり傾向



➤ 都は全国と比較して、**大学等進学率が高い**

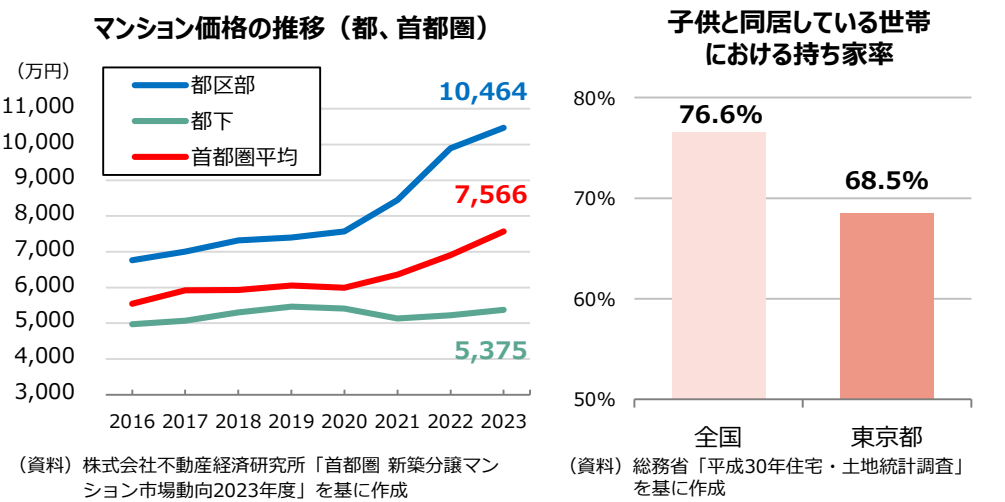
➤ **奨学金利用人数は近年増加傾向**



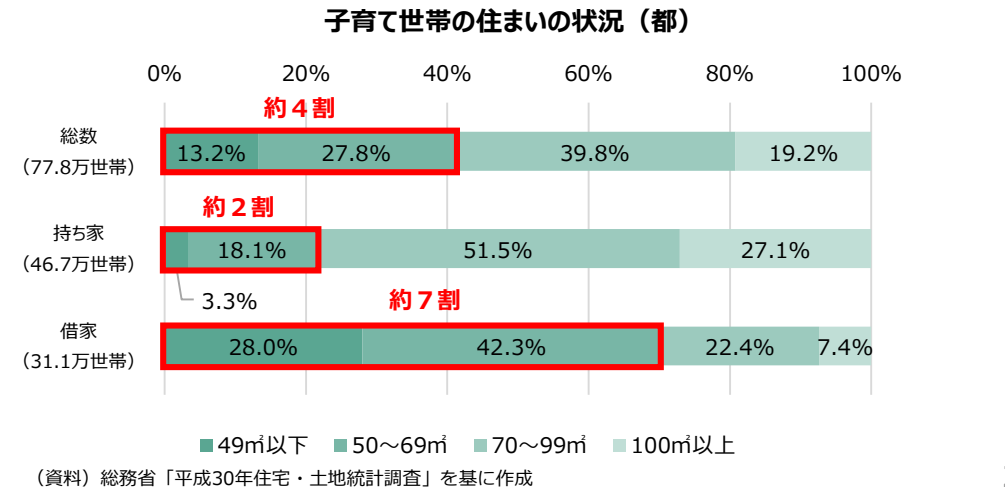
論点④：安心して学ぶことができる環境や子育てしやすい住環境の整備

東京の住居費は高く、子育て世帯の住環境の向上が必要

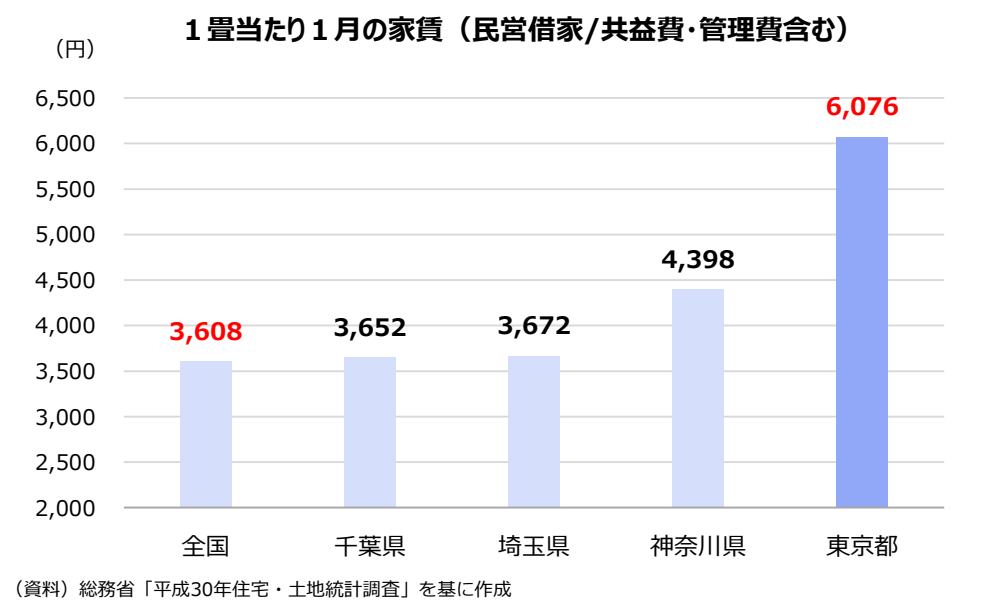
- 区部におけるマンション価格は、近年急激に**上昇**
- 都は全国と比較して、子供と同居している世帯の**持ち家率が低い**



- 都の**借家**に住んでいる**子育て世帯の約7割**が、**70㎡未満**の住宅に住んでいる



- 都の民間借家の家賃は**全国の約1.7倍**にのぼる



有識者の意見

- 都特有の事情として、**教育費及び住宅費の高さ**がある
- **住宅支援**は、2人3人の子供を持つ際、**スペース制約への解決につながる**ので**インパクト**がある

～グループインタビュー時の意見～

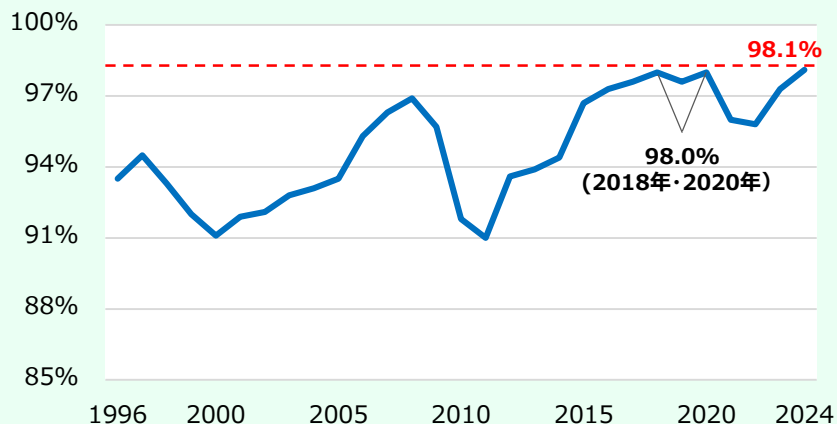
- 将来の**教育費や住居費**が不安（男性30代・既婚）
- 子供が2人いても狭くない広い家に住めるのかと**経済的に不安に思う**（男性20代・既婚）

～若年層を取り巻く状況～



大卒就職率は調査開始以降過去最高

大学卒業者の就職率（全国）



（資料）労働省「平成9年度大学等卒業者就職状況調査（平成10年4月1日現在）」及び厚生労働省・文部科学省「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職内定状況等調査」を基に作成

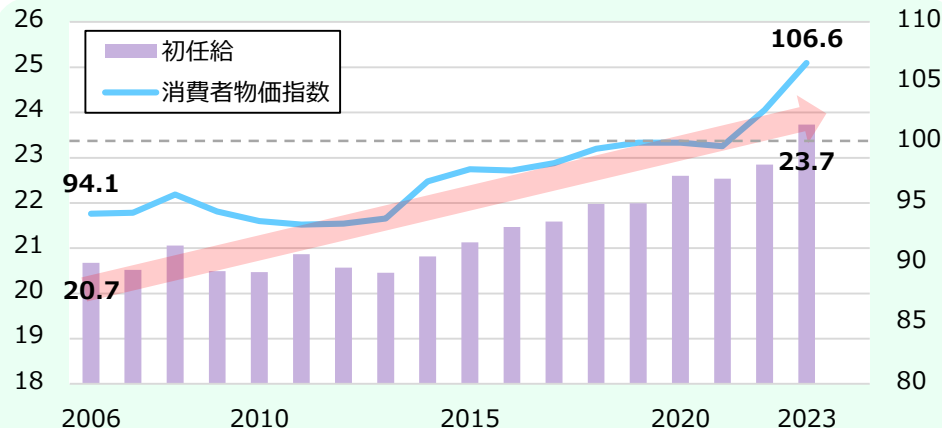


初任給が上がっている一方、物価も高くなっている

（初任給・万円）

大学卒業者の初任給と消費者物価指数（全国）

（消費者物価指数）



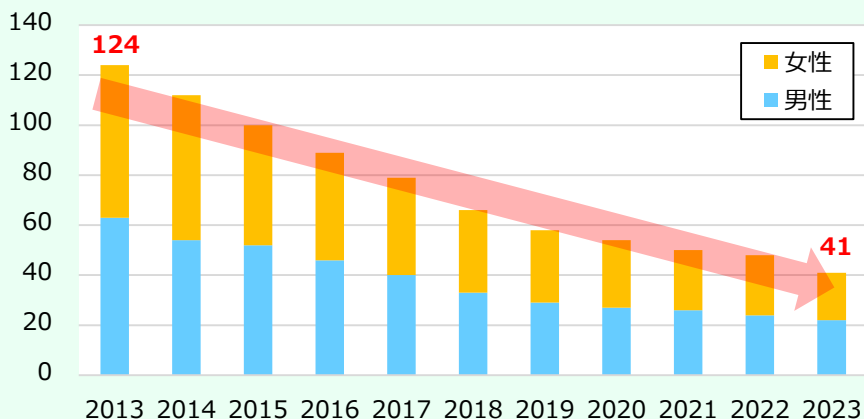
※消費者物価指数は2020年基準消費者物価指数の持家の帰属家賃を除く総合指数
（資料）厚生労働省「賃金構造基本統計調査」及び総務省「消費者物価指数」を基に作成



若年層の望まない非正規雇用者は10年で3分の1に減少

（万人）

望まない非正規雇用者数（全国・15歳～34歳）



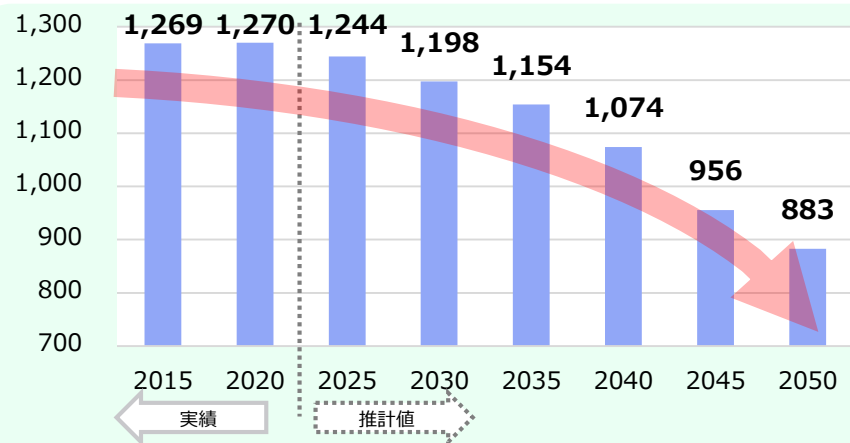
（資料）総務省「労働力調査」を基に作成



若年層の人口は今後急激に減少

（万人）

20代の人口（全国）



（資料）総務省「令和2年国勢調査」及び国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（令和5年推計）」の出生中位（死亡中位）推計を基に作成

論点⑤：若年層や子育て世帯が将来展望を描ける就労・職場環境整備

子育てする上での仕事・働き方の課題は様々

➤ 子育てする上では、**長時間労働**や**不安定な仕事・収入**に加え、**柔軟な働き方が困難**であることなど、多くの課題がある

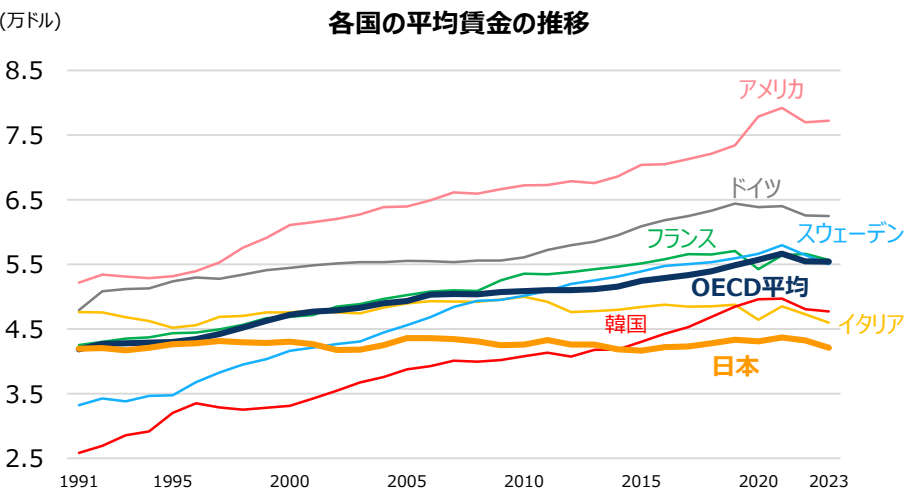
※複数回答、上位抜粋

子育てする上で、仕事・働き方での課題（都）	
労働時間が長い	33.9%
仕事・収入が安定していない	31.4%
場所にとらわれない働き方が難しい（テレワーク等）	29.3%
時間にとらわれない働き方が難しい	27.8%
子供にかかわる突発的な事情での休暇が取りにくい	25.6%

（資料）東京都「令和6年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」を基に作成

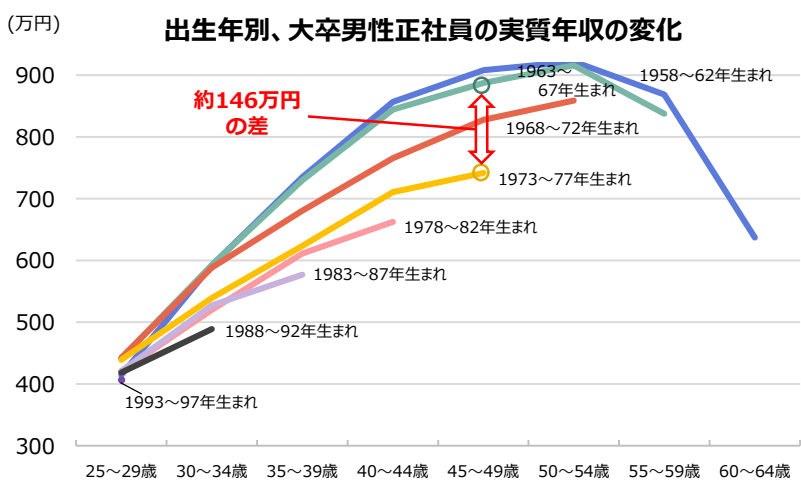
安定した経済基盤の確保が重要

➤ 日本は**世界的な賃金上昇のトレンドから後れ**を取っている



（資料）OECD「Average annual wages」（2024年7月取得）を基に作成

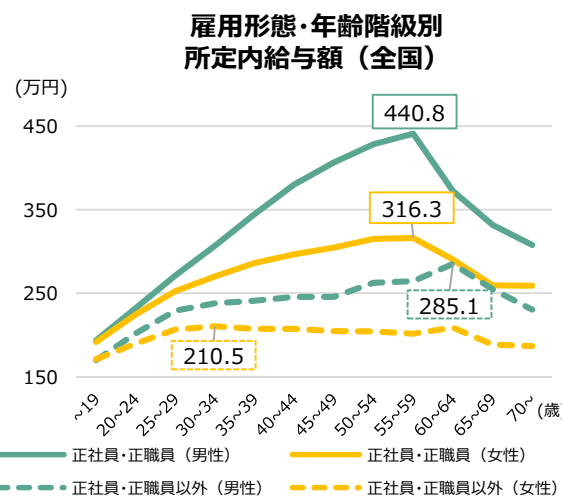
➤ 大卒男性正社員において、**若い世代ほど実質年収は低下傾向**



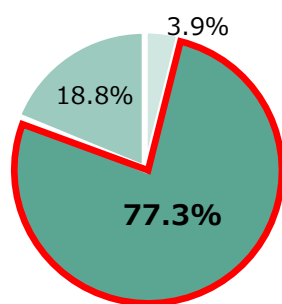
※実質年収は2022年価格

（資料）厚生労働省「賃金構造基本統計調査」及び総務省「消費者物価指数」を基に株式会社日本総合研究所 調査部 上席主任研究員 藤波匠氏が作成

➤ **性別・雇用形態**によって年収に大きな差が出る
➤ 第3号被保険者の**4分の3以上**が「**年収の壁**」を意識している



「年収の壁」に対する意識（都）
（第3号被保険者）



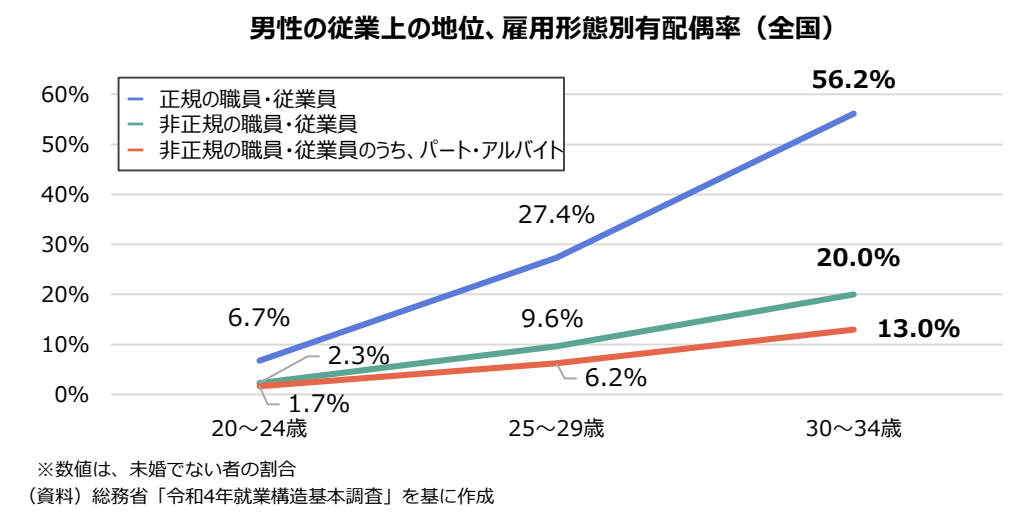
■ 既に「壁」を超えて働いている
■ 意識して「壁」・扶養の範囲内で働いている
■ 意識したことはないが、「壁」・扶養内の範囲内で働いている

※調査対象は女性パートタイム労働者（既婚・都内在勤）
（資料）東京都「令和5年度政策調査」を基に作成

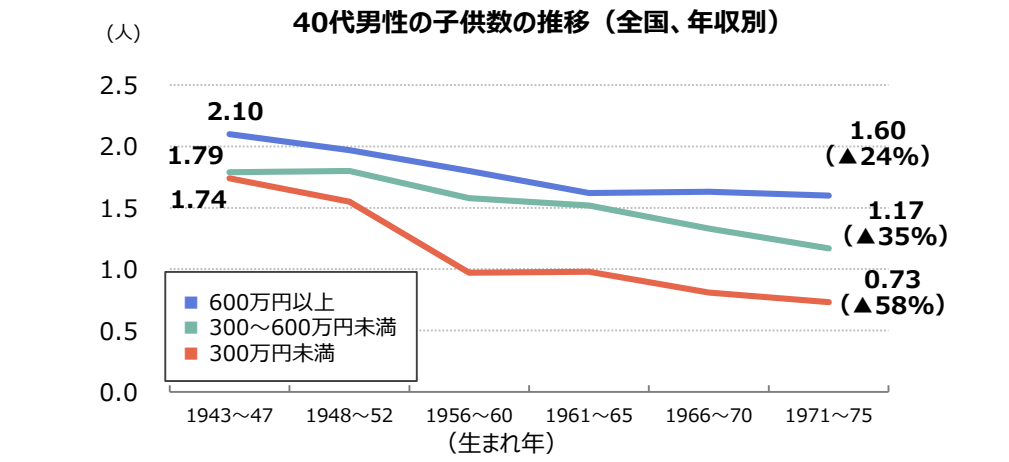
論点⑤：若年層や子育て世帯が将来展望を描ける就労・職場環境整備

収入・雇用形態は結婚や出産に影響

- 30～34歳の男性について、**正社員は配偶者のいる割合が他の雇用形態に比べて高い**

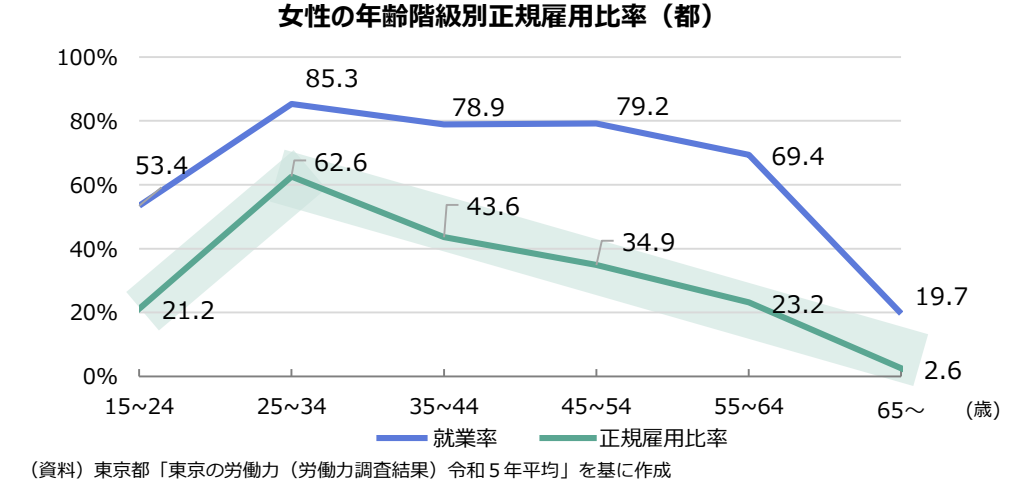


- **収入が低い層ほど子供の数が少なく、減少率も高い**

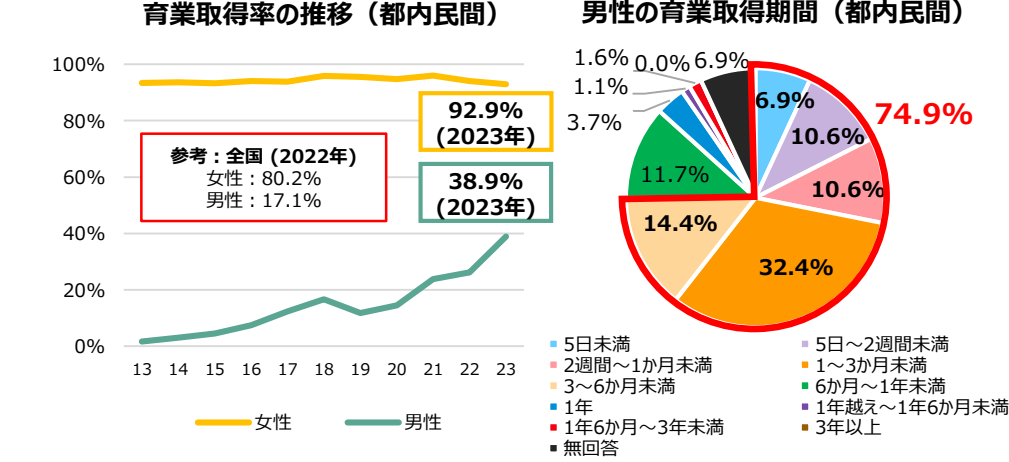


育児と仕事を両立できる環境の整備が必要

- 女性の就業率「M字カーブ」はおおむね解消したが、正規雇用比率は**20代後半をピーク**に右肩下がりの「L字カーブ」の傾向



- 男性の育児取得率は**約4割**まで上昇
- 男性の育児取得期間は、**6か月未満が約4分の3**を占める



論点⑤：若年層や子育て世帯が将来展望を描ける就労・職場環境整備

子育て期にある男性の労働時間は長い傾向

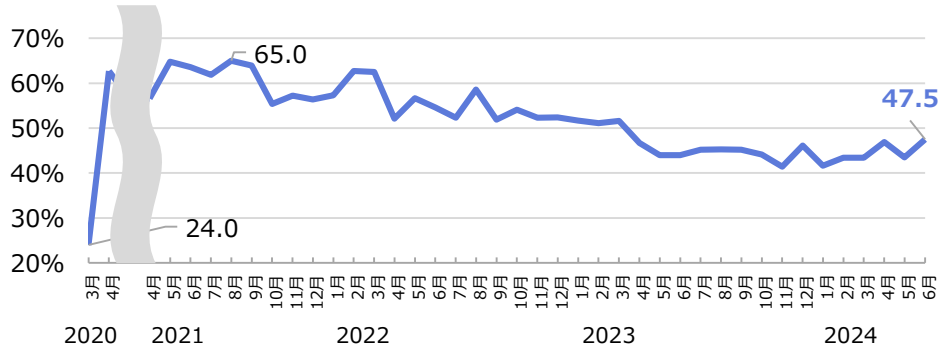
- 30～40代の男性の週60時間以上勤務の割合は女性や他の年代の男性と比べて高くなっている

週60時間以上勤務している長時間労働者の割合（全国）				
30代男性	40代男性	男性平均	女性平均	男女計
9.1%	9.8%	7.5%	1.9%	5.0%

（資料）内閣府「令和6年版男女共同参画白書」を基に作成

- テレワークはコロナ禍で大幅に進んだが、一部で出勤回帰の動きが見られる

テレワークの実施状況（都）

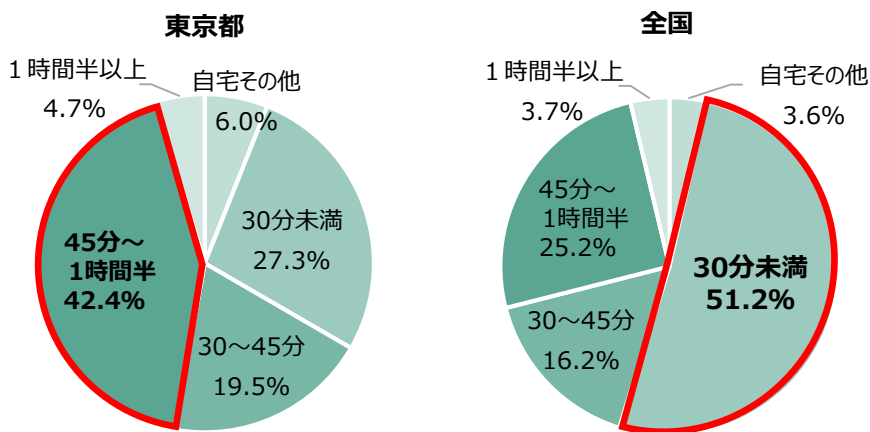


（資料）東京都「テレワーク実施率調査結果」を基に作成

時間や場所にとらわれない柔軟な働き方が重要

- 東京都の通勤時間は45分～1時間半未満が4割を超える
- 全国は、30分未満が全体の5割を超える

家計を主に支える者の通勤時間



（資料）総務省「平成30年住宅・土地統計調査」を基に作成

有識者の意見

- 若い女性の正規雇用率は高くなっているのに、出産等をきっかけに辞めずに済む環境整備が重要
- 男性の長時間労働が改善され、家事・育児を男女共同で行うことで女性の社会進出がしやすくなる。それにより、家族を形成する上での経済的な不安が軽減され、結婚への不安や躊躇が解消される

～グループインタビュー時の意見～

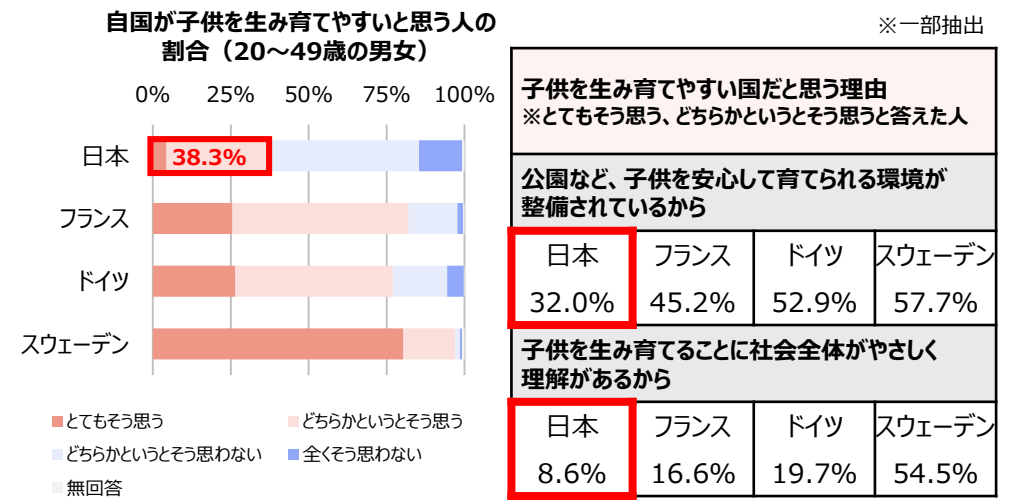


- 夫婦で仕事の拘束時間が重なると子育てできないので、様々な職種で多様な働き方ができれば良いと思う（男性30代・未婚）
- 本当はもっと家事育児をやりたいが、仕事の量をなかなか減らせない（男性30代・既婚）

論点⑥：子供・子育てにやさしい社会づくり

子供・子育てに関する社会の理解促進等が必要

➤ 日本は海外に比べ、**子供を産み育てやすいと思う人の割合が低い**



（資料）内閣府「令和2年度少子化社会に関する国際意識調査報告書」を基に作成

➤ 子供・子育てにやさしい社会をつくる上で、**育児しやすい環境整備**や**社会の理解促進**が有効だと思う人が多い

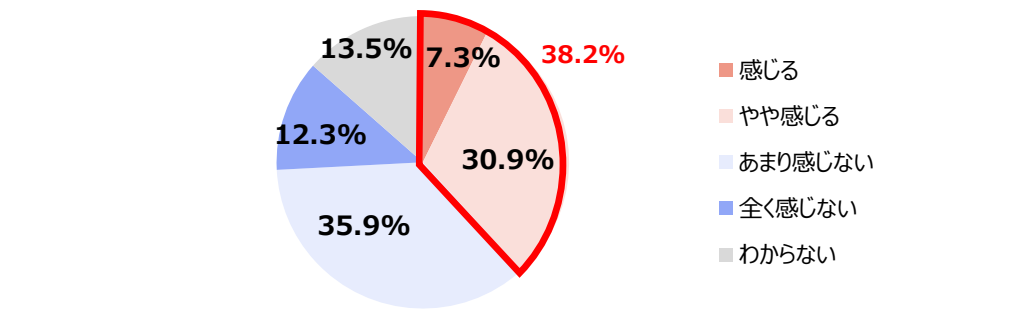
※複数回答、上位抜粋

子供・子育てにやさしい社会をつくる上で、有効だと思う取組（都）	
移動しやすい環境整備 （公共交通機関におけるベビーカー利用の円滑化に向けた取組等）	35.9%
公共・民間施設での育児サービスの充実 （おむつ替えスペース等）	31.2%
子供・子育てに関する社会の理解促進	30.0%
男性の家事・育児参加の促進	27.3%
行政による子育て支援の情報発信	24.0%

（資料）東京都「令和6年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」を基に作成

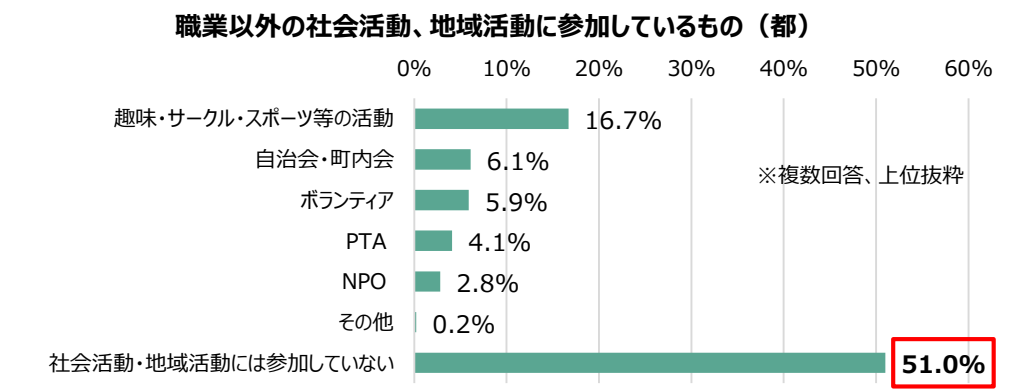
社会全体で子育てをサポートする気運醸成が重要

➤ **地域に支えられている**と感じている人は**半数に満たない**
子育てをする上で、**地域に支えられていると感じていますか（都）**



（資料）東京都「令和6年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」を基に作成

➤ 過半数の人が**社会活動・地域活動に参加していない**



（資料）東京都「令和6年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」を基に作成

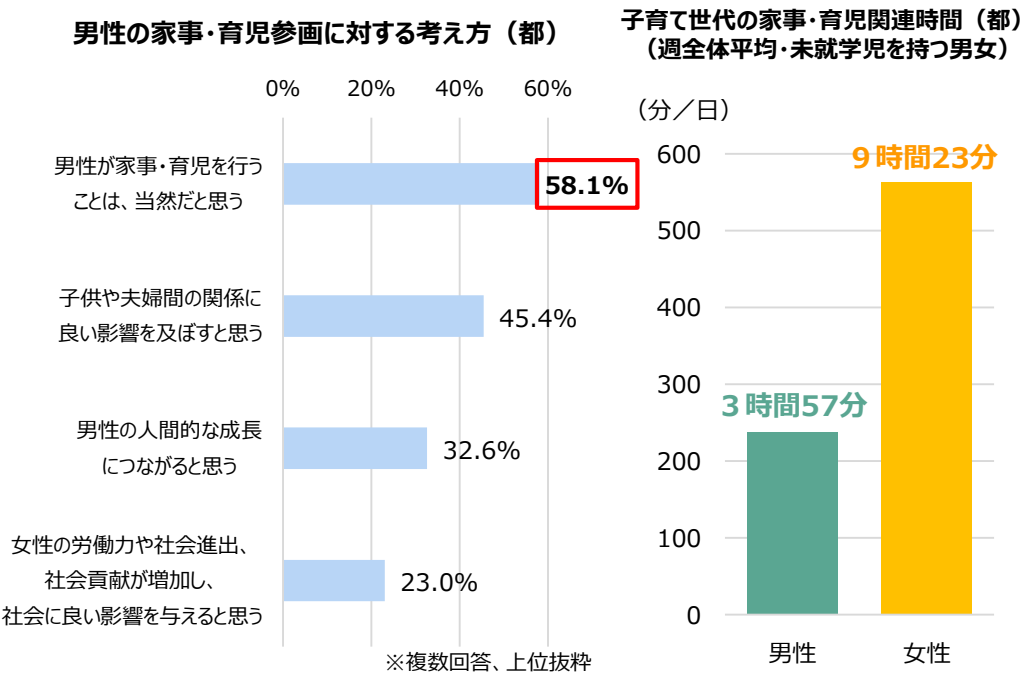
有識者の意見

- 都には若い世代が多いので、**子育てしやすい街、子育てにフレンドリーな街になることを期待**
- 行政や地域等、**周りの人が子供を歓迎していて、皆でサポートしていくというメッセージが必要**

論点⑥：子供・子育てに
 やさしい社会づくり

男女間で家事・育児関連時間に大きな差

▶ 6割近くが「男性が家事・育児を行うことは、当然」と考える一方で、家事・育児関連時間の男女差は大きい



（資料）東京都「令和5年度男性の家事・育児実態調査」を基に作成

～グループインタビュー時の意見～



- 子連れに対する態度が寛容的でないと感じる（女性20代・既婚）
- 結婚に対しては、自分だけではなく相手の世話もしなければならぬといった、ネガティブなイメージがある（女性30代・未婚）



～「叶えたい」を支えたい～
 東京都の支援策を一人ひとりに届ける取組



子供政策連携室のホームページでは、東京都で実施する様々な少子化対策をライフステージごとに紹介しています



詳しくは 子供政策連携室HPへ
 東京都 少子化対策

出会い・結婚



- 東京都結婚支援ポータルサイト へ
- TOKYOふたり結婚応援パスポート へ
- 東京ライフデザインシミュレーター へ
- TOKYO結婚あうまんイベント へ
- マッチングアプリを上手に利用しましょう へ

令和6年6月には、現在の東京都の支援策をまとめた「～『叶えたい』を支えたい～ チルドレンファースト社会の実現に向けて」を作成しました



- ★少子化を取り巻く現状をデータで可視化
- ★ライフステージごとに子育て・結婚支援関連施策を掲載
- ★これまでの取組に対する都民の皆様の声もあわせて紹介

これからも必要な情報を都民の皆様へ届けるため積極的に情報発信をしていきます！！

【有識者の意見】

- ・出産・育児だけでなくライフステージを通じて支援を継続し、長く子供・子育てをサポートするメッセージが大事
- ・未婚者に対して子育て支援策などを情報発信して、認知してもらうことは結婚を前向きに考えてもらうことにもつながる



【グループインタビューの意見】

- ・子供を持つことを漠然と考えている人等は情報のアンテナを張っていないと思うので、そういった人の認知度を高める必要があると思う（女性20代・未婚）

少子化対策の更なる充実に向けて ～今後の政策検討課題～

- 分野ごとの現状・分析や都の特性、国や区市町村、民間企業との役割分担等を踏まえ、より実効性の高い施策を構築
- 望む人が結婚から妊娠・出産、子育てしやすい社会の実現に向けて、様々な政策分野ごとに、制度の根幹に立ち返りながら、支援のあるべき方向性について多角的に検討

出会い・結婚

■ 望む人が一歩踏み出す後押しとなる取組を推進

- ・ 出会いの機会を創出
- ・ 民間企業や区市町村等、様々な主体と連携し、安心して出会い、結婚ができる環境づくり

妊娠・出産

■ 安心して妊娠・出産できる環境整備を促進

- ・ 出産時の不安や負担を取り除く取組
- ・ 不妊症に悩む方に対する支援
- ・ 子供を産み育てることを望みつつ働く女性へのサポート
- ・ 妊娠期からの切れ目のない支援

子育て期の支援、教育・住宅

■ 全ての子供・子育て家庭に対し、ライフステージを通じた切れ目ない支援をシームレスに展開

- ・ 在宅子育て家庭を含めた子育て支援策
- ・ 保育サービスの更なる充実
- ・ 学童クラブの充実など、放課後の子供の居場所づくり

■ 子育て世帯の実態に応じた教育支援を充実

- ・ 将来にわたって安心して学ぶことができる環境の整備

■ 子育て世帯等が安心して生活できる住宅確保策を推進

- ・ 子供や子育て世帯に優しい住宅政策

就労環境・職場環境

■ 若年層や子育て世帯の経済基盤を充実

■ 子育てしやすい労働環境の整備を促進

- ・ 年収の壁を超える取組の加速
- ・ 希望に応じた働き方の選択と経済基盤の確保
- ・ 女性の「L字カーブ」解消に向けた取組
- ・ 子育てと仕事を夫婦で無理なく両立できる環境整備
- ・ 時間や場所にとらわれない柔軟な働き方の実現

社会気運・環境整備

■ 子供・子育てにやさしい社会づくりを推進

- ・ 子供の育ちや子育てを社会全体で応援する気運醸成
- ・ 地域の実情に応じた区市町村の少子化対策を後押し

- ・ 公共交通機関等、官民における育児サービスの推進

Ⅲ 取組のバージョンアップに向けて

不断に取組をバージョンアップ

- 対策の実効性を高めるため、**ニーズや課題を継続的に把握・分析**し施策に反映することや、統計的手法等を活用し**長期的な視点に立って政策効果を検証**することで、幅広い対策の充実につなげていく

国・区市町村・民間企業・NPOなど多様な主体による取組

東京都

令和6年度 政策分野ごとに取組強化

- 出会い・結婚
- 子育て期の支援
- 就労環境・職場環境
- 妊娠・出産
- 教育・住宅
- 社会気運・環境整備

令和7年度以降

- ✓ エビデンスに基づく施策の継続的な推進
- ✓ ニーズや課題を踏まえた施策のバージョンアップ

ニーズや課題を取組に反映（毎年度）

取組成果

① 継続的な要因分析

- 若年層や子育て世代を対象とした調査
⇒ 生活実態や結婚・出産・子育てに関する意識を把握
- データ分析 ⇒ 少子化の現状や要因を多面的に分析
- 地域分析 ⇒ 都内地域ごとの少子化の様相等を整理

② 長期的な視点に立った効果検証

- 定量・定性の双方から検証
 - 統計的手法等による分析
 - 総合的な影響度を算定
- ✓ 運用しながら改善を重ねていく

有識者等との連携

「少子化分析・検証フェロー」をはじめとした幅広い分野の有識者、
都内大学、民間シンクタンク など

令和6年度 取組の概要

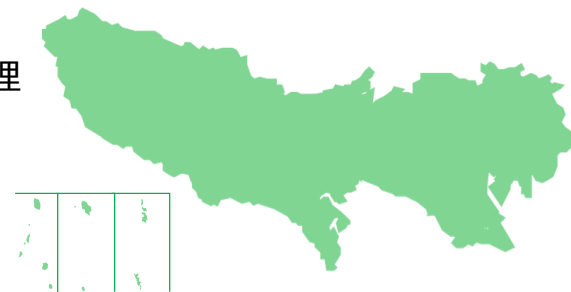
若年層や子育て世代を対象とした意識調査

- **都民の意識やニーズの変化等を継続的に調査**、要因分析や効果検証に活用
 - 都内に暮らす**18歳～49歳の方**、**10,000人にアンケート調査（定量調査）**を実施
現在の暮らしの満足度や将来に対する展望、結婚や子供を持つことの意識、子育てをする上での課題を調査
 - 都内に暮らす18歳～49歳の方、**60人にグループインタビュー（定性調査）**を実施
個人の意識やニーズ、抱えている問題を深掘り
 - 中高生からの意見聴取を実施 など

地域分析

- 都内でも**地域によって社会経済特性※が異なり、少子化の様相に違いがある**ことが想定されるため、地域ごとの状況等の把握・分析を実施
 - 都内を10程度の地域に分け、少子化の状況や特徴を見える化
 - 区市町村ごとの人口等の基礎的なデータと特色ある少子化対策に関連する取組を整理
- ➡ 分析結果を**地域の実情に応じた少子化対策の検討**に活用

※社会経済特性…人口構造、子育て環境、経済・雇用環境等、地域ごとの社会的・経済的な特徴を指す



長期的な視点に立った効果検証

- **少子化の要因は複合的**であり、ニーズや課題に応じた多様な取組が必要。また、効果が現れるまで**一定程度の期間を要する**
- 少子化対策に資する諸施策を分野ごとにまとめた**政策群ごとに取組の効果を測定する指標**を設定し、統計的手法等を用いて**政策効果を分析し、総合的な影響度を判定するためのモデルを構築**
- ➡ **長期的な視点に立った効果検証の仕組みを構築**し、多面的な考察を深め、**幅広い対策の充実・強化**につなげていく
 - ◎ 政策効果の分析から総合的な影響度の算定までには、一定程度の期間を要する
 - ◎ 効果検証の仕組みを実践する中で、適宜見直しを行い、より良い内容に改善していく

IV 附属資料

東京都「令和6年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

調査概要

調査対象：都内在住の若年層（18～29歳）及び子育て世代（30～49歳）の男女
〔アンケート〕

回答者数：10,000人（若年層、子育て世代で各5,000人）

* 属性は東京都の人口配分を基準に割付

調査方法：オンライン調査

調査期間：令和6年4月23日～5月8日

〔グループインタビュー〕

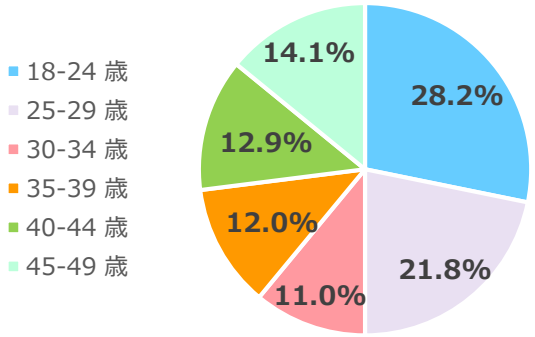
回答者数：60人（属性別5人×12グループ）

調査方法：対面調査

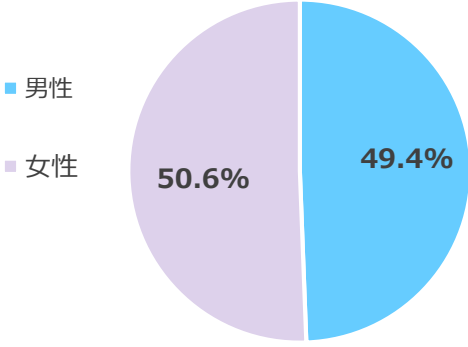
調査期間：令和6年5月17日～5月19日

〔アンケート〕

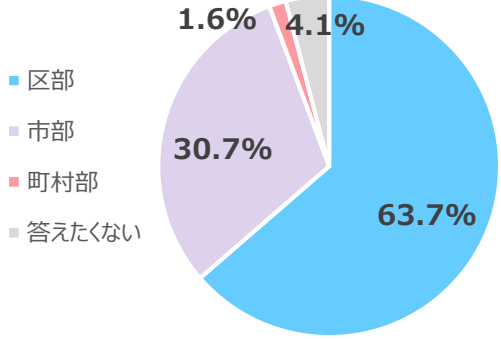
【年代】 n = 10000



【性別】 n = 10000



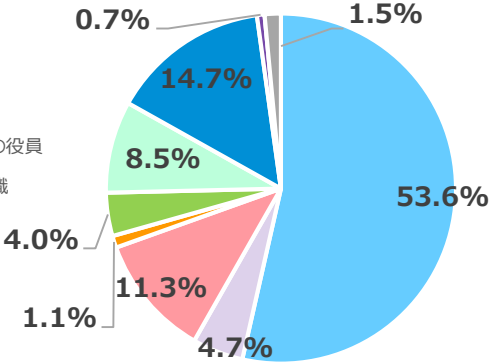
【居住地】 n = 10000



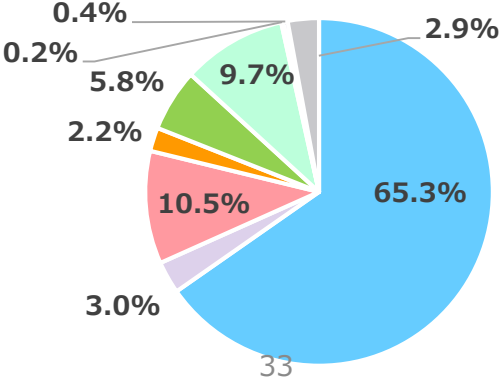
【職業】

①本人 n = 10000

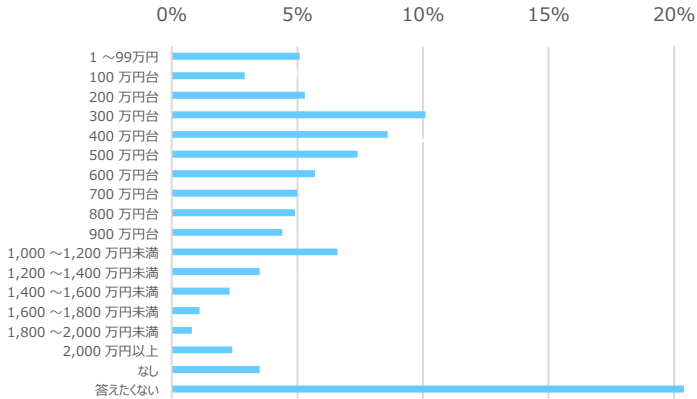
- 正規の社員・職員
- 派遣・嘱託・契約社員
- パート・アルバイト
- 会社役員・その他法人団体の役員
- 自営業主・家族従業者・内職
- 無職・家事
- 学生
- その他
- 答えたくない



②パートナー n = 4100

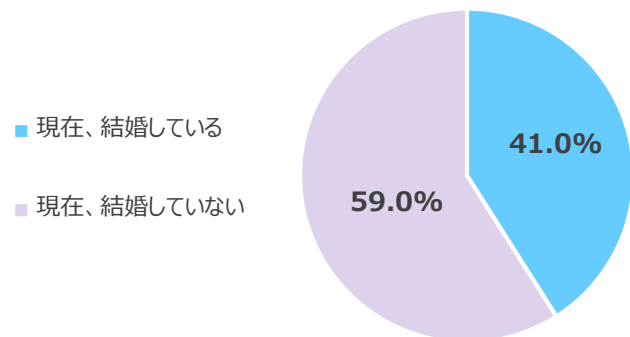


【世帯年収】 n = 10000

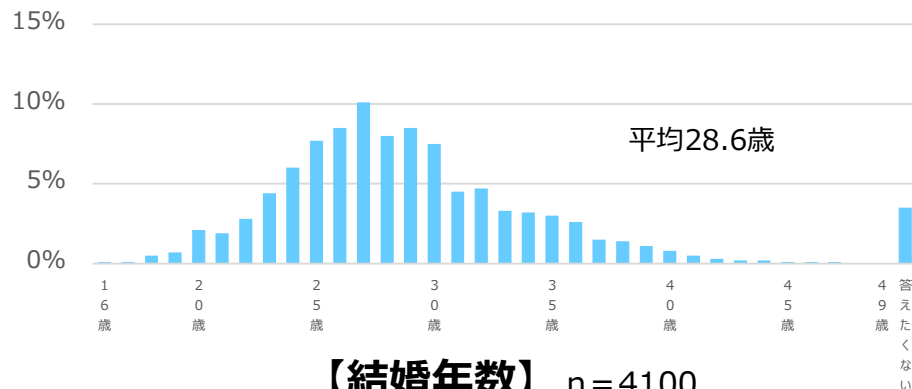


東京都「令和6年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

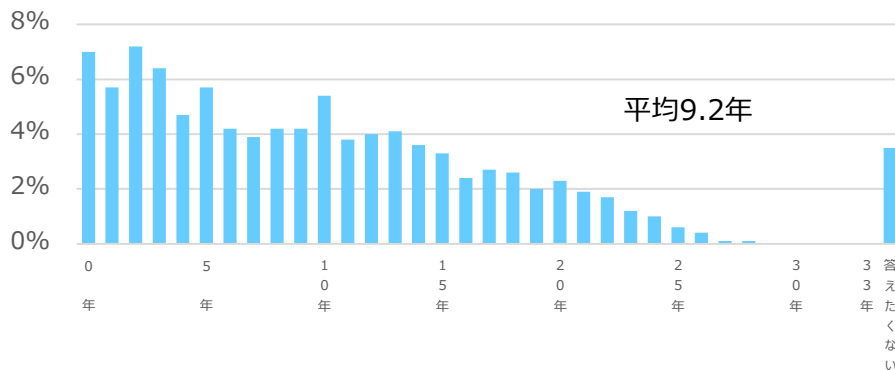
【婚姻状況】 n = 10000



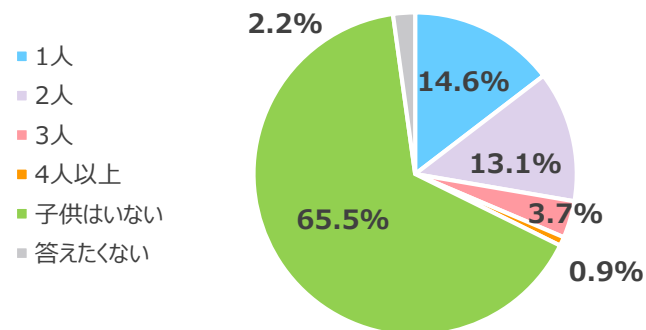
【初婚年齢】 n = 4100



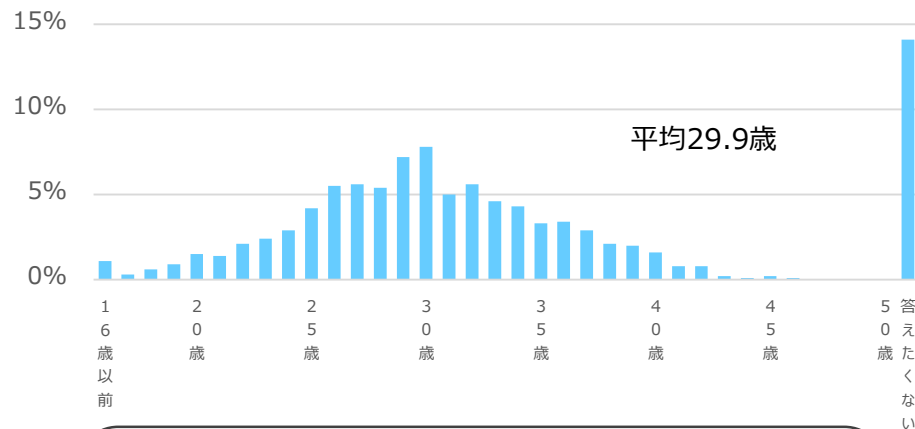
【結婚年数】 n = 4100



【子供の数】 n = 10000



【第一子出生時の年齢】 n = 3229



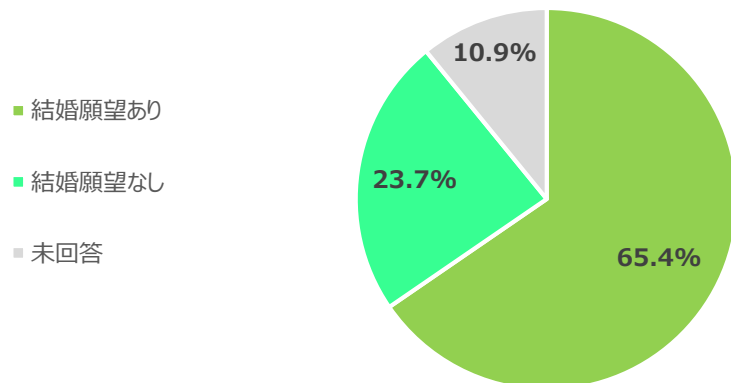
◆子供の平均年齢

第1子	平均8.9歳	(n=3229)
第2子	平均7.9歳	(n=1765)
第3子	平均7.0歳	(n=460)

東京都「令和6年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

【出会い・結婚に関する質問】

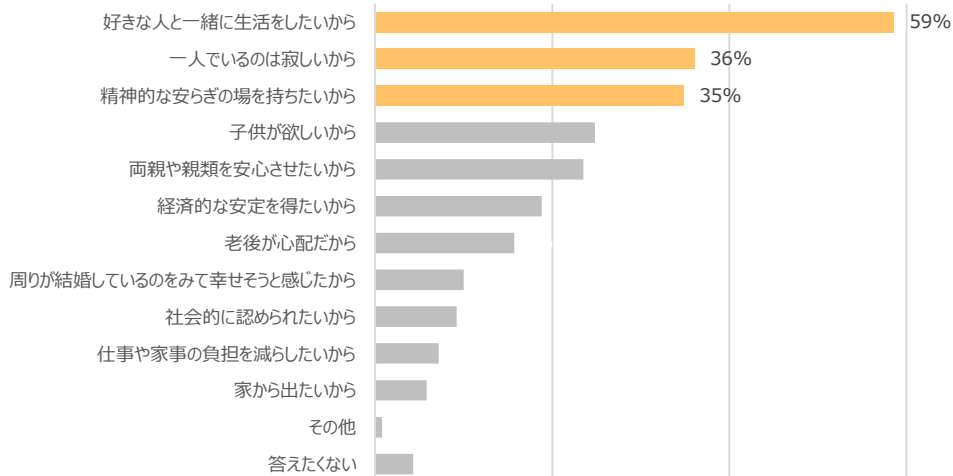
あなたは結婚に対してどのような考えをお持ちでしょうか。（ここでの「結婚」は事実婚・パートナーシップ関係を含みます。） n=5900



結婚したいと思う理由について、当てはまるものを全てお選びください。（複数回答）

n=3863

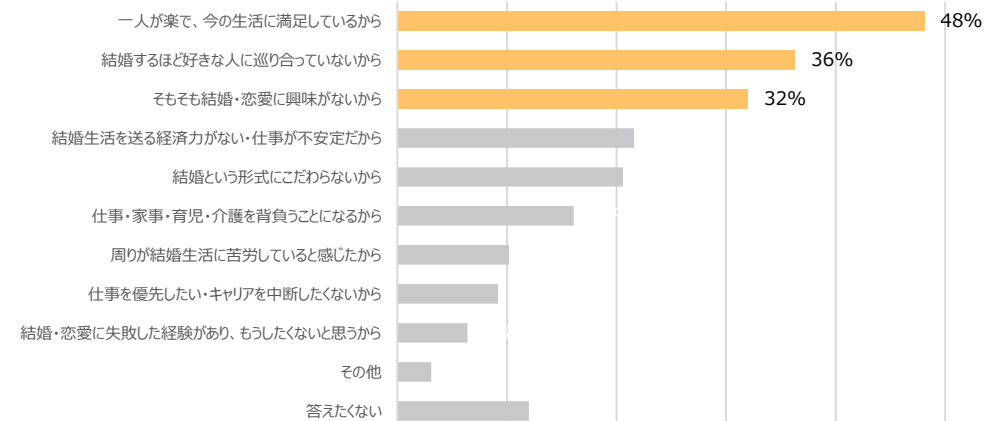
0% 20% 40% 60%



結婚するつもりはないと思う理由について、当てはまるものを全てお選びください。

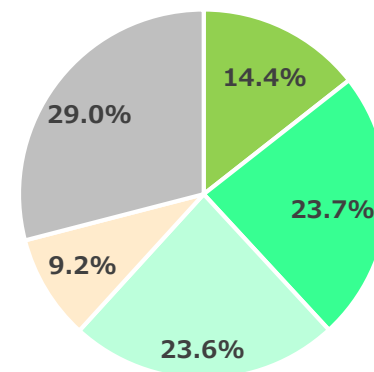
（複数回答） n=1396

0% 10% 20% 30% 40% 50%



東京は婚活がしやすい環境が整っていると思いますか。 n=5900

- 感じる
- やや感じる
- あまり感じない
- 全く感じない
- わからない

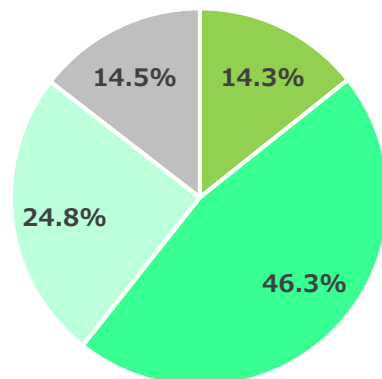


東京都「令和6年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

あなたの交際経験（恋人との交際）として当てはまるものをお選びください。

n = 5900

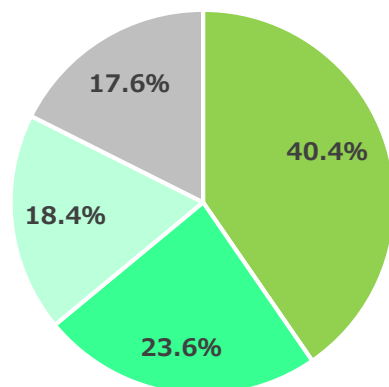
- 1人と交際した経験がある
- 複数人と交際した経験がある
- 交際したことがない
- 答えたくない



あなたは恋人との交際を望んでいますか。

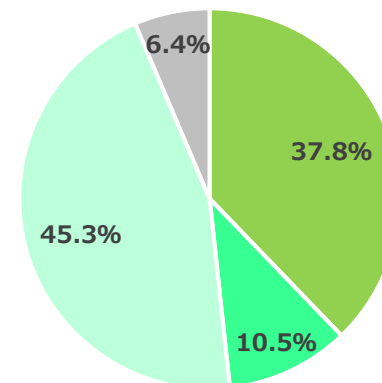
n = 5900

- 交際を望んでいる
- 交際を望んでいない
- 現在交際中
- 答えたくない

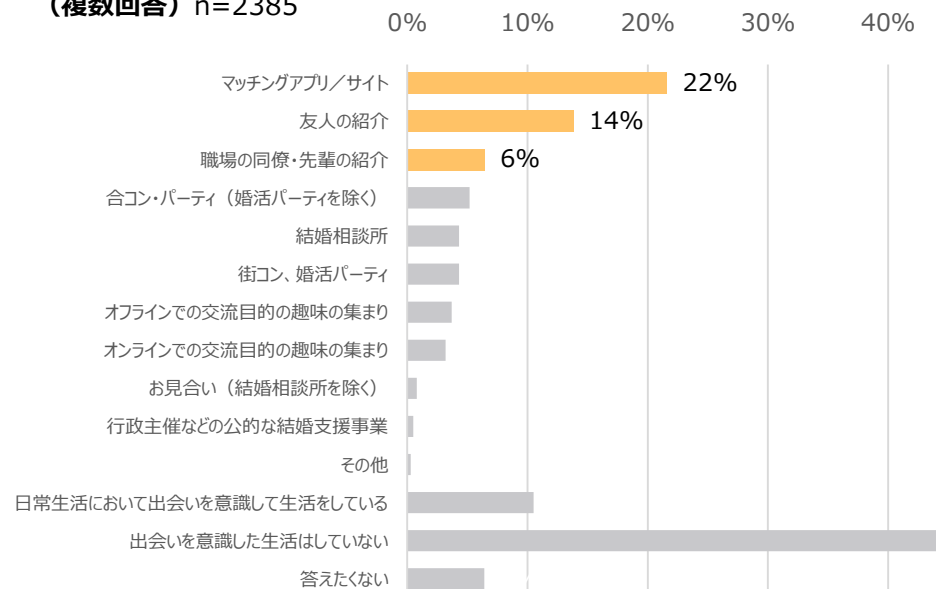


現在、結婚相手・交際相手を見つける目的で活動行っていますか。 n = 2385

- 結婚活動中
- 出会いを意識して生活している
- 出会いを意識した生活はしていない
- 答えたくない



実施している結婚相手・交際相手を見つける目的とした活動を全てお選びください。
（複数回答） n = 2385

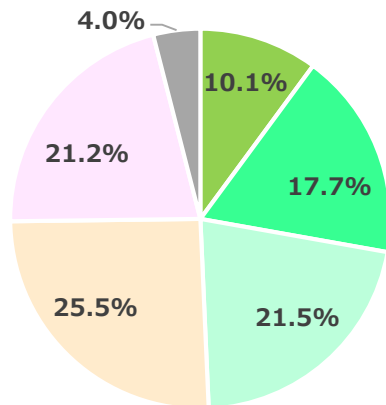


東京都「令和6年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

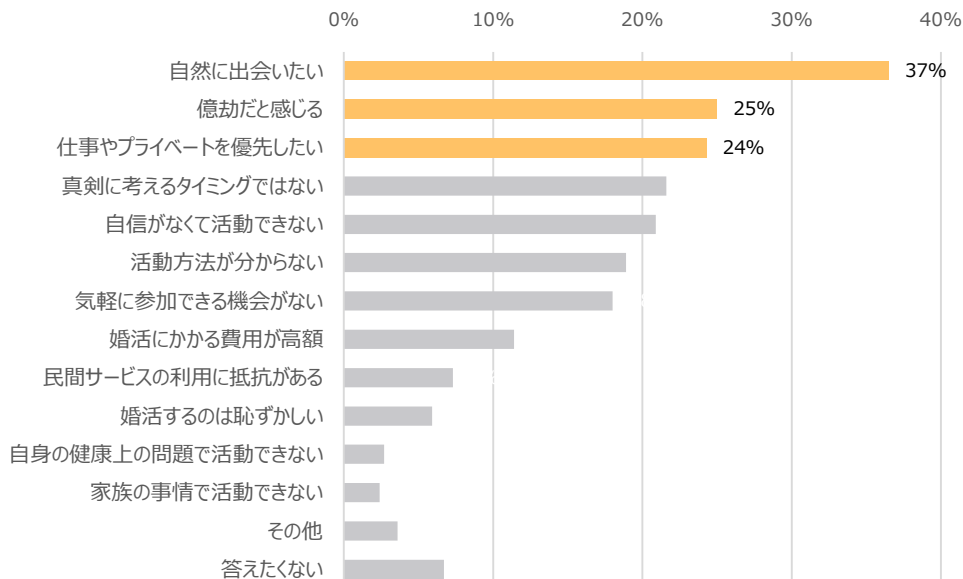
現在実施している活動を通して、交際相手となりうる人との出会いはありましたか。

n = 902

- かなりある（月数人）
- ある（月1-2人）
- たまにある（2-3カ月に1人）
- そこまで無い（半年に1人程度）
- 全く無い
- 答えたくない

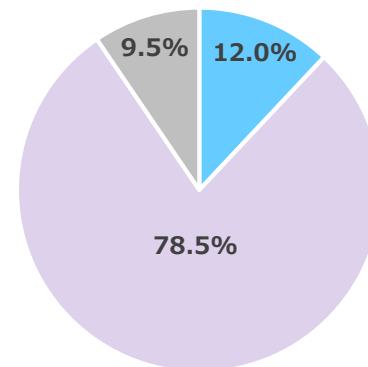


結婚相手・交際相手を見つける目的で活動を行っていない理由として当てはまるものを全てお選びください。（複数回答） n=1331

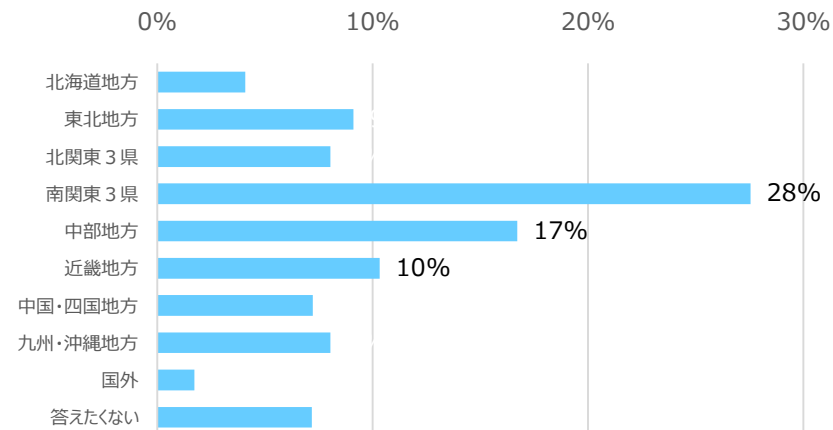


◆ 東京都に移住した年齢 n=4421

- 17歳以前
- 18歳以降
- 答えたくない



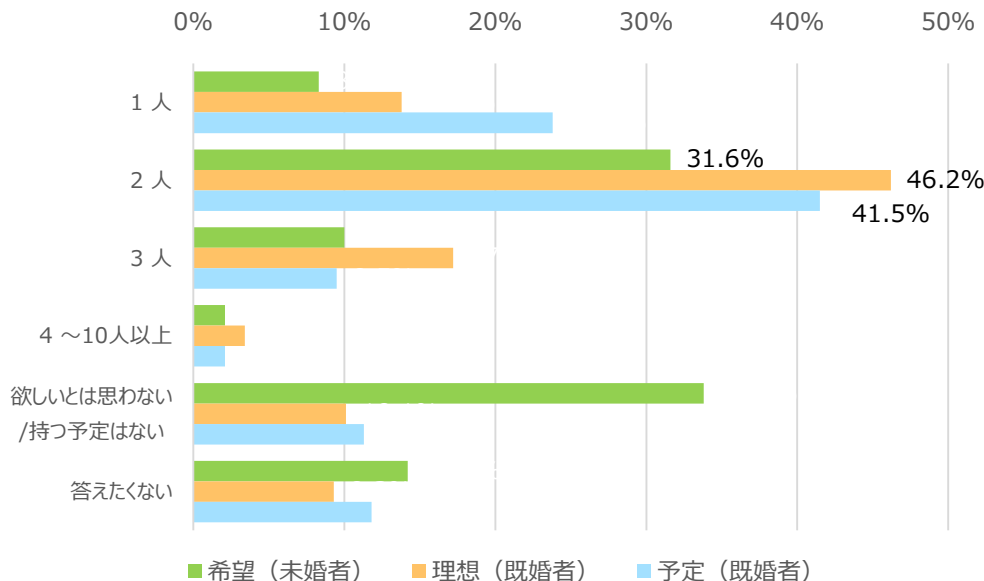
◆ 18歳になるまでの間で最も長く過ごした地域（東京都以外） n=4763



東京都「令和6年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

【子供に関する質問】

- ・あなた（未婚者）にとって、将来的に希望する子供の数は何人ですか。 n=5900
- ・あなた方ご夫婦にとっての理想的な子供の数は何人ですか。 n=4100
- ・ご夫婦にとっての予定の子供の数は何人ですか。 n=4100



◆子供の予定の数は、夫婦の理想の数より少ない

理想的な子供の数 平均1.9人

予定の子供の数 平均1.6人

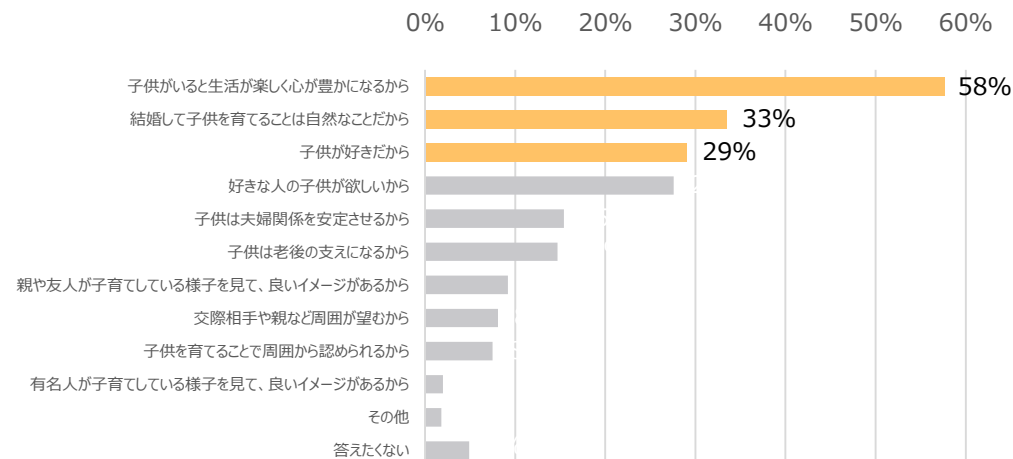
（参考）

本調査の回答者の完結出生児数 1.66人

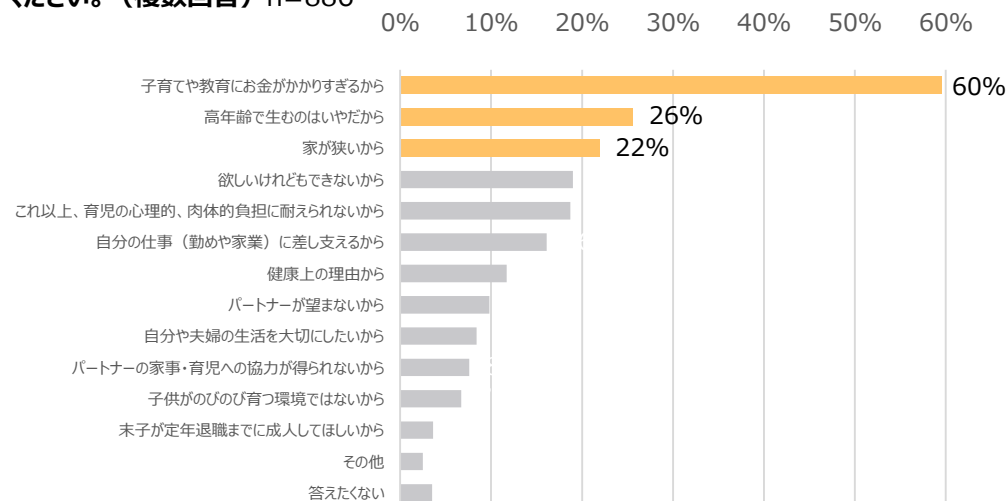
〔夫婦の出生子供数の割合（結婚持続期間15～19年）〕



予定の（希望する）子供の数を1人以上とお考えになる理由について、当てはまるものを全てお選びください。（複数回答） n=6221



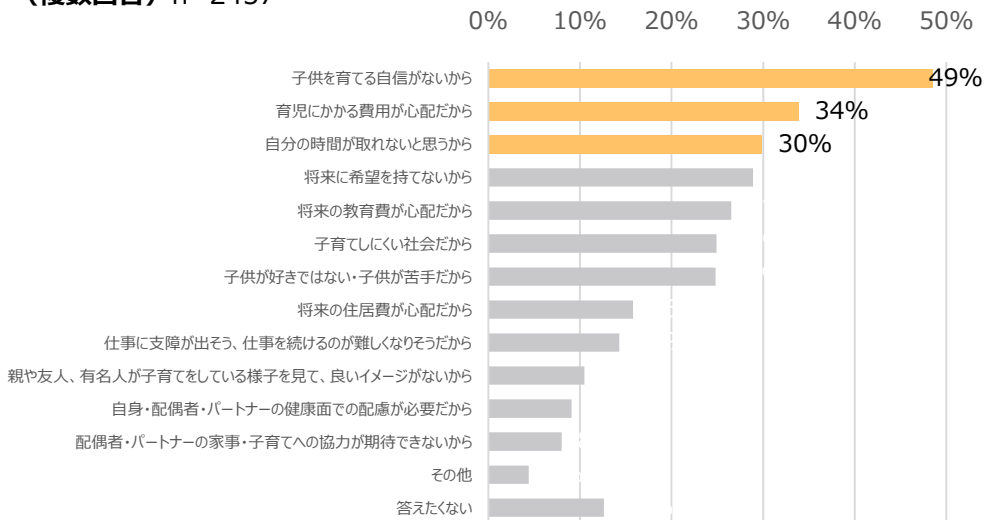
予定の子供の数が、理想的な子供の数より少ない理由として当てはまるものを全てお選びください。（複数回答） n=886



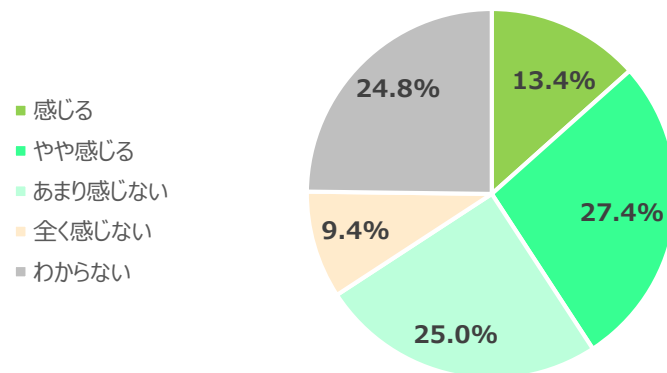
東京都「令和6年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

子供を欲しいと思わない理由について、当てはまるものを全てお選びください。

(複数回答) n=2457

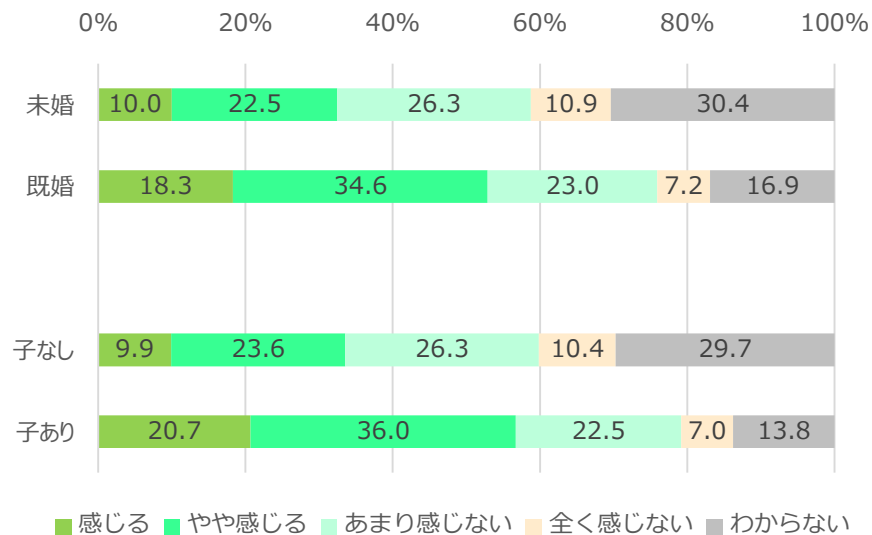


東京は安心して出産できる環境が整っていると感じますか。 n=10000



◆東京は安心して出産できる環境が整っていると感じますか。

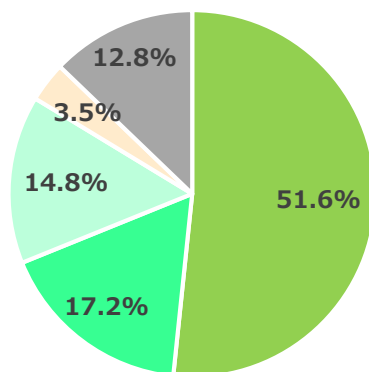
n= (未婚) 5900、(既婚) 4100、(子なし) 6547、(子あり) 3229



【妊娠・出産・子育てに関する質問】

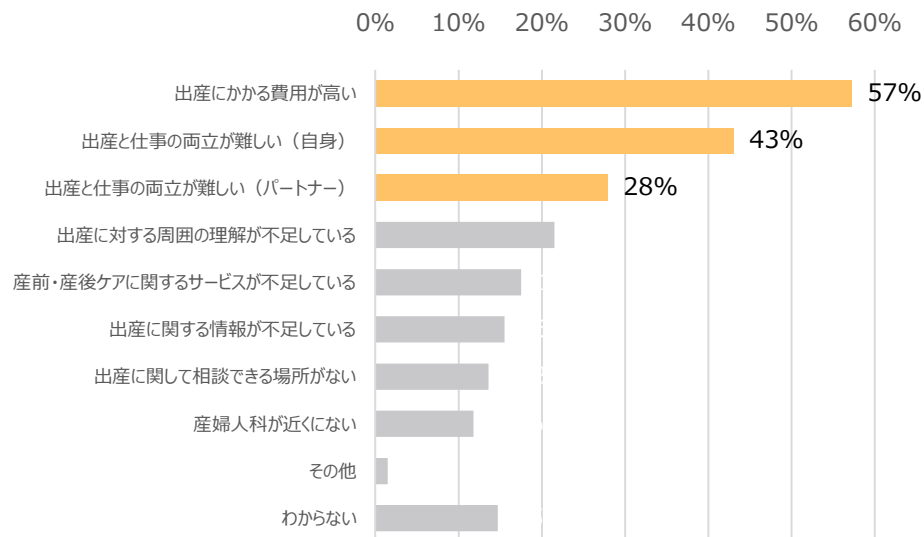
不妊を心配した経験や不妊治療の経験はありますか。 n=4100

- 特に心配した／していることはない
- 心配した／しているが、特に医療機関にかかったことはない
- 過去に検査や治療を受けたことがある
- 現在、検査や治療を受けている
- 答えたくない

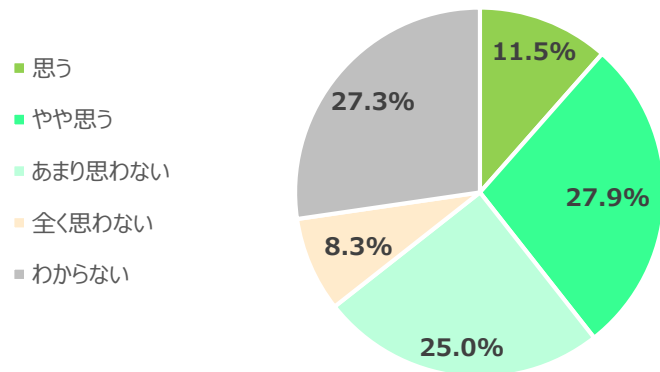


東京都「令和6年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

安心して出産ができる環境が整っていないと感じる理由として、当てはまるものを全てお選びください。（複数回答） n=3434

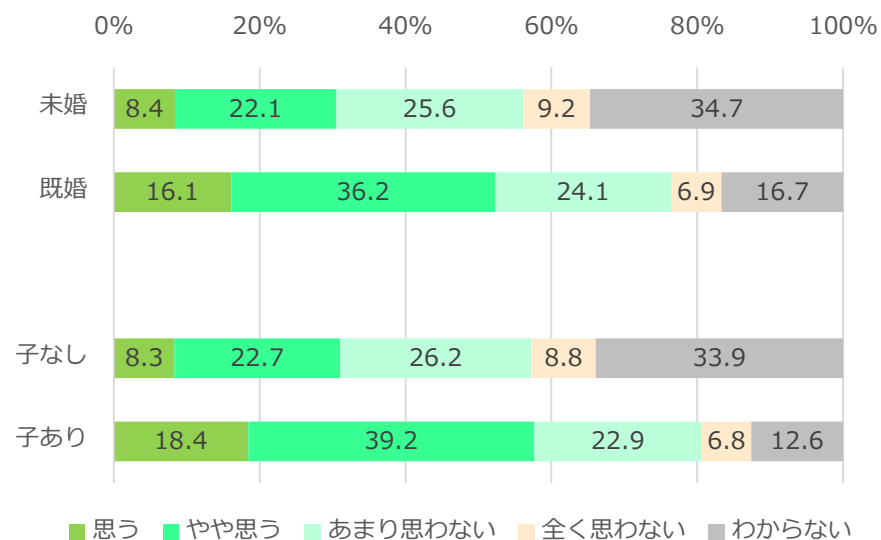


東京都は、子供・子育て支援の施策が充実していると思いますか。 n=10000



◆東京都は、子供・子育て支援の施策が充実していると思いますか。

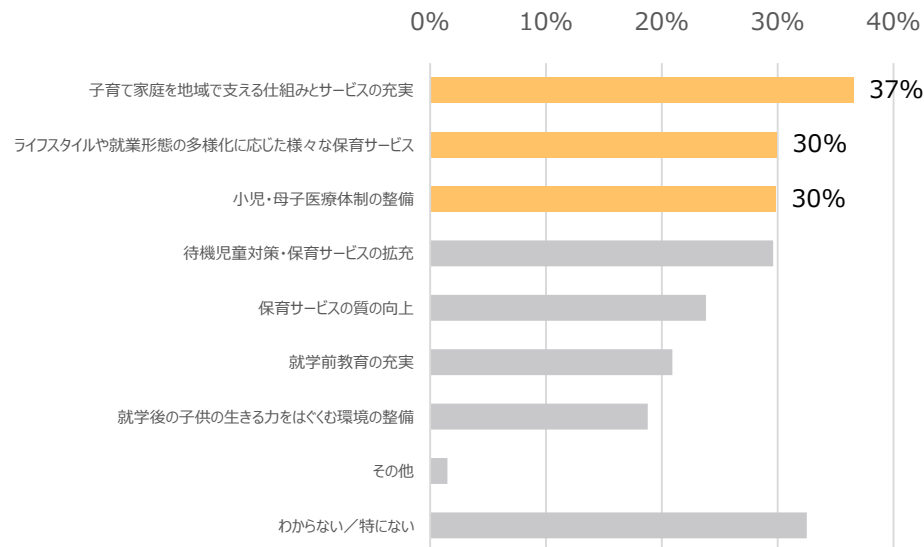
n=（未婚）5900、（既婚）4100、（子なし）6547、（子あり）3229



東京都「令和6年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

東京都の子供・子育て支援の施策として充実して欲しいと思うものを全てお選びください。

(複数回答) n=10000

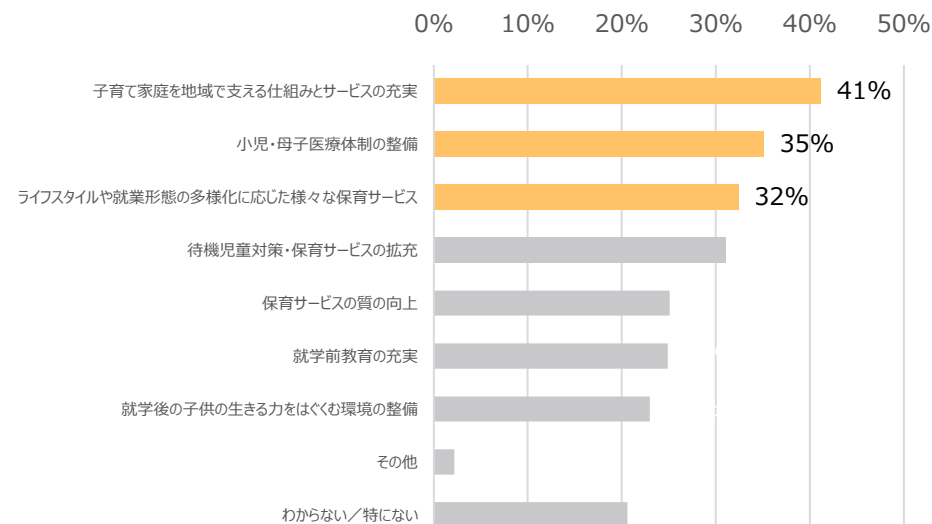


(上記設問の選択肢)

- ・子育て家庭を地域で支える仕組みとサービスの充実（子供家庭支援センターなどでの相談支援、一時預かりなど）
- ・ライフスタイルや就業形態の多様化に応じた様々な保育サービス（夜間保育、延長保育、学童クラブなど）
- ・小児・母子医療体制の整備（休日・夜間における小児診療体制の整備など）
- ・待機児童・保育サービスの拡充
- ・保育サービスの質の向上（保育従事職員への研修、保育人材の確保・育成など）
- ・就学前教育の充実（幼稚園、保育施設及び認定こども園における小学校就学前の子供に対する教育）
- ・就学後の子供の生きる力（「確かな学力」・「豊かな人間性」・「健康と体力」）をはぐむ環境の整備
- ・その他
- ・わからない／特になし

◆東京都の子供・子育て支援の施策として充実して欲しいと思うもの（複数回答）

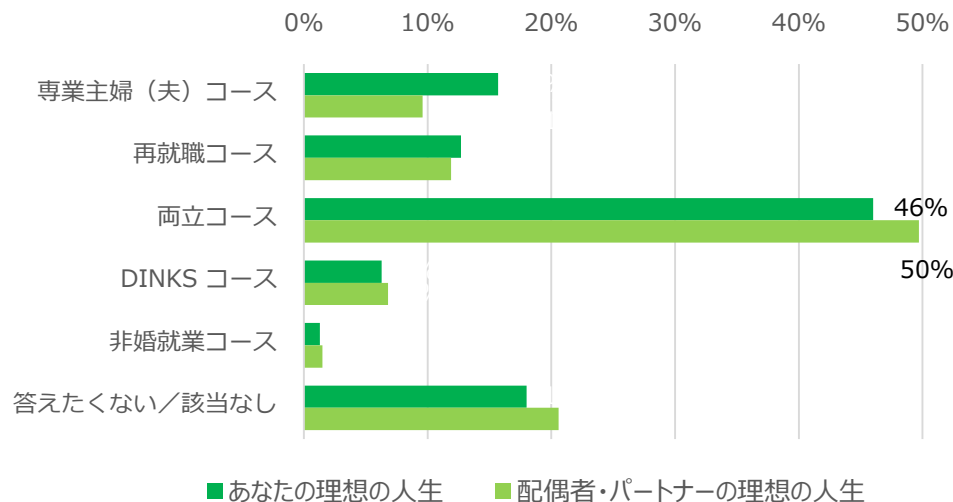
n=（子あり）3229



東京都「令和6年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

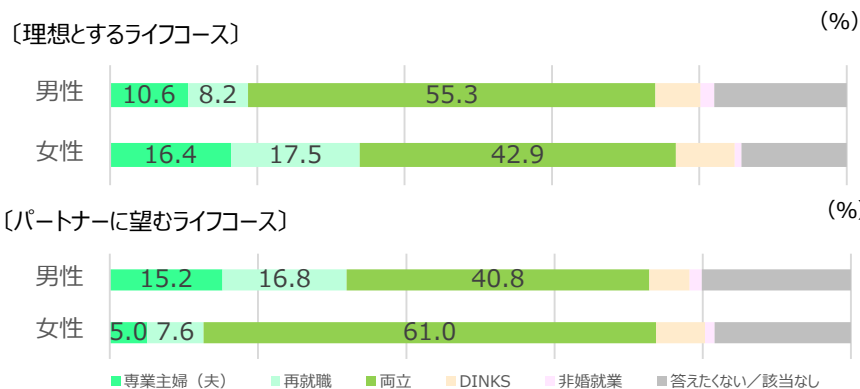
【就労環境・職場環境に関する質問】

あなたが理想とする人生と配偶者・パートナーに送ってほしい人生はそれぞれのタイプですか。当てはまるものをお答えください。 n = 7963



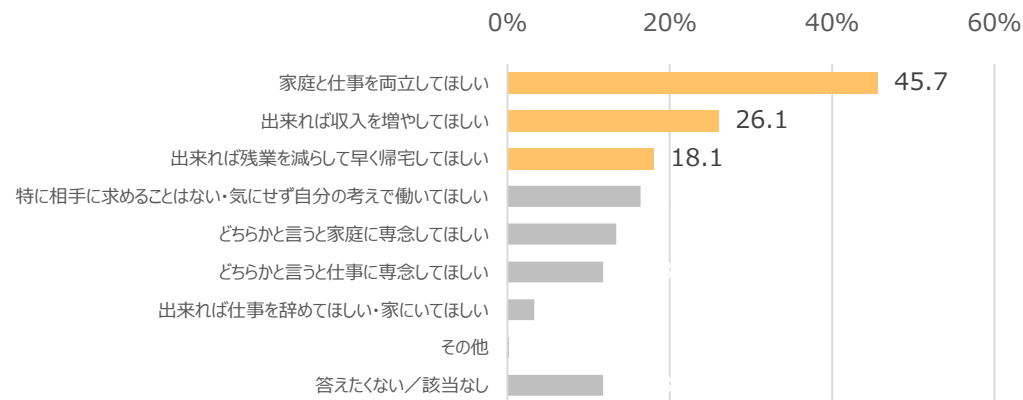
◆理想とするライフコース、パートナーに望むライフコース

n=(男性) 1668、(女性) 1684



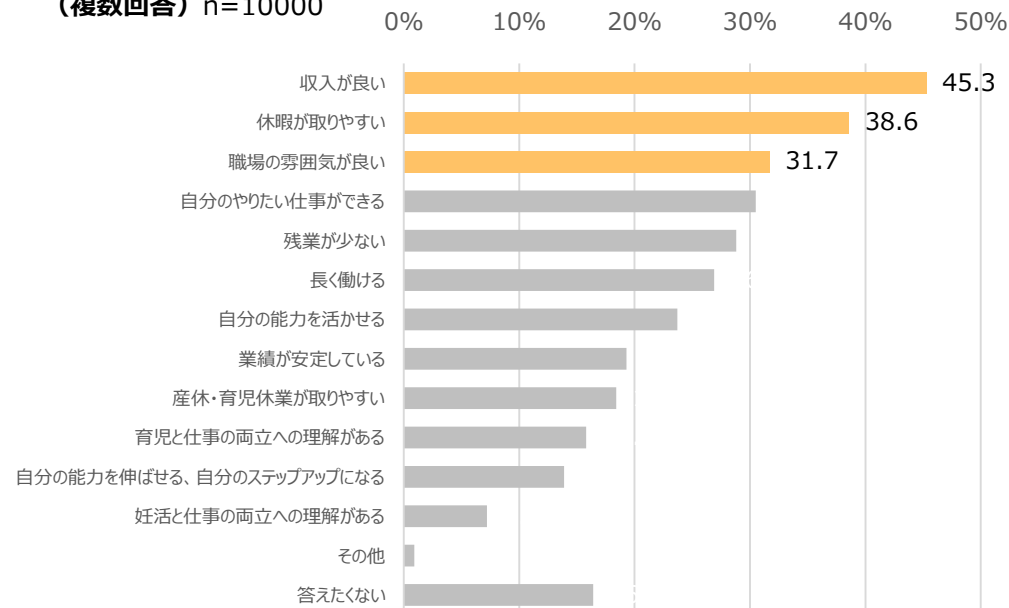
※対象は18～34歳の未婚者

あなたが配偶者・パートナーに望む働き方として、当てはまるものを全てお選びください。（複数回答） n=7963



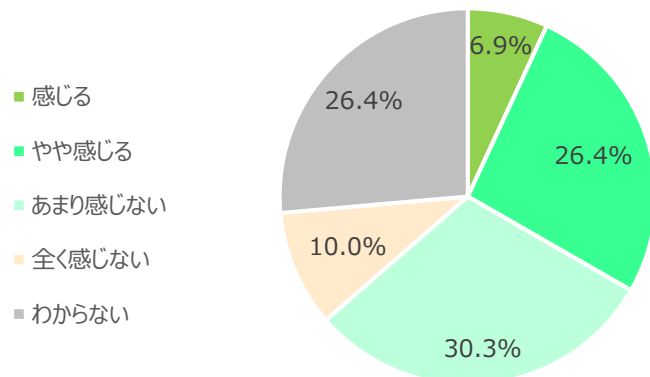
仕事や企業を選んだ時に重視したこととして当てはまるものを全てお選びください。

（複数回答） n=10000



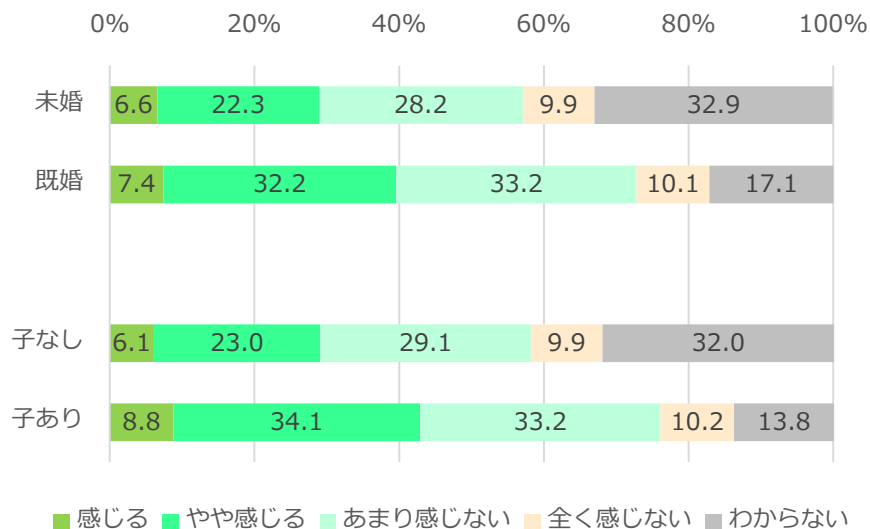
東京都「令和6年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

東京は育児と仕事の両立がしやすい環境が整っていると感じますか。 n = 10000

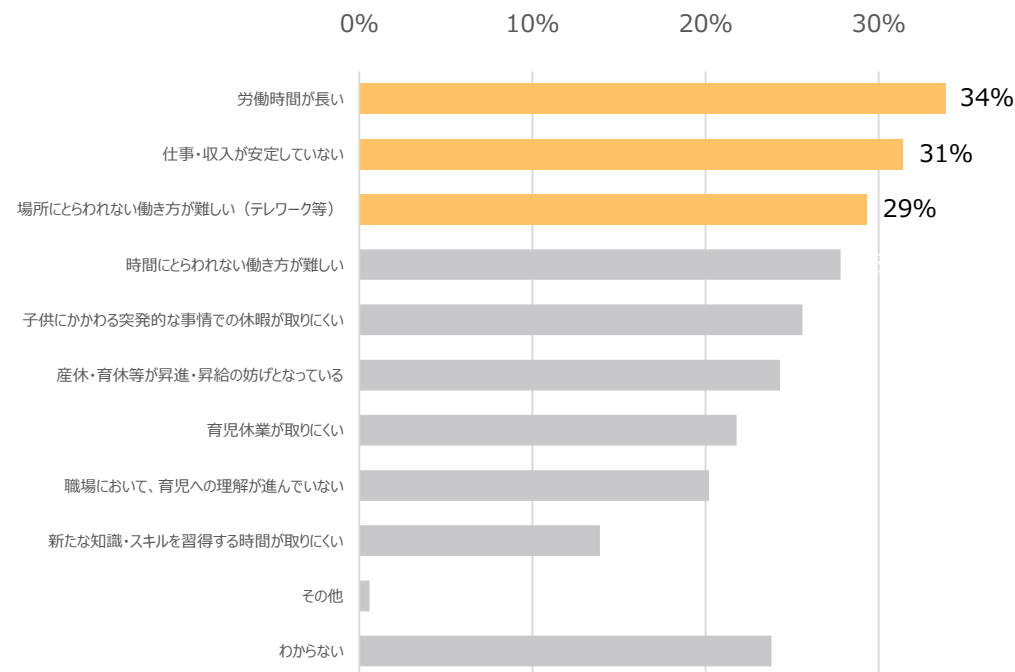


◆東京は育児と仕事の両立がしやすい環境が整っていると感じますか。

n = (未婚) 5900、(既婚) 4100、(子なし) 6547、(子あり) 3229



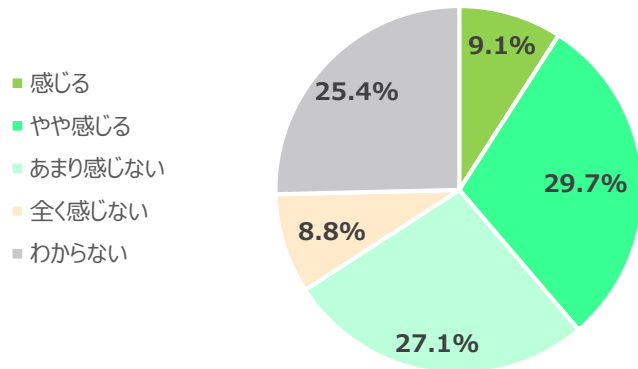
望む人が子育てする上で、仕事・働き方での課題は何ですか。(複数回答) n=10000



東京都「令和6年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

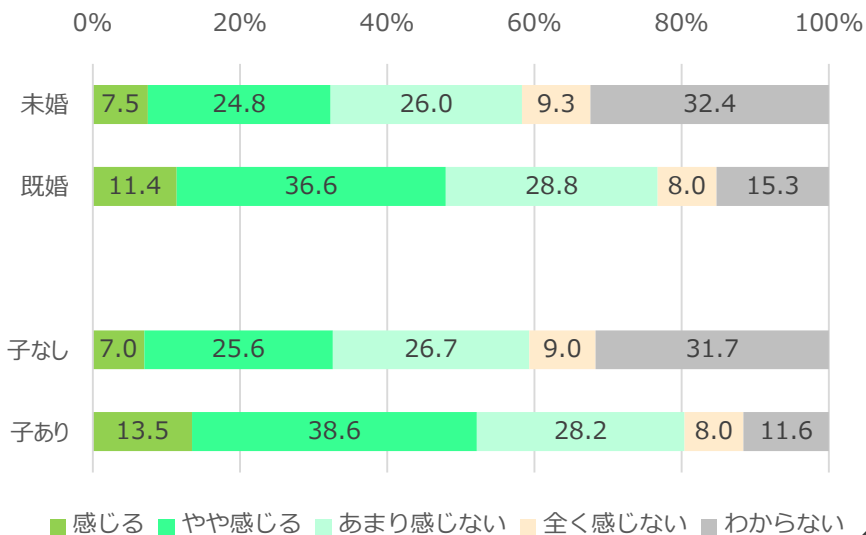
【子育て期に関する質問】

東京は子育て世帯に適した住まいと住環境が整っていると感じますか。 n=10000

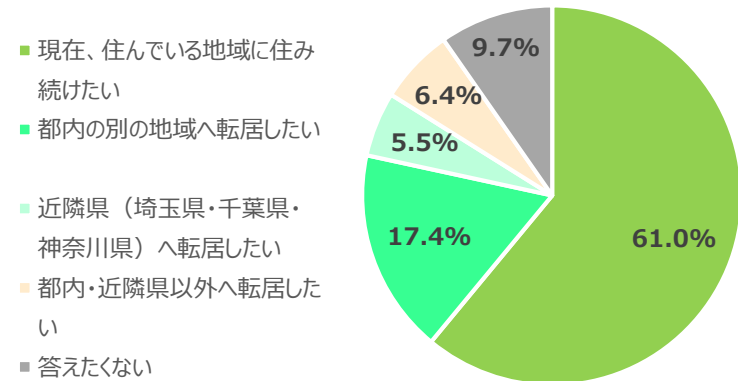


◆東京は子育て世帯に適した住まいと住環境が整っていると感じますか。

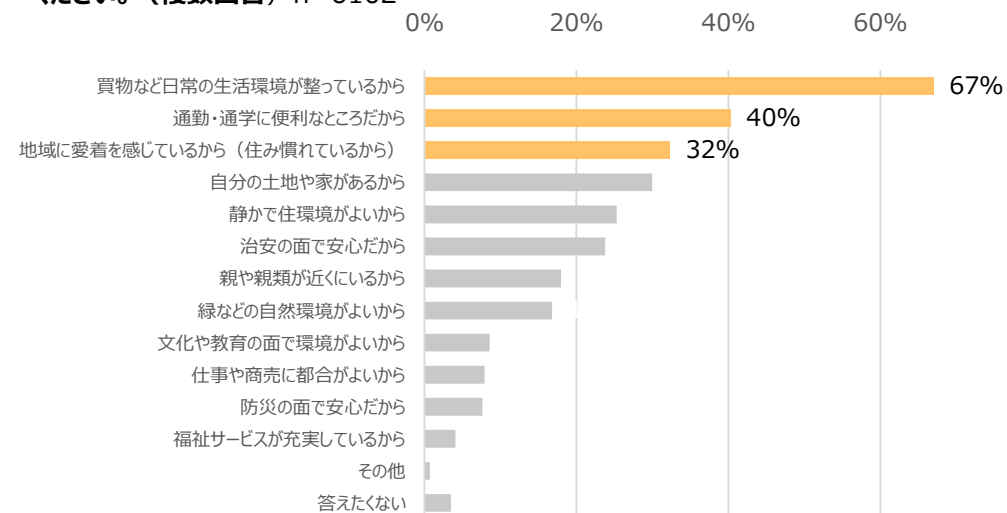
n=（未婚）5900、（既婚）4100、（子なし）6547、（子あり）3229



現在、住んでいる地域に今後も住み続けたいと考えていますか。 n=10000

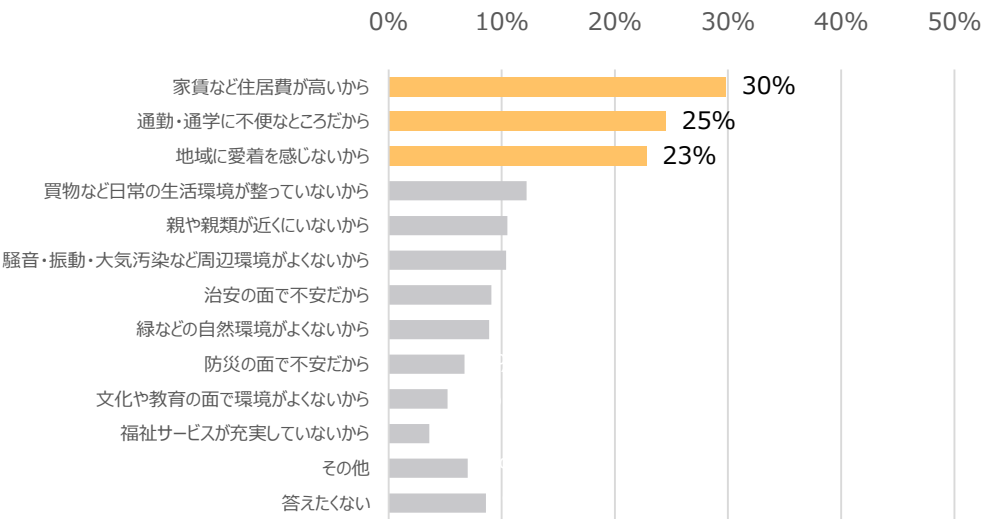


現在、住んでいる地域に住み続けたいと考える理由として、当てはまるものを全てお選びください。（複数回答） n=6102

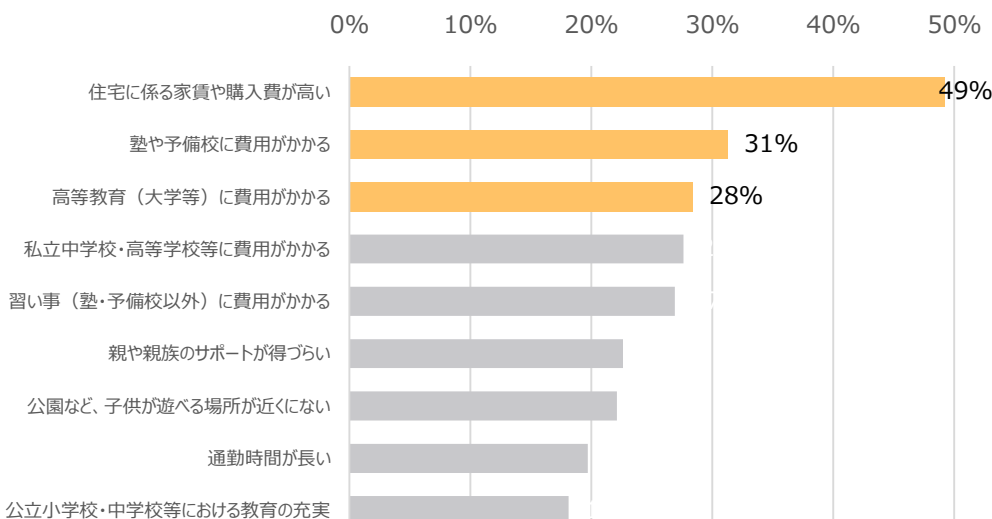


東京都「令和 6 年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

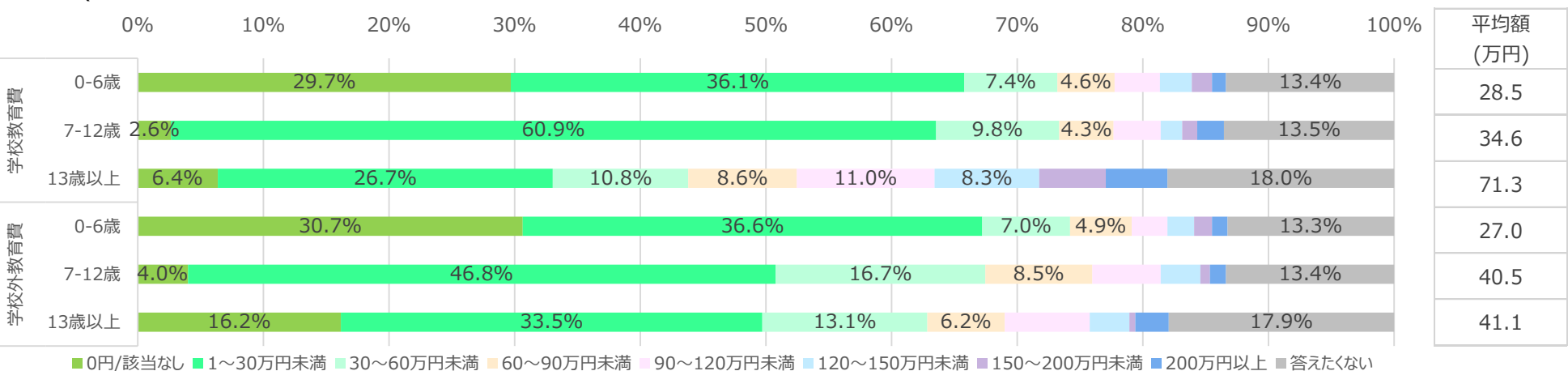
現在、住んでいる地域から転居したいと考える理由として、当てはまるものを全てお選びください。（複数回答） n = 2927



望む人が子育てをする上で、住環境・教育での課題は何ですか。当てはまるものを全てお選びください。（複数回答） n = 10000

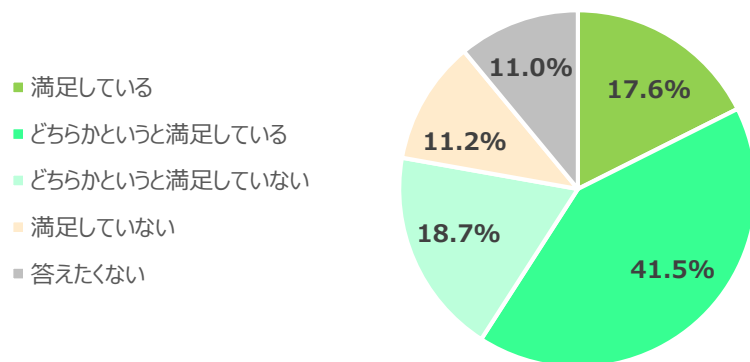


子供 1 人당 1 年間でかかっている教育費について、学校教育費と学校外教育費の自己負担額をそれぞれお答えください。
n = (0-6歳) 1690、(7-12歳) 1174、(13歳以上) 1020

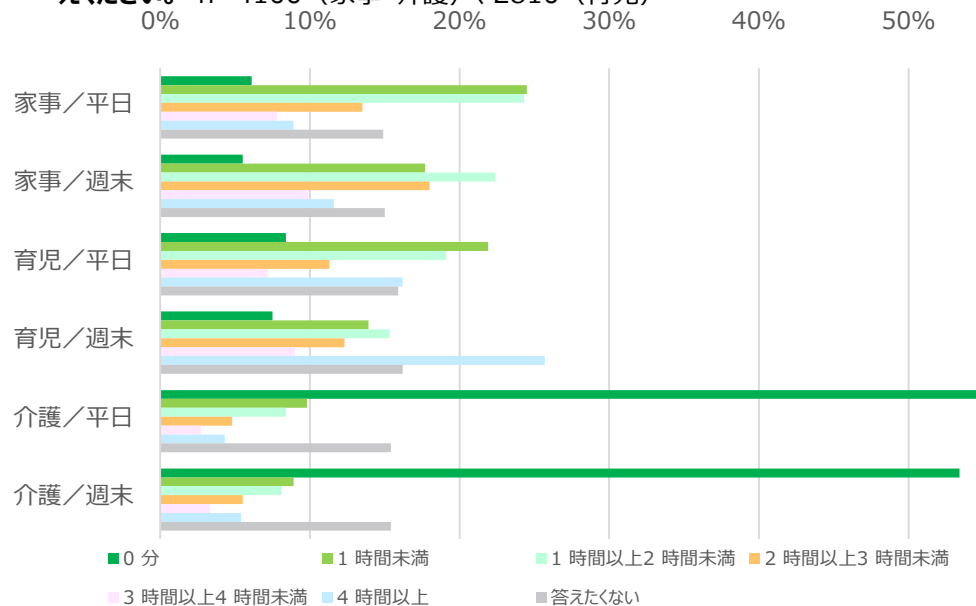


東京都「令和6年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

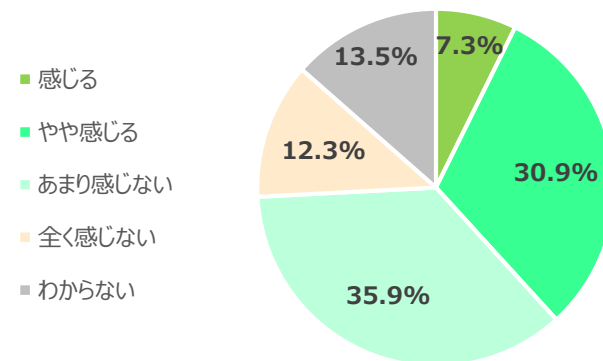
あなたは夫婦間における家事・育児分担に満足していますか。 n=4100



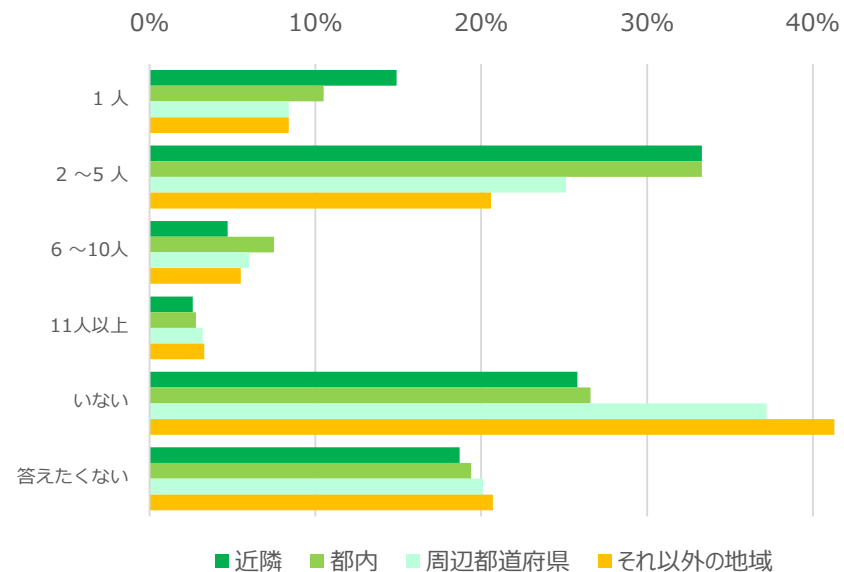
あなたが平日及び週末に家事、育児、介護にかかる時間（1日平均）をそれぞれお答えください。 n=4100（家事・介護）、2810（育児）



子育てをする上で、地域に支えられていると感じていますか。 n=3229

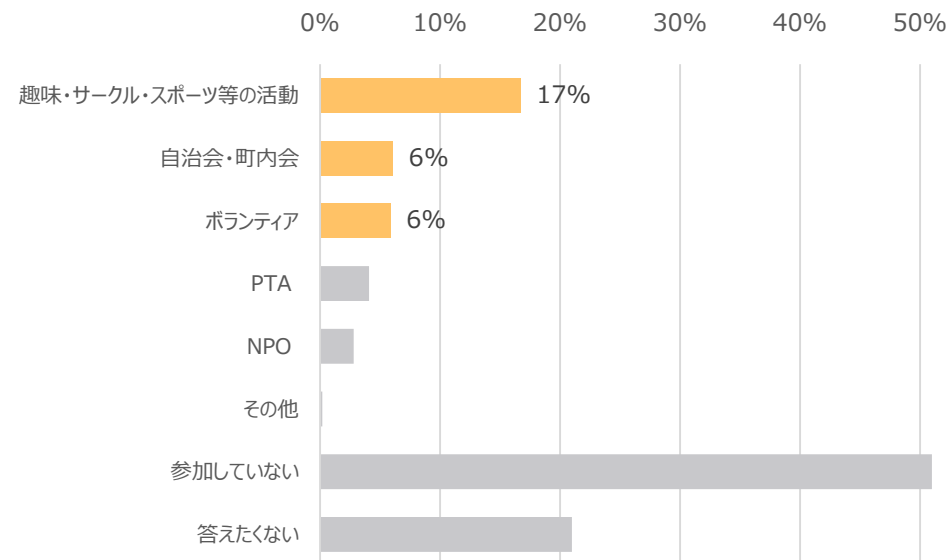


子育てに関して困ったことがあれば相談できる人が周囲に何人いますか。それぞれについてお答えください。 n=3229

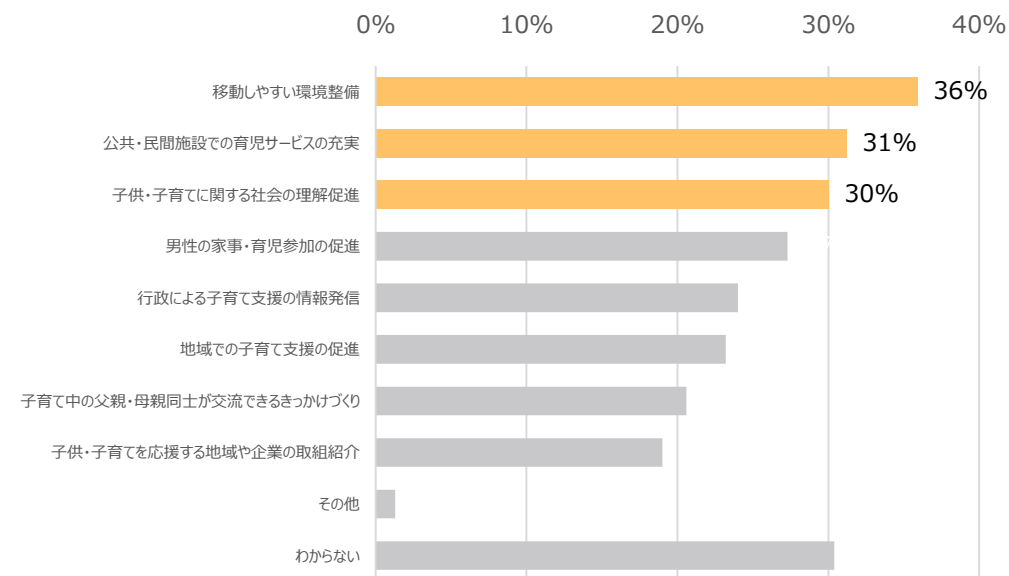


東京都「令和6年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

あなたが参加している、職業以外の社会活動、地域活動として当てはまるものを全てお答えください。（複数回答） n=10000



子供・子育てにやさしい社会をつくる上で、有効だと思う取組は何だと思いますか。当てはまるものを全てお選びください。 n=10000

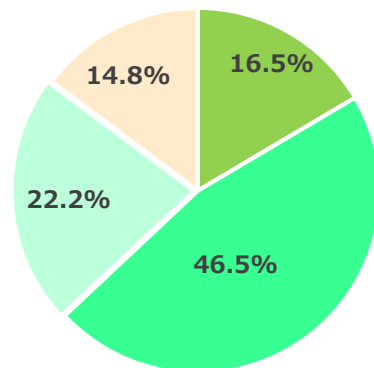


東京都「令和6年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

【社会気運・社会づくりに関する質問】

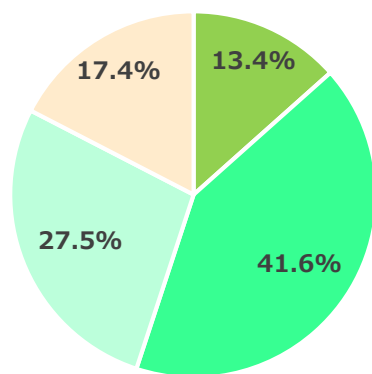
あなたは、今の自分の暮らしに満足していますか。 n=10000

- 満足している
- どちらかといえば満足している
- どちらかといえば満足していない
- 満足していない



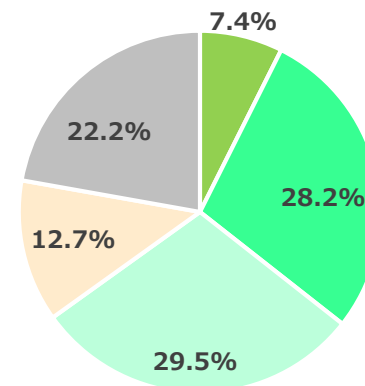
あなたは、自分の将来について明るい希望を持っていますか。 n=10000

- 希望がある
- どちらかといえば希望がある
- どちらかといえば希望がない
- 希望がない

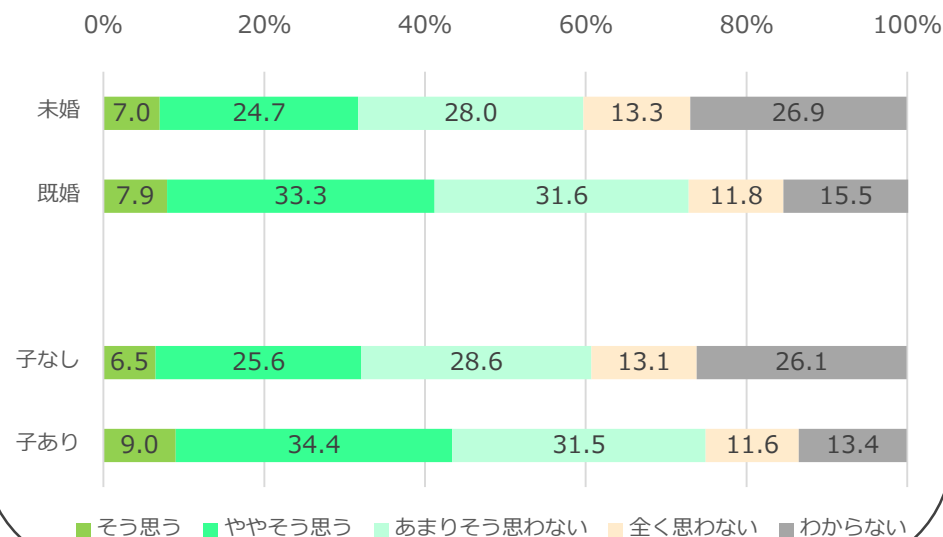


東京は、望む人が安心して子供を産み育てやすい社会の実現に向かっていていると思いますか。
n=10000

- そう思う
- ややそう思う
- あまりそう思わない
- 全く思わない
- わからない



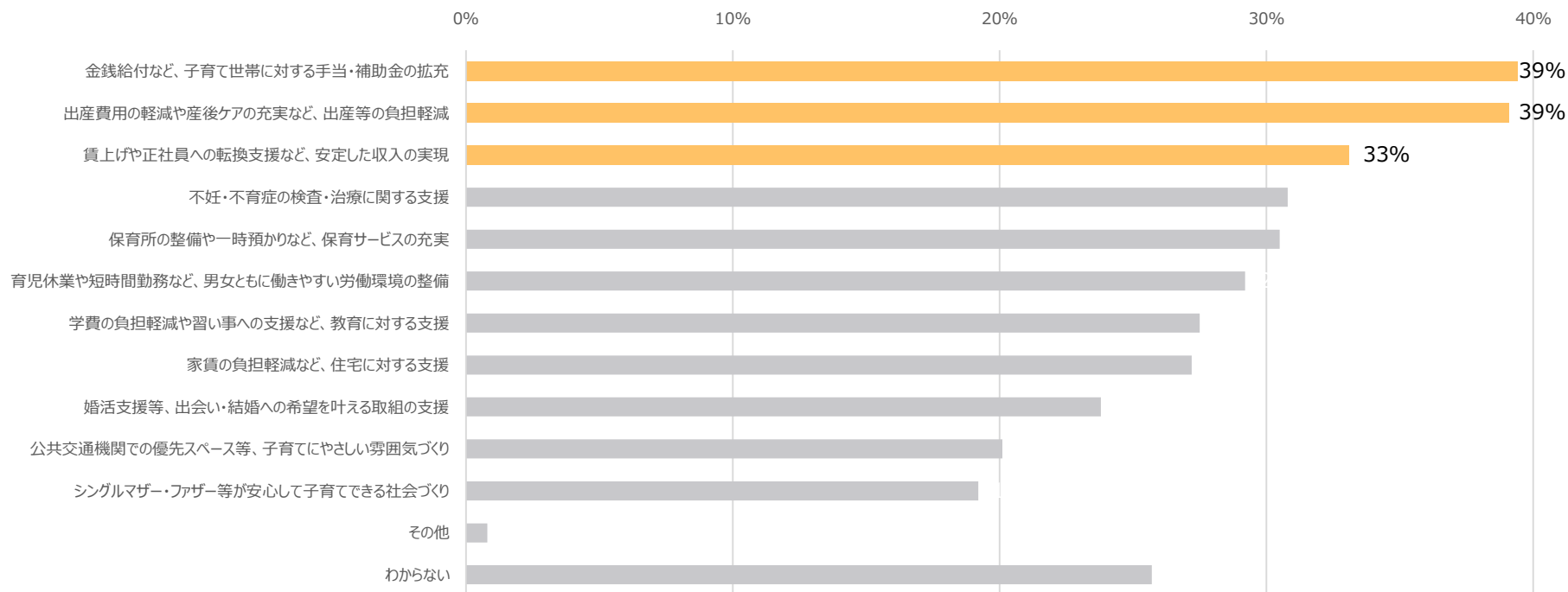
◆東京は、望む人が安心して子供を産み育てやすい社会の実現に向かっていていると思いますか。 n=（未婚）5900、（既婚）4100、（子なし）6547、（子あり）3229



東京都「令和6年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

望む人が結婚から妊娠・出産・子育てしやすい社会を実現するためには、どのような取組が有効だと思いますか。当てはまるものを全てお選びください。（複数回答）

n = 10000



東京都「令和 6 年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

〔グループインタビュー〕

グループ名 属性	番号	年代	職業	主な質問回答 ※空欄は発言なし						主なコメント要旨
				結婚に対する印象	結婚後の働き方 ※未婚は希望	東京に住みたいか	子供の希望	理想の子供の数	予定の子供の数	
M1 未婚 結婚意欲なし 男性	1	40代	自営業	ポジティブ			とても欲しい			・一緒にいたいと思う人、お金等の価値観が一緒の人が現れたら結婚を考える。能動的に探すつもりはない。 ・子供は良いと思う。お金とかそういうことではなく、手間はかかるが子供を持たなければわからないことが山ほどあると思う。 ・子育てはお金がかかり過ぎることがフォーカスされまくっているで、もっと「なんとかなるんだよ」という世の中の方が多分子子供が増えると思う。家があってお金の心配もなければ、安心して結婚して子育てできる。
	2	30代	会社員等	フラット			欲しくない			・結婚は縁がないもの。小学生の頃から結婚に興味がない。 ・体力的に仕事を続けることに自信がないので、相手を養う事ができなくなる不安がある。 ・結婚により社会的信用が得られる。
	3	30代	会社員等	ネガティブ			欲しい			・金銭面で余裕があるわけではないので、家庭を持って養っていける自信がない。子供を養う覚悟や自覚というのが自分には全然芽生えてこない。そんな責任は持てない。ちょっと怖いものだと感じている。 ・結婚の良さを伝えるようなポジティブな情報が流れてきたら意識は変わる。ネガティブな情報ばかり流れていて、そんな時代に子供を生んで将来子供は幸せになれるのかなと思ってしまう。
	4	40代	会社員等	ポジティブ			とても欲しい			・自分には向いていないと思う。幸せな生活が他の人とは送れない、一緒に生活ができない。 ・（結婚すると）一緒に住んで、家事をしったり助け合ったりするのかなと思うが、自分の中でその姿がイメージできない。 ・20代くらいの頃は漠然と結婚して子供ができたらいなぐらいに思っていたが、30代を過ぎたらそんなに簡単ではないと気付いた。
	5	30代	会社員等	ネガティブ			欲しくない			・結婚したいという願望はあまりない。結婚している人はそれで良いと思うし、結婚したいと思っている人ができれば良いと思う。 ・（結婚すると）相手を喜ばせるための出費が苦ではなくなった。そう考えられる生活は良いなと思う。 ・勢いで結婚大賛成。でき婚賛成。理詰めで考えると、結婚しない、一人の方が良いという方になってしまうので、勢いで情に流されるくらいにならないと結婚しないのではないかと、子供なんて増えないのではないと思う。
F1 未婚 結婚意欲なし 女性	1	30代	自営業	ネガティブ			欲しくない			・他人と暮らせない。自分の生活のリズムがあるので崩されたくない。余計なことでイライラして、感情に波を立たせたくない。 ・結婚は、自分の時間がなくなるイメージ。一日が家事で追われて、生きている意味を感じず、虚しくなりそう。 ・子供は、昔からいらなと思っていた。子供が全般的にあまり好きではない。 ・価値観が同じ人や、収入が同じか上の人がいれば、結婚を考えるかもしれない。
	2	40代	会社員等	ネガティブ			欲しくない			・人として生きていく上で、家庭をつくって、子孫を残さないといけない。自分は、結婚を義務と感じるので、逃げたい。 ・子育てしたり、1つの世帯で何人が暮らした方が、光熱費などライフライン全般でコストがいい。2人で暮らしても、費用は倍にはならないので合理的。 ・仕事との両立が絶対的に保証されれば出産する人が増えると思う。出産によるブランクで、仕事のキャリアが止まるのは嫌。職場は「理解がある」で止まってしまっている。実際には、制度が伴っていないで、産む方にデメリットがある状況。産休を取ったらどうなるんだろうと不安。
	3	40代	会社員等	ポジティブ			とても欲しい			・結婚したい理由は、子供が欲しいからなので、出産適齢期を過ぎた辺りで意欲がなくなった。子供が欲しいだけだから、結婚にこだわりはない。制度がきちんとしていなら、精子提供を受けて産むのもあり。卵子凍結はもう年齢的に遅かった。 ・40歳で結婚しない人生を歩むために経済的な人生プランを立てた。1人分の予算しかないで、誰かがきても困るし、誰かに乗っかるうとも思わない。 ・1人親でも両親でも、どのような親の構成であっても、社会から平等にみられて、同じような扱いを受けて子供が成長できるようなサポートがあれば良い。
	4	20代	学生	ネガティブ			欲しくない			・結婚すると扶養に入れる。無職ではなく、主婦と書けるのは社会的メリット。なぜ結婚していないのかという話題を避けられる。 ・親が死んだり、病気になったとき等、自分が弱っている状況や、社会保障、税制面で結婚が有利になるなら、結婚するかも。 ・会社でも時短勤務の人がいるが、仕事と家庭の両立が大変そう。働き続けられる、働ける環境づくりとして、すぐにベビーシッターを頼めたり、相談できる場所とかをつくと良い。相談できると気持ちが変わる。
	5	30代	無職・家事手伝い	ネガティブ			欲しくない			・結婚とは、子供を育ててくれたり、ご飯を作ってくれる相手を探すというような、自分にとってメリットのある人を探すイメージ。 ・結婚意欲は子供の頃から無い。男性に従わなくてはならないのが嫌だ。特に金銭的に相手に依存していると、余計に従わないといけないと思う。 ・お見合い結婚の方が上手いくと聞いたことがあるので、人の力を借りるような、サポートがあればいい。例えば、結婚相談所は費用が高いので、ライト版などがあるといい。

東京都「令和 6 年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

グループ名 属性	番号	年代	職業	主な質問回答 ※空欄は発言なし						主なコメント要旨
				結婚に 対する印象	結婚後の 働き方 ※未婚は希望	東京に 住み続けたいか	子供の 希望	理想の 子供の数	予定の 子供の数	
M2 未婚 婚活なし 男性	1	30代	会社員等	フラット	相手次第	住み続けたい	どちらとも 言えない			・お互いを知り合っていくという過程で、自分が面倒になり、相手とすれ違ってしまって、付き合うところまで発展しない。 ・結婚すると、家事の時間が短縮される。転職しにくい。話し合いで解決するにしても、いきなりの転職は難しい。 ・結婚後の働き方は、相手にも自分の人生があるので尊重する。転職は、家も買っだろうし、昇進を伴ったとしても断る。子供は、産むのは女性なので、負担のかかる女性の希望が第一でその後に話し合い。産めなかつたら、施設から養子を受けてもいいと思う。
	2	30代	会社員等	ポジティブ	相手次第	住み続けたい	欲しい	3人	3人	・結婚は、好きな人とずっと一緒にいれるのが良いと思う。社会的信用を得ることができる。 ・お金の不安がなくなれば結婚しやすくなる。結婚しようとなった時、結婚費用・生活費・老後などお金が一番心配。 ・意見が分かれたときに、1人なら自分の意思だけで進められるが、（結婚すると）相手と話し合いをしないといけない。 ・子供が好きなので、自分の子供ができるのは良いと思う。自分はテレワークなので、相手に合わせられる。子供ができて、基本的に子供を見られる。
	3	40代	会社員等	ポジティブ	相手次第	住み続けたい	とても 欲しい	2人	1～2人	・マッチングアプリなどでお金を払って出会うのは嫌。自然な流れで付き合いたい。アプリはどうせスクラばかりという疑いの目で見ています。 ・結婚して誰かと一緒に過ごしたら楽しいのでは。病気のときにも看病してくれる。子供が欲しいと思えば結婚しないと。 ・子育ては、子供が病気になると会社を休んだり、早く帰らないといけない。自分の時間が制約される。経済的に難しいため、理想より子供が増えることはない。
	4	40代	会社員等	ポジティブ	相手次第	住み続けたい	とても 欲しい	2人	1～2人	・結婚すると、大変なことや楽しいことを共有・相談できる。交際している人とずっと一緒にいたいと思ったら、自然に結婚したいと思うのではないかな。 ・仕事は、相手がたいように働いてもらって構わない。相手に夢ややりたいことがある場合、頑張っていることを認めないのは違うと思う。自分が合わせる。子供は、パートナーと相談しつつ決めた。 ・まさに結婚しようとしている人ほどネットなどで調べるので、その人に補助や広報をするのが大事。本当に必要な人に集中的に補助した方が効果的。
	5	20代	会社員等	フラット	相手次第	とても 住み続けたい	どちらとも 言えない			・婚活を始めるきっかけがない。この先1人になってしまうのが不安。 ・結婚すると、相手の人と生活を共にして楽しい。社会的信用を得ることができる。子供が育つときなど、今後の楽しみが増える。 ・結婚後の仕事は、自分が相手に会社を辞めると強要されると嫌なので、相手の好きにしてもらって構わない。 ・子供は、女性の考え方が大事で女性次第。自分から作ろうとはならない。産むのは女性であり、女性の体の問題がある。
F2 未婚 婚活なし 女性	1	40代	会社員等	ポジティブ	共働き	どちらとも 言えない	欲しい ない			・昔は多少なりとも婚活パーティーや街コンに行ったが、年を取ると出会う確率も低くなり、面倒に思ってきた。 ・結婚は、1人ているよりも安心感がある。定年後に信頼できる人が近くにいると安心する。気の合う人というと楽しくもある。 ・子供は、若い頃は欲しいと思っていたが、30歳を過ぎて、結婚できるか、また、経済的にも昇給しているわけでもないで、年齢的・経済的に不安で難しいと思っている。
	2	30代	会社員等	ポジティブ	共働き	あまり住み 続けたくない	欲しい ない			・1人だと孤独を感じるので、結婚して安心感が欲しい。 ・結婚すると、家事など、自分だけじゃなく相手の世話もしなければならぬ。 ・結婚しても、自分の働き方は変わらない。パートナーは、異動と転勤がなければ良い。 ・出産は年齢的に厳しく、授かったとしても社会の風当たりが強く不安。
	3	30代	会社員等	ポジティブ	共働き	あまり住み 続けたくない	とても 欲しい	2人	1人	・婚活での出会いで結婚をしたくない。アプリを使ったり、パーティー等で集まるのに抵抗がある。そこまでしないと結婚できないと言っているような感じがする。アプリは、体目的の人がいそうで怖い抵抗がある。趣味、職場、友達で紹介して結婚するのが理想的。 ・結婚して、親を安心させたい。妹は結婚して子供もいるが、自分も結婚すれば親は安心できると思う。 ・独身だと肩が狭いが、結婚すると自分に箔が付く。100%自分のための時間が、相手のために使われないといけなくなる。
	4	30代	会社員等	ポジティブ	共働き	とても 住み続けたい	とても 欲しい	1～2人	1～2人	・まだ大丈夫なのではと思っている。お金をかけてまで出会いたくない。その費用がもったいない。 ・世間体を気にしている。実家の親族から、まだ結婚しないのかと言われる。自分は結婚したいと思っていない。 ・子供は、経済的な面で厳しい。自分の収入が少なく、相手が不安定で収入が少なく厳しいと思う。 ・給料を増やしてほしい。東京がどうこうではなく、給料が上がるのが大切。収入が増えれば、子供を産むことに積極的になる。
	5	20代	学生	ポジティブ	共働き	とても 住み続けたい	とても 欲しい	2～3人	2人	・婚活をすることに抵抗がある。そこまでして相手をつくらなくても良いと思うので、アプリなどを利用するつもりはない。 ・人に自分の話をするのが好きなので、結婚したら気兼ねなく今日の出来事などを聞いてもらえるのが楽しい。友達とはすべてを話せないが、何でも話せる結婚相手が欲しい。 ・結婚にどのくらいお金がかかるのかわからないが、雇用の安定などが大切だと思う。

東京都「令和 6 年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

グループ名 属性	番号	年代	職業	主な質問回答 ※空欄は発言なし						主なコメント要旨
				結婚に 対する印象	結婚後の 働き方 ※未婚は希望	東京に 住み続けたいか	子供の 希望	理想の 子供の数	予定の 子供の数	
M3 未婚 婚活中 男性	1	40代	会社員等	ネガティブ	共働き	とても 住み続けたい	とても 欲しい	2人	1人	・結婚は助け合い。自分ができないときにやってもらえる。逆も然り。老後に1人だと不安だし、子供がいた方が安心する。 ・アプリはサクラもいるし、恋活目的の人もある。職業限定の婚活パーティは、実際に顔を見て話せるので、イメージ通りの人とマッチングできる。 ・子供ができたら、今の働き方では限界があるかも。都は育児関係の手当が手厚く、充実。共働きなら都内で子育てが良いと思う。 ・結婚するために、アプリ登録やお見合いのお茶代等で結構なお出費がかかる。（結婚前・）出産前の段階で、まとまった手当てと支援が欲しい。
	2	40代	会社員等	ポジティブ	相手次第	住み続けたい	とても 欲しい	2人	1人	・1人でも楽しいが、思い出が共有されなくて寂しい。レストランや旅行に行くにしても、1人だと行きにくい場合がある。周りの人が結婚してきて自分が結婚していないことへの負い目や劣等感がある。 ・家の価格が高いので、ダブルインカムでないと家を購入できない。結婚によって自分の働き方は変わらないが、子供ができたら変わると思う。パートナーにはしたいように欲しい。ただ、社会との繋がりを持つ意味で専業主婦よりも働いていた方が良いと思う。
	3	40代	会社員等	ネガティブ	相手次第		欲しい ない			・管理職をしていて、部下が結婚しているのに自身が独身だと、私生活がよろしくないと思われる。特に、取引先などの周りの目が気になる。 ・アプリで知り合った人とは、実際に会話しないと人となりかわからないため1回は会うが、その後の関係に繋がらない。 ・財布は独立させたいため、共働きのほうが良い。子供がいたら楽しそうだけど、時間も取られそう。自分の時間が大切なので、子供はいらない。 ・日本の先行きが不安。子供が幸せになるのかわからなく、明るい未来が見えない。明るい未来が見えたら結婚したい。
	4	30代	会社員等	ポジティブ	共働き	とても 住み続けたい	とても 欲しい	2人	1人	・1人でも居心地がよかったが、子供ができた妹や結婚したいとこが楽しそうだった。結婚すると価値観が広がるのかな、という心境の変化もあった。 ・アプリは、女性の知り合えない職場環境でも女性と出会えるが、アプリで知り合った人のうち、9割は1回会って関係が終わってしまう。 ・結婚しても、今は女性が自己実現するのが普通だと思うから働いて欲しい。子供は精神的に1人が限界だと思う。様々な職種で多様な働き方ができればいい。夫婦で仕事の拘束時間が重なると子育てできない。パートナーの中で解決できる問題は解決できるように制度を整えてほしい。
	5	30代	会社員等	ネガティブ	共働き	どちらとも 言えない	とても 欲しい	2人	1人	・アプリで会った人は円満に終わる。数回会った後に、考え方が違うのでお互い頑張りましょう、という形で円満に関係を解消できる。 ・自分に1人で支えられるほどの収入があるわけでもないで、フルタイムで働いて欲しい。子供は2人が希望だが、現実1人だと思う。 ・地元（北関東）に帰れば、子育て面で親の力を借りられるメリットがある。仕事が許されるなら東京にこだわらない。 ・行政主導の婚活パーティーや結婚した人が対象の手当の給付などがあれば、婚活に本腰を入れる人も増えると思う。
F3 未婚 婚活中 女性	1	30代	会社員等	ポジティブ	共働き	どちらとも 言えない	欲しい	1人	0～1人	・経験として1回くらいは結婚したい。家族が欲しい。誰かと一緒にいた方が、一人よりメリットが大きいと思う。世帯年収が増える。 ・アプリの良さは、たくさん出会える事。紹介だと最大1人、2人。アプリはもっと会えるが、ブロックされやすく、ゆっくり関係を育みにくい。 ・（結婚後も）自分の働き方はあまり変えたくない。子供は授かりもの。子供ができたら、どちらかの実家に近い方に越す等、利便性を重視したい。 ・二人ペアが親ではなく一人親や同性婚等様々なかたちが法的にも認められたい。医療費や大学までの学費等は自治体や国の補助があると良い。
	2	40代	会社役員・ 団体役員	ポジティブ	共働き	住み続けたい	とても 欲しい	2～3人	0人	・安心感につながる。外で頑張っていくにあたって、味方でいてくれたり理解者になってくれそう。 ・結婚相談所は「結婚、結婚」と自分の婚活の熱量・スピード感と合わなかったため、時間を掛けてできるアプリに興味を持った。 ・これから新しいパートナーを探して、結婚できるかどうかという時間があって、子供はすぐにできるわけでもなくて考えると子供は年齢的に難しい。 ・結婚＝幸せというイメージが湧かない。もっと強くイメージできる機会があれば気持ちも変わってくるのではないかな。
	3	20代	会社員等	ポジティブ	共働き	住み続けたい	とても 欲しい	2人	0～1人	・自分の身近な味方になってくれる。味方になり得る人がいるというのは結構良いと思う。 ・職場恋愛は嫌で、アプリは知らないコミュニティの人と出会うことができる。ただし、声や話し方、話のテンポなどは会ってみたいとわからないのが難しい。 ・パートナーには、仕事も残業はどのようにしても良いが、家庭も大事にして欲しい。経済的な理由で十分に育てられなくて、子供に我慢させるのではないと思う。自分が親にしてみたらように、もしくはそれ以上のことをしてあげたい。
	4	20代	会社員等	ポジティブ	共働き	あまり住み 続けたくない	とても 欲しい	2人	0～1人	・仕事とかが辛いときも家族がいれば楽し（過）こせそう。辛いときなどに助け合える。仕事と家事は両立して協力してやっていきたい。 ・子供は欲しい。子供1人を育てるのにかなりのお金がかかるので、経済的に余裕があれば理想の人数が欲しいが、そんなに実際にはうまくいかないだろう。 ・（子育てには）戸建が欲しいが、都内で一軒家は無理なので、少し田舎、少し離れた場所の方が住みやすいかなと思っている。 ・子供を持つことを漠然と考えている人とかは情報のアンテナを張っていないと思うので、その辺の認知度を高めていった方が良い。
	5	20代	会社員等	ポジティブ	共働き	住み続けたい	欲しい	3人	0人	・アプリは、普通の生活では出会えない人と会える。自分の交友範囲にいない人達とも話せるため、新しい世界を見ることができると。 ・（結婚後も）自分は働き方を変えたくないで、相手にも好みにして欲しい。変化を強要したくない。 ・大学まで学費免除とか医療費免除とかを国がしてくれれば、もう少し子供を欲しいと積極的になる人がたくさん出ると思うし、結婚に対して明るいイメージを持っている人が増えると思う。子供が優秀なのに経済的な理由で学校に行かせられないのはとても不幸。全て国が補助するようになってもいいと思う。

東京都「令和 6 年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

グループ名 属性	番 号	年代	職業	主な質問回答 ※空欄は発言なし						主なコメント要旨
				結婚に 対する印象	結婚後の 働き方 ※未婚は希望	東京に 住み続けたいか	子供の 希望	理想の 子供の数	予定の 子供の数	
M4 未婚 交際中 男性	1	20代	会社員等	ポジティブ	共働き	住み続けたい	とても 欲しい	1 人	2 人	・相手は30歳手前で結婚したいと言っているが、自分が転職したばかりで、生活を安定させたいので、結婚はもう少し時間をかけたい。 ・相手は今が楽しそうだから、働き方は変えなくてよい。家事は相手が少しでもやってくれたら楽になる。自分が8、相手が2くらいで分担できれば良い。 ・相手が、体が強い方がいいので、子供を産む・育てるのが体力的に大丈夫が心配。東京は混雑しているので、パートナーが妊娠したら電車移動が心配。東京は田舎よりも人の温かみがない。犯罪も多い。仕事が変われば田舎でも良い。
	2	40代	会社員等	ネガティブ	共働き	とても 住み続けたい	とても 欲しい	2 人	2 人	・彼女の年齢的に、結婚をもうしないといけなところまで来ている。せざるを得ない待たなしの状態。 ・結婚すると収入が増える。（結婚しても）働き方は今まで通り。家事は現在自分もしているので、自分がメインでもいい。 ・職場と周りの理解が必要。産休育休の人をフォローするのが普通になってしまえばいい。産休・育休を取る女性の周囲の同僚も、キャリアアップのチャンスだと思えばいいと思う。
	3	20代	会社員等	ポジティブ	相手次第	とても 住み続けたい	とても 欲しい	1人以上	1～2 人	・結婚して恋人と幸せに暮らしたい。自分のためだけに頑張るのが段々としんどくなってきたので、誰かのために頑張ることで、生きる理由に繋がる。 ・自分もしたいようにするし、パートナーにも本人の働きたいようにして欲しい。本人がしたいようにしてくれるのが自分も幸せに感じる。 ・結婚・出産・育児への経済的支援が欲しい。奨学金などを借りている人は、世帯を持つのは厳しいのではないかな。 ・職場の理解が必要。育休制度は整っているが、残された人が業務が増えてしまっている現状があり、制度としてきちんと機能していない。
	4	20代	会社員等	ポジティブ	共働き	どちらとも 言えない	とても 欲しい	3 人	2～3 人	・自分は他人が好きではなく、1人が好きで、過干渉が嫌いな性格だが、彼女はそんな自分を受け入れてくれる。 ・そのまま働いて欲しい。子供ができれば、小さいうちはお互いに相談して業務量を調整したり、自分の時間を捻出できれば。現在同棲しているが、家事は自分の方が多くやっているため、もう少し相手に負担して欲しい。 ・2人目は努力次第3人目は育てる体力がないと大変そう。子育てや食事などちゃんと提供できるのか不安。子供が大学に行くなら都内の方が良い。
	5	20代	学生	ポジティブ	共働き	どちらとも 言えない	とても 欲しい	2 人	2 人	・（結婚、子育ては）ライフステージの1つ。子供ができれば楽しみが増えていく。 ・ライフスタイルを変えずに、今と同じように働いて欲しい。家事分担は半々くらいで分担できれば良い。 ・東京で子育てをすると、周りの価値観に左右される。都心のエリート層の考え方に影響されるより、地方で自分らしくのびのびと子育てをした方が良い。 ・1人で楽しめる娯楽がたくさんある環境においては、経済的負担を取り除くだけでは出会いを求めて結婚する人は増えないだろう。
F4 未婚 交際中 女性	1	40代	会社員等	ポジティブ	共働き	住み続けたい	とても 欲しい	1 人	0～1 人	・相手には自分にはない考え方があり、尊敬できるのが魅力的。自分を前向きな気持ちにして、気持ちを切り替えてくれる。 ・子供は、経済的・年齢的に厳しい。学費、特に習い事はどのくらいかかるのか不安。不妊治療は年齢的にもできず、出産は厳しい。 ・子供がいる人の仕事は他の人に回ってきてそれが当たり前だと上司が思っているのが不満。補填した分だけ、給料が少し上がるかと気持ちが違う。 ・自治体の補助などの情報を知るきっかけが欲しい。市町村の広報は見ない。電車の中の広告など、自分の生活の流れの中にあると見る。
	2	20代	会社員等	ポジティブ	共働き	住み続けたい	とても 欲しい	2 人	1人	・（結婚すると）将来と一緒に楽しめる人ができる。家族をつくりたい。 ・自分も転職したばかりで結婚をすぐには考えられない。 ・相手の残業は仕方ないので気にならないが、家事を手伝ってと言ったときにはして欲しい。子供ができれば、出社を遅らせるかもしれない。 ・全体的に給料が上がれば、共働きが減って、子育てする人が増えるのではないかな。
	3	30代	会社員等	ポジティブ	共働き	住み続けたい	とても 欲しい	1 人	1 人	・落ち込んでいるときに相手が慰めてくれて、プラス思考になれる。寂しくない。 ・仕事はしたいので、家事は分担したい。子供は経済的な問題で1人しか難しいと思う。具体的には、学費。 ・自分の名前を変えたくないから、夫婦別姓を浸透させて欲しい。 ・保育園に入りやすくして欲しい。そのために、保育士さんの働きやすい環境を作ったり、保育園を充実させると良い。
	4	20代	会社員等	ポジティブ	共働き	あまり住み 続けたくない	とても 欲しい	1 人	1人	・寂しくない。ずっと一緒にいたいと思う。ただ、自分が飽き性なので、アプリをしていると、もっと良い人があるのではないかと思ってしまう。 ・子供は2人以上だとお金がかかるし、体力的も大変だから1人。特に学費。自分が高校と大学で私立だった経験から学費は結構かかるイメージがある。 ・子供が熱を出すと、母親に連絡が来る。そうなる女性時は短勤務になつてしまい、キャリアに影響があるので産みたくないという人が増えてしまう。例えば、病院と保育園が提携して、病院が子供を引き取って診療し、親が病院で子供を受け取れるような制度ができれば良い。
	5	30代	会社員等	ポジティブ	共働き	住み続けたい	欲しく ない			・一緒にいて楽しいが、100%絶対に結婚したいというほどではない。結婚すると、安定・安心感がある一方で、自分の時間が縛られると思っている。 ・結婚までに同棲する期間が数年欲しい。性格はわかっていても、生活すると見えてくるものもあると思う。 ・相手に残業して欲しくない等はなく、好きに仕事をしてくれれば良い。自分も働き方を変える予定はない。 ・子育てをしたいと思わず、子育てができるとも思えない。知り合いが半数以上子供を持っているが、羨ましいと思わない。

東京都「令和6年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

グループ名 属性	番号	年代	職業	主な質問回答 ※空欄は発言なし						主なコメント要旨
				結婚に 対する印象	結婚後の 働き方 ※未婚は希望	東京に 住み続けたいか	子供の 希望	理想の 子供の数	予定の 子供の数	
M5 既婚 子供いない 男性	1	40代	会社員等		共働き	住み続けたい	どちらとも 言えない	0～1人	0～1人	・元々あまり子供を欲しくなかったが、これから年を取っていくにつれて、2人で過ごす時間も良ければ子供がいる生活も良いだろうと思うようになった。 ・収入が増えるような取り組みがあった方が良い。給料が上がらないという風潮が続いているので、子供を持ちたいという気持ちを持ちにくいのかなと思う。 ・子供を持つことで良いことをもっと示して欲しい。子供がいるとこんなに良いことがあるというのがわからない。それを知るきっかけがあると、やっぱり子供がいた方がい いんだという気持ちになるかもしれない。
	2	30代	会社員等		共働き	とても 住み続けたい	とても 欲しい	1人以上	1人以上	・マッチングアプリ経由で出会い、同棲して何とかなるとなり、次のステップとして結婚。思っていたより相手の親戚づきあいが深く、月1回は家族で食事。 ・子供は1人目はマスト。2人目を考えるのは1人目の辛さを味わったうえでこれでいけると思ったら。今はみんな中学受験をしようと思うので、結局それにお金がか かって、子供が1人いると資金繰りがきついなと思う。東京都での子育ては、お金が心配。 ・自分は一人暮らし経験があるので、平日は自分7、妻3。2人とも出社のため、育児の割合であれば、妻6、自分4が理想。
	3	30代	会社員等		共働き	どちらとも 言えない	とても 欲しい	1人	1人	・マッチングアプリ経由で出会った。女性にあまり無理して欲しくないのので、子供は嫌だと言われたら諦める。妊娠に関わる費用に不安がある。妻がいわゆる無痛分 娩を希望していて、結構かかりそうだというイメージ。 ・育児等々を取った上でどのくらいちゃんと育児に参加できるのか、自分でイメージできていない。SNS上で夫に対する妻の不満を見かけるため、そういう風にならない ようにと思うができるか不安。保育園や幼稚園に通えるかも不安。
	4	40代	会社員等		共働き	とても 住み続けたい	欲しい	多く	1人	・当時いた会社で出会って、なんとなく付き合いた。相手は面白く、自分の老後や残りの人生に面白い相方がいたほうが良いと思った。 ・自分は全く家事をせず全て配偶者がしている。自分、妻10。元々、生活に占める家事時間が少ないようにしている。なるべく0にしたい。自分が週3出社で週 2リモート、配偶者がフルリモートのため、妻が10、自分が0が理想。
	5	20代	会社員等		共働き	住み続けたい	とても 欲しい	2人以上	2人以上	・残りの人生つまらなくなっていく一方なので、子供という刺激くらいはあった方が良くと思う。2人以上欲しい。産む時の痛みを相手が心配している。 ・東京での子育てはお金が心配。広い家にも住みたいが、東京都では無理。子供が2人いても狭くない家に住めるのか不安。 ・妻が今の会社で産休後に復職できるのか。子供がいても転職できるのか、子供で正社員で雇ってくれる会社はあるのか不安。 ・仕事との両立。子供がネックになって、転職できないなどの不安がある。子供がネックになるような評価や風潮が変われば良い。
F5 既婚 子供いない 女性	1	40代	会社員等		共働き	住み続けたい	欲しく ない			・配偶者は、会社の同僚。寮から出ないといけないうタイミングで同棲。その時の自身の年齢から、彼を逃すと婚期が遅れると思った。 ・産むのが辛そう、怖い。子供の人生に干渉・束縛してしまいうで怖い。逆に自分も苦しくなってしまうので、子供も自分も幸せにならないなら子供はつらない方 が良い。 ・地方に住んでいたが、自然が多く空気がきれい環境がよかった。子供ができれば自然豊かなところで伸び伸び育てたい。
	2	20代	会社員等		共働き	とても 住み続けたい	とても 欲しい	3人	2人	・夫は不満かもしれないが、家事の割合は自分5、夫5で現状に満足。お互いのスケジュールを見て、手の空いた方がする。 ・自分は兄弟もいなくて、結婚をして家を出たため、旧姓の家系は途絶えたので、子供くらいは産まないとなという使命感がある。 ・23区の子育て支援が充実していると職場の先輩から聞いている。東京に住んで、子育てには悪いことはないと思う。 ・子連れに対する態度が寛容的でないと感じる。他人の子供に対して優しくない。
	3	30代	会社員等		共働き	住み続けたい	とても 欲しい	2人	1人	・子供は夫婦になったからこそできる、幸せのかたち、夫婦の証のようなもの。夫の遺伝子を残したい。 ・仕事が互いにシフト勤務で固定休がないので、産休育休の後に会社に戻って育児等ができるのか不安。東京は子育て制度が整っているので、周囲からなんとし ても東京にいた方が良くと言われる。戸建の場合、東京では経済面で辛い。経済面で辛い思いをしてまで、東京に住む必要があるのかと思う。 ・出産できるのは女性だけ。出産・育児の女性のプラン期間は周囲からフォローされるべき、というような時代に合わせた教育をした方が良くと思う。
	4	40代	会社員等		共働き	とても 住み続けたい	とても 欲しい	2人	1人	・（結婚前に）借金があることを告げられた。家族にも相談したが、結局自分が一括で返済し、少しずつ返してもらうことにした。 ・自分が8で夫が2の家事分担。理想は夫がもう少ししてくれたら良いと思う。 ・夫婦ともに子供が欲しい。子供をつくらずに家系を途絶えさせるのは申し訳ないの、子供をつくるのに使命感を感じている。夫が多忙なので、子育てがすべて自 分にかぶってくることにうで大丈夫が不安。
	5	30代	専業主婦		片働き （妻は専業 主婦）	住み続けたい	とても 欲しい	2人	0～1人	・高度治療でなく初期段階の不妊治療しかしていないが、妊娠は難しいと感じている。年齢も考えた時、子供を2人つくるのは難しい。 ・自分は10で夫は0。自分が仕事をしていない現状では満足。理想は自分が5夫が5、または自分が6夫が4だが、自分が仕事をしているかどうかによる。 ・結婚は、自分の自由な時間がなくなるイメージがあり、慎重になりすぎて結婚に踏み切れなかった。実際は、結婚しても自分の時間があって、友達とランチに行っ たり、ポジティブ。結婚や出産についての具体的なケースなど、もう少しいい塩梅を教えて欲しい。

東京都「令和 6 年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

グループ名 属性	番号	年代	職業	主な質問回答 ※空欄は発言なし					主なコメント要旨
				結婚に 対する印象	結婚後の 働き方 ※未婚は希望	東京に 住み続けたいか	子供の 希望	理想の 子供の数	
M6 既婚 子育て中 男性	1	40代	会社員等		共働き			4人 (4)	・現状（子供4人）でベスト。流産を2回経験しているので、特に安定期に入るまでは家事育児を100%やるくらいの勢いでやらないと。その体力と、仕事しながら妻をケアする余裕がないと、子供を持つのは難しい。 ・家事分担は自分1割、妻9割。育児分担は、勉強などを含めると9割くらいは自分。0-2歳までは妻が7自分が3くらいだった。 ・男性の育児休業は少なく、自分もなかなか取れない。稼ぎ頭の男性の給料が4割になると困ってしまう。補助金が足りない。
	2	40代	会社員等		共働き			1人 (1)	・転職で収入減となり、結婚時期が少し延びた。 ・最初の子が流産。今の子は早産で3日くらい促進剤を使用して地獄の苦しみだったので、もう絶対1人。妻の実家が望んで近くに来てくれており、経済的な支援ももらっている。それが無かったら育てていける自信があまりない。 ・少し古めのちょっと広いアパートだが、家賃で結構持っていける。今の児童手当の金額は、自分の収入だと厳しい。税金が安くなる方が良い。
	3	40代	会社員等		片働き (妻は専業主婦)			2人 (1)	・妻が産後鬱になった。また、上の子が男の子で子育てが大変なので、妻が1人しか嫌と言っている。 ・土日や夜間に子供を連れて行ける病院を増やして欲しい。土曜日曜に午前中しかやっていないので困ることがある。 ・住宅の価格が高すぎる。賃貸は広いところがありませんので子育てとなると家を買うしかないがとても高い。その辺の補助関係がもっと充実すると良い。 ・妻が地方出身なので知り合いが全然いない。気軽に相談できるところや他のママさんと交流できる場所があればと思う。
	4	40代	会社員等		片働き (妻は専業主婦)			3人 (1)	・子供1人は妻の意向。自分は3人でもいいと思っている。出産に立ち会ってすごく辛いようだった。自分からは強制できないので1人。 ・子供の医療費が無料で助かる。税の面で優遇がもう少しあると良い。子育て控除のようなものがあれば、働きやすくなる。 ・近くに親が住んでいない人に子供をもう少しケアしてくれるところがあると、もしかしてもう少し子供を産めるかもしれないと思う。 ・妻が外国人なので、多言語、せめて英語で子育てでもフォローしたり相談ができるところがあれば良い。
	5	30代	会社員等		共働き			3人 (1)	・将来の教育費や住居費が気になる。現実的なことを考えると2人。3人だとそれなりの広さの住居が必要。 ・本当はもっと家事育児をやりたいが、仕事の量をなかなか減らせない。会社内の評価に影響する。リモートワークだが、割と忙しく、なかなか理想と違う。 ・地方と比べると東京は単純に出産費用が高かった。行政の補助費より高く、足が出た。東京は補助がある方だと思うがそれでも保育園の補助があると良い。電車でベビーカーを置くスペースがなく、優先席の長時間使用も厳しい。駅のホームも移動しづらい。
F6 既婚 子育て中 女性	1	40代	会社員等		共働き			1人 (1)	・当時は年齢的に結婚を焦っていたため、結婚を前提に付き合いたいと願っていた。いざとなると本当にこの人でいいのかという人間的な不安があった。 ・育児は、夫の単身赴任で、ずっと一人でワンオペのため大変。住宅ローン、老後資金などお金全般が心配。子供の教育費も心配。 ・学童の費用を補助してほしい。基本は18時までで、延長で19時まで見てくれるが、19時過ぎるとどうなるんだろうと不安。 ・給料が上がって生活の質が上がれば、結婚・子育ての両方がしやすくなるだろう。
	2	30代	専業主婦		片働き (妻は専業主婦)			1人 (2)	・長男がわんぱくで大変だったため、2人目は考えられなかったが、実家から女の子をという圧があり、産まざるを得なかった。教育費が心配。特に習い事。 ・夫は、朝から夜まで仕事で、土日は昼まで寝てるので、家事は全部自分。夫の方が頭が良いので教育的育児は夫にして欲しい。 ・電車でベビーカーをためよという圧で見られているママを見ると、荷物も多いのに可哀想だと思う。子供が走り回っているくらいで苦情を受ける。子供を守って欲しいし、遊びやすいところがあると助かる。
	3	30代	会社員等		共働き			1人以上 (1)	・子供はもっと欲しい。子供をまた産むことに障壁はなく、時期は考え中。 ・家事は自分が好きにやりたいので、夫に手を出してもらいたくなく、やって欲しいと思わない。育児は、平日は育児中の自分が、土日は夫に任せている。 ・居住区（23区）では、シッター助成が充実しているのでありがたい。出産応援祝い金（出産応援ギフト）は、有難かった。
	4	30代	会社員等		共働き			2人 (1)	・夫が奨学金を借りており、結婚1年目は私のお金で生活していた。 ・家事は、夫と自分が年収が一緒なので、できる方が半々ずつ。育児は、自分が出張が多く、夫がほとんどを担当。 ・子供の医療費が無料で助かる。働いていなくても子供を預けられる。保育料が安い。 ・小1の時は8時から12時までしか学童で預かってくれなかったので、お弁当を作る必要があった。学童でもお弁当や給食を出してくれれば良い。
	5	30代	専業主婦		片働き (妻は専業主婦)			3人以上 (3)	・子供はもっと欲しい。第一子を産んだ後に、2歳差までにすぐに欲しいと思った。もう1人産んでもよかったかもしれない。 ・土日は家事・育児を夫にもらっている。ルールは決めていない。今のままでいい。 ・働いていなくても月2万円の助成金をもらい、0、1、2歳は（保育所に）預けられる。ワンオペでも子育てしやすい。 ・子育てでセミナーをやっている。子育てに関する無償セミナーに行ったのが良かった。いろいろな家庭環境を見て、選択肢を持てるのが大切。

有識者等からの意見聴取の概要

令和5～6年度にかけ、社会学や人口学、経済学、雇用・労働等、幅広い分野の有識者等19名を対象に個別ヒアリングを実施

(敬称略・50音順)

天野 馨南子	(株)ニッセイ基礎研究所生活研究部 人口動態シニアリサーチャー
宇南山 卓	京都大学経済研究所教授
鎌田 健司	明治大学政治経済学部准教授
是枝 俊悟	株式会社大和総研金融調査部主任研究員
坂元 晴香	聖路加国際大学公衆衛生大学院客員准教授
柴田 悠	京都大学大学院人間・環境学研究科教授
白河 桃子	相模女子大学社会起業研究科（専門職） 大学院特任教授
杉本 浩二	公益財団法人ハイレイフ研究所上席研究員
田中 俊之	大妻女子大学人間関係学部社会学専攻准教授

筒井 淳也	立命館大学産業社会学部教授
中里 透	上智大学経済学部准教授
藤波 匠	株式会社日本総合研究所上席主任研究員
藤原 豊	公益財団法人ハイレイフ研究所専務理事
増田 幹人	駒澤大学経済学部経済学科准教授
松田 茂樹	中京大学現代社会学部教授
水野 圭子	法政大学法学部法律学科講師
麦山 亮太	学習院大学法学部政治学科准教授
村上 芽	株式会社日本総合研究所 創発戦略センターチーフスペシャリスト
山田 昌弘	中央大学文学部教授

※肩書については令和6年7月末時点のもの

有識者等からの意見聴取の概要

人口、世帯 等

- 都は、進学や就職で全国から未婚者が集まり、結婚、子育てを機に隣県に移る人も多く、合計特殊出生率が低く出る傾向
- 合計特殊出生率は移民割合の僅少な日本ではあくまでもマクロ指標として有効。計算対象となる若年人口の大きな人流を伴う自治体単位のミクロ指標としては高低比較は無効
- 東京の人口構造自体は若く人も多く、出生率上昇のポテンシャルは高い
- 都は、若い世代、特に若い女性が就職のために多く集まっている。若年女性雇用の充実と生涯を通じた自立力を高めることで若者に選ばれる都市であって欲しい
- 最近では男女とも結婚相手に経済力を求める傾向が顕著
- ほぼすべての人が結婚していた時代は、高学歴の人は晩婚傾向で出生率も低かったが、最近では、夫婦ともに高学歴で正規社員のように雇用が安定している方が有配偶率が高く、例えばパワーカップルのような方々が都心のマンションを購入し子供を2人程度持つようなパターンも増えていることから、都心での出生率が比較的高い

少子化の要因

- 日本の少子化の大きな要因は未婚化・非婚化。特に東京は、未婚率が高く、晩婚傾向で、20代での出生率が低い傾向
- 全国レベルで結婚行動と夫婦の出生力の要因を分析した結果、結婚行動の変化が出生率低下に大きく寄与
- 婚姻数、特に初婚同士の婚姻件数の低下が問題
- 少子化の要因を分解してみると、近年は有配偶出生率が出生数を押し下げていることが分かる。結婚している人も出生意欲が低下していることを示唆している
- 退職によって失う生涯賃金が大きく、女性にとって結婚や出産がリスクと受け取られている
- 若い世代の不安定な雇用状況と低い年収でそもそも結婚できないこと（未婚化）が少子化の大きな要因
- 子育て費用の高さが一番重要な問題、東京は子育て費用の高さが際立っている
- 子供のいる人だけでなく、結婚していない若年層に対する働き方改革が必要
- 進学や就職に伴う未婚女性の流入により、都市部の合計特殊出生率は低めに出る傾向がある
- 合計特殊出生率を用いて地域差を論じる場合には、自治体間での人口移動の影響があることを十分に認識する必要がある

出会い・結婚

- お見合い文化がなくなった結果、生涯未婚率が上がったという分析もある。結婚支援を自治体ですべてやっていくというのは一定の意味がある
- 行政だけでなく、民間企業とも協力しながら行うべき。また、区市町村単位で個別に取り組むことに加え、広域的に連携して対応すべき

妊娠・出産

- 晩産化が緩やかに進んでおり、不妊治療など生殖補助医療についてサポートしていく必要
- 生殖補助医療に取り組む女性は、仕事との両立に困難を抱えており、このケアが大事
- 男性が原因の不妊について啓発を進めるべき

子育て期の支援

- 保育所の整備は非常に有効な少子化対策。保育所整備が進んでいる都道府県ほど就業継続率が高い傾向
- 2015年頃から被扶養者（専業主婦等）世帯の出生率が低下し始めている。在宅育児世帯、特に子供が小さい時期への支援が必要
- 保育所や学童保育所の待機児童問題について、引き続き、対処していくことが大事
- 共働きの多い地域では保育園拡充、パート勤めや専業主婦が多い地域には孤立防止支援や在宅支援等地域に応じた支援が重要
- 地域の若い夫婦に支援をするNPO等の取組に対して補助するののも一つの手段
- 学童クラブの整備は親の働き方や女性の就労継続という面で重要

教育・住宅

- 都特有の事情として、教育費及び住宅費の高さがある
- 日本、シンガポール、韓国等のアジアと欧州を比較した場合、1人目を産んだ人が2人目を産むハードルが高い要因は教育費
- フランスは公立中高大が中心。大学進学率は3割程度で、代わりに職業資格や国家資格など専門的なコースがある
- 住宅支援は、2人3人の子供を持つ際、スペース制約への解決につながるのでインパクトがある
- 通勤の利便性の高い住宅が必要

有識者等からの意見聴取の概要

就労環境

- 昔は若い時に貧しくても収入向上が見込めたが、現在では所得の向上が見込めず、物価上昇や社会保障費の高騰とあいまり、今は将来展望が描けず、結婚や子供を持つことに躊躇する状態にある
- 要因分析が導く少子化対策は、若年層の描くライフデザインにそった雇用環境の形成
- 非正規から正規に転換していく際には、成長分野への人材移動が必要であり、リカレント教育の視点が重要
- 男性の長時間労働は1980年代後半から社会問題化してきたが、解消が叶っていない
- 出産等のタイミングで仕事を辞めた人の再就職支援が少ない。再就職をうまくサポートできるような仕組みが必要
- 男性の長時間労働が改善され、家事・育児を男女共同で行うことで女性の社会進出がしやすくなる。それによって、家族を形成する上での経済的な不安が軽減され、結婚への不安や躊躇が解消される

職場環境

- 男性も女性も働きやすい労働環境整備を進めることが重要
- 若い女性の正規雇用率は高くなっているので、出産等をきっかけに辞めずに済む環境整備が重要
- 男性育業はインパクトが大きい。国の制度が整ったので、男性の家事育児分担に繋がる取組を工夫する必要
- 2010年代からの両立支援は効果があり、出生率を高めていると考えられる
- フランスは、育業も出産時休暇も短時間の取得が可能。例えば、5時間育業を取得して3時間働くことも可能
- テレワークと部分就業を組み合わせれば、引継ぎがよりスムーズになり、取りにくい雰囲気も減る
- キャリアは途切れてしまうと戻るのが非常に困難。切れ目なく仕事を続けるという観点からもテレワークは重要
- テレワークの推進等を通じ、高いポテンシャルを持つ地域を活かしていくべき
- 都自ら働きやすい環境整備を進め、ロールモデルとなるべき

社会気運・環境整備

- 都には若い世代が多いので、子育てしやすい街、子育てにフレンドリーな街になることを期待
- 行政や地域等、周りの人が子供を歓迎していて、皆でサポートしていくというメッセージが必要
- 人手不足で子育て支援に力を入れる企業に人が集まるようになってきた。大企業だけでなく中小企業にも広がると良い
- 男女格差の解消が、出産結婚に対して前向きになり、社会の寛容さの広がりにつながっていく
- 出産・育児だけでなくライフステージを通じて支援を継続し、長く子供・子育てをサポートするメッセージが大事
- 子育て応援車両等、子育てスペースの整備で子育ての心理的負担を軽減できる
- 男性も育児中心でいこうという掛け声と、実際にそうした男性が社会でどう評価されるかに乖離がある
- 未婚者に対して子育て支援策などを情報発信して、認知してもらうことは結婚を前向きに考えてもらうことにもつながる

行政の役割

- 都が先進的な政策を全国に先駆けて行うことは意味がある
- 区市町村と一緒にやっていく、または取組を支援する必要がある
- 少子化対策が自治体間での競争にならないよう、国は良い取組を国全体で保証していく必要
- 少子化対策は都市レベルでは注目されず、子供政策や移民対策などがメインとなっている

要因分析、効果検証

- 東京出身者と転入者のライフコースの違いについて分析が必要
- 雇用状況、収入、共働き率等、地域によって状況が違いため、地域ごとに把握することも重要
- 所得階級、持ち家の有無、女性の就業状況など、どのような世帯で出生が生じているか把握すべき
- 効果検証については、合計特殊出生率、出生数や未婚率などの定量的な指標に加え、子育ての負担に対する意識の変化や住民満足度などの定性的な指標も大事
- 施策や制度は為されてから5年から10年で効果が出る。ある程度の時間差を考慮して、影響を見ていくべき
- 幅広い施策の実施がプラスの効果を与える